

茨城県教育財団文化財調査報告第262集

羽^は黒^{くろ}遺跡 2

一級河川女沼川河川改修工事事業地内
埋蔵文化財調査報告書 2

平成 18 年 3 月

茨城県境土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、21世紀の社会を展望し、福祉・医療・健康増進・生きがいづくり等の機能を備えた、県民の誰もが安心でき、充実した生活をおくることができる「人にやさしいまちづくり」を計画しております。

一級河川女沼川河川改修工事事業は、古河市（旧総和町）釈迦地区、前林地区、水海地区にかけての水害被害の緩和を目的として計画されたものであり、その予定地内には埋蔵文化財包蔵地である羽黒遺跡をはじめとして、数多くの遺跡が確認されております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県境土木事務所から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け、平成12年11月～平成13年2月、平成13年10月～12月、平成17年1月～3月にかけて羽黒遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は、すでに当財団の文化財調査報告第202集「羽黒遺跡」として刊行しております。

本書は、平成16年度の調査成果を収録したもので、本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県境土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、古河市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例 言

- 1 本書は、茨城県境土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成16年度に発掘調査を実施した、茨城県古河市（旧猿島郡総和町）前林字東沼縁り1456番地ほかに所在する羽黒^{はぐろ}遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調 査 平成17年 1月 1日～平成17年 3月31日
整 理 平成17年11月 1日～平成18年 2月28日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 吉原 作平
主任 調 査 員 石川 義信
主任 調 査 員 高野 裕璽
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、主任調査員石川義信が担当した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第 1 系座標を原点とし、 $X = +15,880\text{m}$ 、 $Y = -8,040\text{m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は日本測地系による基準点であり、抄録には世界測地系に基づく緯度・経度を () を付して併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。





大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C..., 西から東へ 1, 2, 3... とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c...j, 西から東へ 1, 2, 3...0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S I - 住居跡 S B - 掘立柱建物跡 S H - 方形竪穴遺構 S K - 土坑 S E - 井戸跡
S D - 溝跡 P - 柱穴 K - 攪乱
遺物 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品・古銭
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は縮尺300分の1とし、各遺構の実測図は縮尺60分の1、または80分の1で掲載した。
(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土、赤彩・施釉		炉、火床面、火熱痕、繊維土器断面	
	竈材・粘土、炭化材、黒色処理		柱痕跡、煤、油煙	
土器	土製品	石器・石製品	金属製品	-----硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構一覧表及び遺物観察表の表記は次のとおりである。

- (1) 計測値の () 内の数値は現存値を、[] 内の数値は推定値を示した。遺物観察表の計測値の単位は、cm, g で示した。
(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 「主軸」は、炉又は竈を持つ竪穴住居跡についてはそれらを通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸(径)方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

抄 録

ふりがな	はぐるいせきに								
書名	羽黒遺跡 2								
副書名	一級河川女沼川河川改修工事業地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次	2								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第262集								
著者名	石川義信								
編集機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310 - 0911 茨城県水戸市見和 1 丁目356番地の2						TEL 029(225)6587		
発行日	2006 (平成18) 年 3月24日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
はぐるいせき 羽黒遺跡	いばらき けん こが し まえ 茨城県古河市前 ばやし あざ ひがし ぬま へ 林字東沼縁り ほんち 1456 番地ほか	08204 - 541038	36度 8分 27秒 〔 36度 8分 38秒〕	139度 44分 47秒 〔 139度 44分 37秒〕	13m ~ 14m	20050101 ~ 20050331	1,700㎡	一級河川女 沼川河川改 修工事業 に伴う事前 調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
羽黒遺跡	集落跡	奈良	竪穴住居跡	7軒	土師器, 須恵器, 石器 (砥石), 金属製品 (刀子, 釘), 鉄滓				
		平安	竪穴住居跡	5軒	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 石器 (砥石), 鉄滓				
	その他	縄文	包蔵地			縄文土器			
		中・近世	火葬土坑	1基					
		時期不明	方形竪穴遺構	1基	井戸跡	9基			土坑
要約	縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡である。古墳時代後葉から奈良・平安時代を中心に集落が形成されていた。中・近世には、墓域となっていた可能性が考えられる。								

目 次

序

例言

凡例

抄録

目次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 奈良時代の遺構と遺物	10
(1) 竪穴住居跡	10
(2) 掘立柱建物跡	26
(3) 方形竪穴遺構	34
2 平安時代の遺構と遺物	40
(1) 竪穴住居跡	40
(2) 掘立柱建物跡	50
3 その他の遺構と遺物	51
(1) 方形竪穴遺構	51
(2) 火葬土坑	54
(3) 井戸跡	55
(4) 土坑	60
(5) 遺構外出土遺物	67
第4節 まとめ	70

写真図版

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

古河市^註（旧総和町）南部は、利根川に接し、標高10～11mの低湿地帯が広がり、従来から排水状態が悪く、河川の氾濫や豪雨にともなう浸水の被害が後を絶つことはなかった。こうした状況を打開するために、この地域では干拓・耕地整備事業と共に、洪水対策や河川改修工事業に力を注いできている。そうした中、茨城県は、茨城県境土木事務所を事業主体として、「一級河川女沼川河川改修工事業」を計画した。

平成9年、茨城県境土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一級河川女沼川河川改修工事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会し、平成9年9月17日には、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成11年5月26日に現地踏査を、平成12年1月20・21日に試掘調査を実施し、事業地内に羽黒遺跡が所在する旨回答した。さらに、茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、茨城県境土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成16年1月15日、茨城県境土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一級河川女沼川河川改修工事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成16年2月3日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県境土木事務所長あてに、羽黒遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県境土木事務所から埋蔵文化財発掘調査について委託を受け、平成17年1月1日から平成17年3月31日まで、羽黒遺跡の発掘調査を実施することとなった。

註) 現古河市は平成17年9月12日に旧古河市、旧総和町、旧三和町が合併し誕生した。本報告書では、古河市は現古河市を指し、合併前の三市町を指す場合は旧古河市、旧総和町、旧三和町と旧をつけて区別した。

第2節 調査経過

調査は、平成17年1月1日から平成17年3月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

工程	期間	1 月	2 月	3 月
調査準備 表土除去 遺構確認		■		
遺構調査			■	
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■	
補足調査				■
撤回				

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

羽黒遺跡は古河市前林字東沼縁り1456番地ほかに所在している。羽黒遺跡が所在する前林地区は旧総和町の南部に位置している。

旧総和町の地形は、猿島台地と、利根川に沿ってできた沖積低地で構成されている。

猿島台地は田川と姿川・思川に挟まれた宇都宮市から五霞町に至る台地（宝木段丘面）の南部で、思川と西仁連川に挟まれた台地である。さらに、この台地は、利根川や江戸川を隔てて下総台地に接している。旧町域の台地は、標高は12mから25mと、ほぼ平坦であり、北部が高く南部に向かって緩やかに低くなっている。なお、町内の台地のほとんどは、宅地や商業地、工場用地、畑地、植林された平地林として利用されている。

旧町域の南部に広がっている低地は、利根川及び中小河川によって開析された沖積低地である。旧総和町域には、東流する利根川をはじめ、利根川に注ぐ4つの河川がある。旧古河市との境界を流れる向掘川、中央部を流れる女沼川、東部を流れ下流で境町との境界となっている宮戸川、旧三和町との境界となっている大川である。それらは、いずれも台地を開析する小河川であり、現在は農業用水が整備され、それらに沿った低地は水田として利用されている。

利根川は、かつては常陸川と呼ばれ、古河市近辺の大山沼・釈迦沼・水海沼・長井戸沼などを水源とし、鬼怒川・印旛沼・手賀沼などの水を集め、霞ヶ浦・北浦へ注いでいた。その後、近世初頭の「利根川東遷」と呼ばれる大規模な河川改修工事により、旧利根川水系と連結し、関東平野の中央部を西から東へ貫流し太平洋へ注ぐ、現在の利根川の形ができた。なお、「利根川東遷」後の利根川の主流は江戸川筋で、現在のように主流が銚子方面へ向かうようになったのは明治以後である。

地質を見ると、猿島台地は、下部から成田層、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層を基盤層として、その上部に関東ローム層が堆積している。低地では多くの場合、浸食のためローム層や常総粘土層が欠失し、代わって沖積層が谷地を埋積している。

調査区は、標高13mほどの女沼川左岸に位置しており、遺跡は南東側の耕作地にも広がっている^{註)}。対岸から見ると、当遺跡が台地の平坦部から釈迦沼低地へ緩やかに移行する台地の縁辺部に立地していることがわかる。

なお、女沼川の河床の標高は、調査区及び当遺跡が広がっている耕作地よりも高く、天井川となっている。

註) 羽黒遺跡確認調査団（西宮一男他）「羽黒遺跡確認調査報告」総和町教育委員会 1997年3月

第2節 歴史的環境

羽黒遺跡は、第1次調査（平成12年度）及び第2次調査（平成13年度）により、旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡であることが明らかになっている。羽黒遺跡の所在する旧総和町では、現在、141か所の遺跡が確認されている¹⁾。それらは、各時代を通じて、旧総和町内を流れる各河川の流域及び旧水海沼・釈迦沼周辺の台地の縁辺部に位置している。ここでは、当遺跡周辺の主な遺跡について時代別に述べる。

旧石器時代の遺跡は22か所確認されており、宮戸川流域に多く確認されている。香取西遺跡^{かとりにし} 2 では、3地点で後期旧石器の調査が行われ、A地点で14点の焼礫による礫群、B・C地点で凝灰岩製の礫が検出されている²⁾。行屋西遺跡^{ぎょうやにし} 3 では、角錐状の石器などが層位的に出土している。権現久保遺跡^{ごんげんくぼ} 4 では、ナイフ型石器や、細石刃核、細石刃などが採集されている。当遺跡^{あつ} では第1次調査で細石刃核1点が表土中から出土したため、出土地点周辺の調査を行ったが、共存する石器群は検出できなかった³⁾。

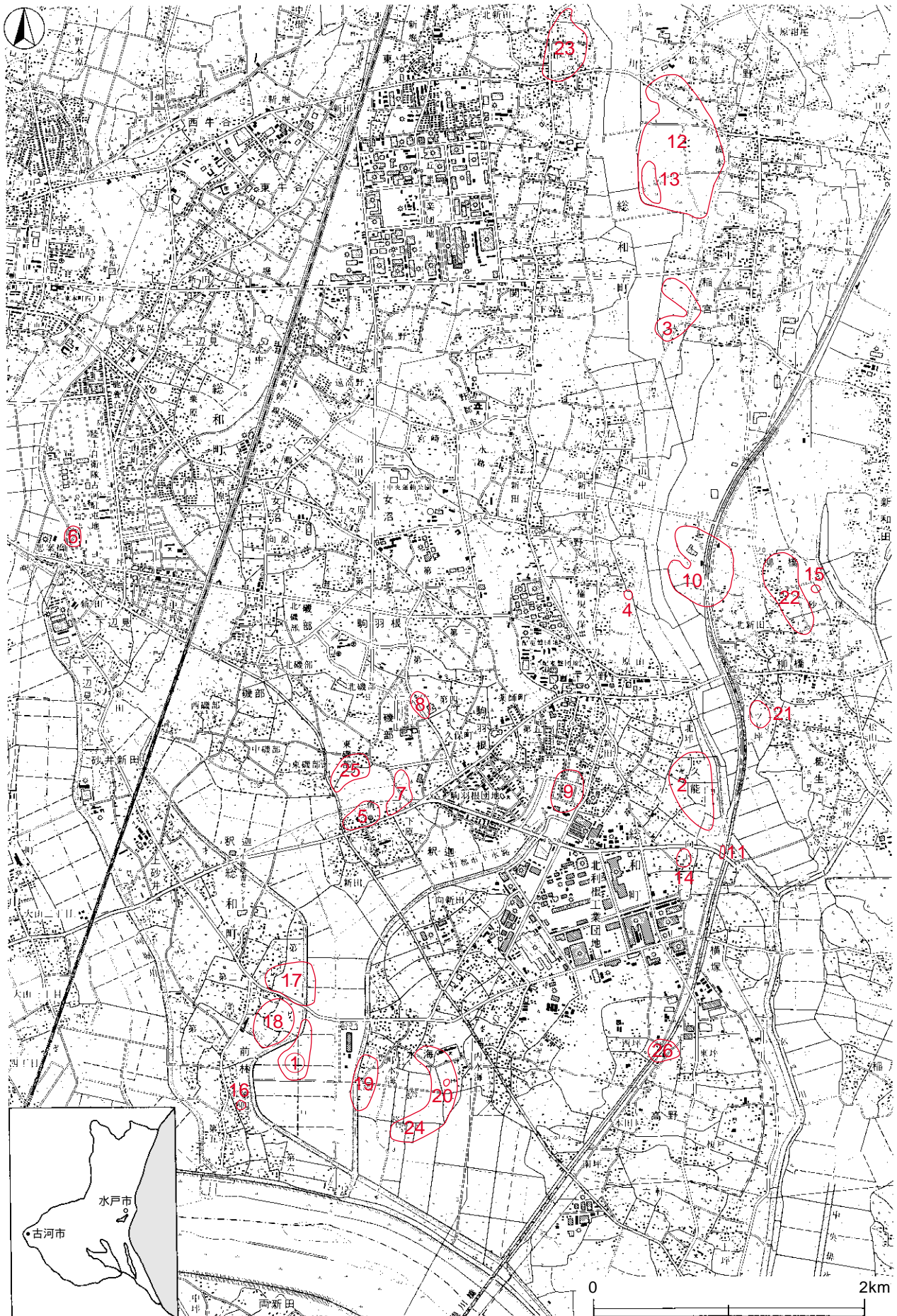
縄文時代の遺跡は、74か所が確認されており、同様に、宮戸川流域に多く確認されている。時期別すると、早期19、前期37、中期19、後期36、晩期14と、前期と後期の遺跡が多い。釈迦才伝遺跡^{しゃかさいぶつ} 5 は、中期後葉から晩期中葉まで継続して営まれた集落であったことが明らかになっており、土製仮面や土偶、石棒など祭司に関わる遺物が出土している⁴⁾。思案橋遺跡^{しあんばし} 6 は、土器の出土量が大量であることから、後期前葉から晩期後葉まで連続的に営まれた大集落であった可能性が指摘されており、ミミズク型土偶が出土していることが特筆される。大橋B遺跡^{おおはし} 7 ・駒羽根遺跡^{こまはね} 8 でも住居跡が確認されている⁵⁾、⁶⁾。当遺跡^{あつ} でも、第1・2次調査で、前期の住居跡が2軒確認されている。

弥生時代の遺跡は、他の時代に比べて著しく少なく、19遺跡が確認されているだけである。久能西原遺跡^{くのうにしはら} 9 では、後期の竪穴住居跡が2軒確認されている。

古墳時代の遺跡は、現在98か所確認されており、大幅に増えている。前期では当遺跡^{あつ} をはじめ、釈迦才伝遺跡^{しゃかさいぶつ} 5、北新田A遺跡^{きたしんでん} 10、香取西遺跡^{かとりにし} 2 などがある。釈迦才伝遺跡では方形周溝墓が確認されている⁷⁾。旧総和町内の遺跡全体を見ると、前期から中期へ継続する遺跡が少なく、中期前半に一度断絶する様子が見える。当遺跡においても、前期の住居跡14軒に対して、中期前半の住居跡は2軒しか確認されていない⁸⁾。中期後半になると、再び集落が形成され、向坪B遺跡^{むかいづぼ} 11 では、住居跡が2軒確認されており、そのうち第1号住居跡からは子持勾玉1点、勾玉10点、白玉3570点が出土している⁹⁾。北新田A遺跡では、5世紀後半に位置づけられる住居跡が13軒確認されている¹⁰⁾。後期では、当遺跡の他、本田山遺跡^{ほんでんやま} 12、北新田A遺跡^{きたしんでん}、久能西原遺跡^{くのうにしはら} 9、香取西遺跡^{かとりにし}、駒羽根遺跡^{こまはね} 8などで遺構や遺物が確認されている。当遺跡では、住居跡が2軒確認されている。古墳及び古墳群は9か所確認されており、本田山古墳群^{ほんでんやま} 13で7基、向原古墳群^{むかいばら} 14で3基の円墳が確認されている。向原古墳群の第2号墳からは直刀が出土している。また、弁才天古墳群^{べんざいてん} 15（現在は2号墳のみ残っている）の1号墳からは直刀もしくは刀子が出土している。さらに、台古墳群^{たい} 16（現在はすべて消滅している）では、大正時代に須恵器、太刀、馬具などが発見されている。

奈良・平安時代の旧総和町は、下総国の北西端に位置し、猿嶋郡に含まれていた可能性が高いと考えられている。北は下野国、東は常陸国、南西は武蔵国、北西は上野国に囲まれた要地であった。遺跡は78か所が確認されており、縄文時代や古墳時代と並んで多く、ほとんどが前代から継続する複合遺跡である。分布を見ると、旧釈迦沼や向掘川、宮戸川に面した台地の縁辺部から平坦部に多く確認されている。旧釈迦沼周辺では当遺跡^{あつ} をはじめ、日下部遺跡^{くさかべ} 17、笹山遺跡^{ささやま} 18、三島前遺跡^{みしまえ} 19、水海城跡^{みずうみ} 20、神明西遺跡^{しんめいにし} 24、宮戸川流域では本田山遺跡^{ほんでんやま} 12、行屋西遺跡^{ぎょうやにし} 3、北新田A遺跡^{きたしんでん} 10、香取西遺跡^{かとりにし} 2、萩山B遺跡^{はぎやま} 21、弁才天遺跡^{べんざいてん} 22 などがある。当遺跡では住居跡が25軒¹¹⁾、本田山遺跡、香取西遺跡、萩山B遺跡、弁才天遺跡では鉄製品の生産に係る遺構や遺物が確認されている。

古代・中世においては、利根川の流れは、東京湾に注ぐ旧利根川水系と旧総和町域付近を水源とする常陸川水系に分かれており、関東平野の河川交通路において、利根川水系は南北の幹線、常陸川水系は東西の幹線であったと考えられている。そして、両水系を陸路で結ぶ位置にある下総国北西部地域は、水陸交通の要衝であったとも考えられており、旧総和町域も含まれている。旧釈迦沼を挟んで当遺跡と向かい合う位置にある水海地



第1図 羽黒遺跡周辺遺跡分布図

表1 羽黒遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平			中近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平
	羽黒遺跡						14	向原古墳群						
2	香取西遺跡						15	弁才天古墳群						
3	行屋西遺跡						16	台古墳群						
4	権現久保遺跡						17	日下部遺跡						
5	釈迦才仏遺跡						18	笹山遺跡						
6	思案橋遺跡						19	三島前遺跡						
7	大橋B遺跡						20	水海城跡						
8	駒羽根遺跡						21	萩山B遺跡						
9	久能西原遺跡						22	弁才天遺跡						
10	北新田A遺跡						23	小堤城跡						
11	向坪B遺跡						24	神明西遺跡						
12	本田山遺跡						25	香取東遺跡						
13	本田山古墳群						26	西坪A遺跡						

区には、猿嶋郡衙が所在した可能性が指摘され、周辺が当代において重要な地域であったと考えることができる。

平安時代末期から中世にかけての遺跡は、古河公方の重臣である梁田氏が築いたとされる水海城跡 20、小堤城跡 23、柳橋城跡 22¹²⁾ など、城館跡があげられる。なお、当遺跡 20 では、方形竪穴遺構が 1 基確認されており、木簡が 1 点出土していることが特筆される。木簡は、河川の改修や護岸工事、堤防工事などの工事分担を示す表示札の可能性が高いと考えられている¹³⁾。

近世の遺跡としては、中世後半から近世にかけての庶民層の墓域が発見された香取東遺跡 25 や西坪 A 遺跡 26 が知られている。

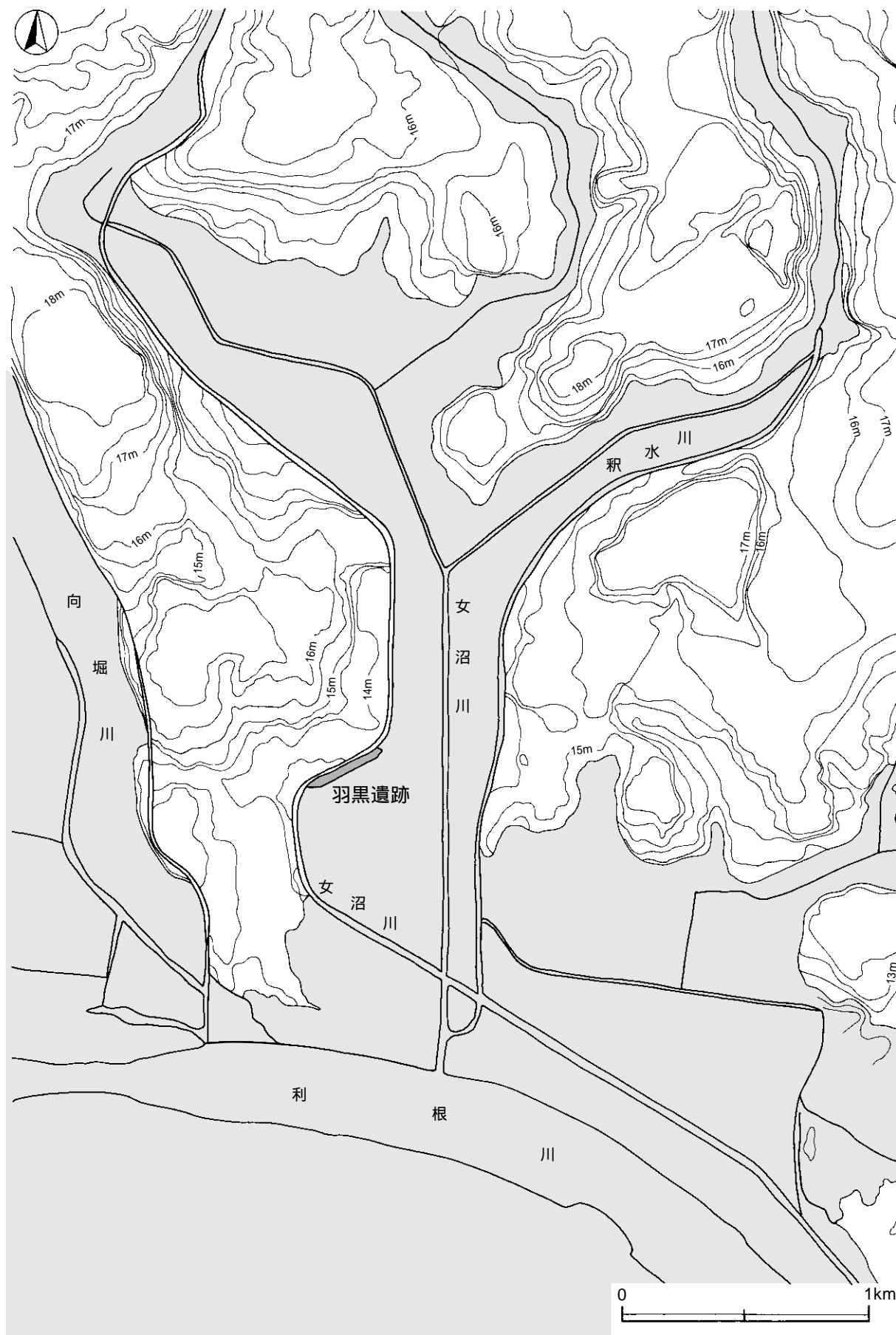
文中の 20 内の番号は、表 1 及び第 1 図の該当番号と同じである。

註

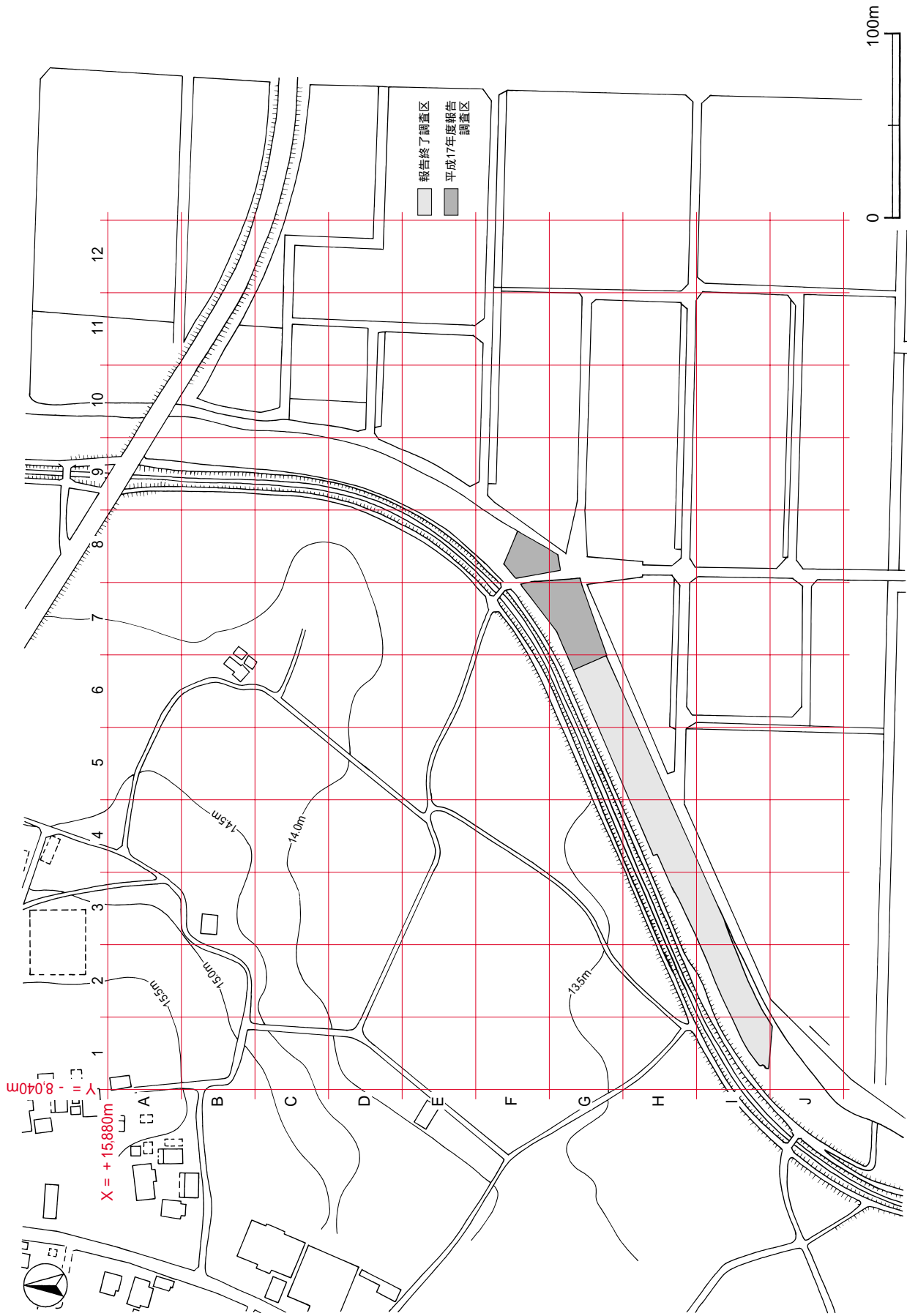
- 1) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 新井和之ほか「香取西遺跡発掘調査報告」総和町教育委員会 1998年3月
- 3) 駒澤悦郎「羽黒遺跡 一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第202集 2003年3月
- 4) 川津法伸「主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋B遺跡・釈迦才仏遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第131集 1998年3月
- 5) 註4) に同じ
- 6) 西ヶ谷恭弘・小西雅徳「茨城県総和町 駒羽根・大橋A遺跡」総和町教育委員会 1991年3月
- 7) 註4) に同じ
- 8) 註3) に同じ
- 9) 中沢時宗・桜井一美・和田雄次「一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1(総和地区) 南坪A・B・C遺跡 向坪A・B遺跡 高野遺跡 北新田A・B・C遺跡 西坪A・B遺跡 溜原B遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第38集 1986年8月
- 10) 註9) に同じ
- 11) 註3) に同じ
- 12) 柳橋城跡は、弁才天A遺跡・弁才天B遺跡と統合され、弁才天遺跡となっている。
- 13) 註3) に同じ

参考文献

- ・総和町史編さん委員会 「総和町史 資料編 原始・古代・中世」総和町 2002年3月
- ・総和町史編さん委員会 「総和町史 通史編 原始・古代・中世」総和町 2005年7月
- ・佐久間好雄「図説 古河・岩井・水海道・猿島の歴史」郷土出版社 2005年11月



第2図 羽黒遺跡周辺地形図



第3図 羽黒遺跡調査区設定図

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

当遺跡に隣接して、北に日下部遺跡、西に笹山遺跡が位置している。現在、それらは、道路及び女沼川によって分断されているが、地形的に一体のものであった可能性が高い。

さて、当遺跡については、県営高生産性大区画圃場整備事業に関連して、平成9年度に確認調査、平成11年度に発掘調査が部分的に行われている。さらに、一級河川女沼川河川改修工事事業に関連して、平成12年度(第1次)と平成13年度(第2次)に発掘調査が行われ、旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡であることが明らかになっている。今回報告するのは、平成16年度に行なわれた第3次発掘調査の1,700㎡分についてである。調査前の現況は荒蕪地である。

遺構は、竪穴住居跡12軒(奈良時代7, 平安時代5)、方形竪穴遺構3基(奈良時代2, 時期不明1)、掘立柱建物跡5棟(奈良4, 平安1)、井戸跡9基、火葬土坑1基、土坑111基などが確認された。遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に15箱出土しており、大半は奈良・平安時代のものである。主な出土遺物は、縄文土器片、土師器片(坏・高台付坏・甕・甑)、須恵器片(坏・高台付坏・蓋・盤・長頸瓶・甕)、灰釉陶器片(椀)、陶器(花瓶)、石器・石製品(砥石・不明石製品)、鉄器・鉄製品(刀子・鎌・釘)などである。

第2節 基本層序

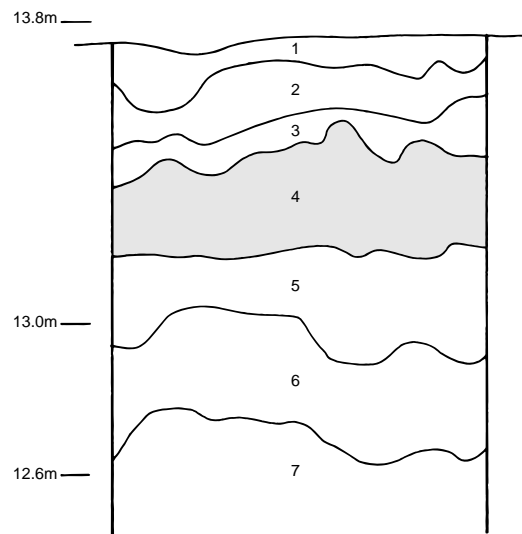
調査2区のF8f3区にテストピットを設定し、深さ1.3mまで掘り下げて基本土層(第4図)の観察を行った。土層は7層に分層され、第1次調査区のテストピットの第～層^註)に対応する。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は灰褐色を呈するローム層で、スコリア粒子を微量含んでいる。層厚は最大19cmである。第1次調査区のテストピットの第層に対応する。

第2層は褐色を呈するローム層で、スコリア粒子を微量含んでいる。層厚は5～19cmである。第1次調査区のテストピットの第層に対応する。

第3層は黄褐色を呈するローム層で、スコリア粒子を微量含んでいる。層厚は3～20cmである。第1次調査区のテストピットの第層に対応する。

第4層は暗褐色を呈するローム層で、スコリア粒子を微量含んでいる。締まりがやや強く、層厚は20～35cmである。第2黑色帯に比定される。第1次調査区のテストピットの第層に対応する。



第4図 基本土層図

第5層は明褐色を呈するローム層で、粘性が強い。層厚は9～31cmである。第1次調査区のテストピットの第1層に対応する。

第6層は明褐色を呈するローム層で、粘性・締まりとも強い。層厚は12～45cmである。第1次調査区のテストピットの第1層に対応する。

第7層は暗褐色を呈するローム層で、粘性・締まりとも強い。下層は未掘のため本来の層厚は不明である。第1次調査区のテストピットの第1層に対応する。

遺構は、第1層上面で確認している。

註) 駒澤悦郎「羽黒遺跡 一級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第202集 2003年3月

第3節 遺構と遺物

1 奈良時代の遺構と遺物

竪穴住居跡7軒，掘立柱建物跡4棟，方形竪穴遺構2基が確認された。以下，確認された遺構と遺物について記述する。なお，時期が7世紀末葉まで遡る可能性が考えられる遺構も，ここでは奈良時代として報告する。

(1) 竪穴住居跡

第59号住居跡 (第5～7図)

位置 調査1区のG7c8区で，標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 北西コーナー部を第263号土坑に掘り込まれている。

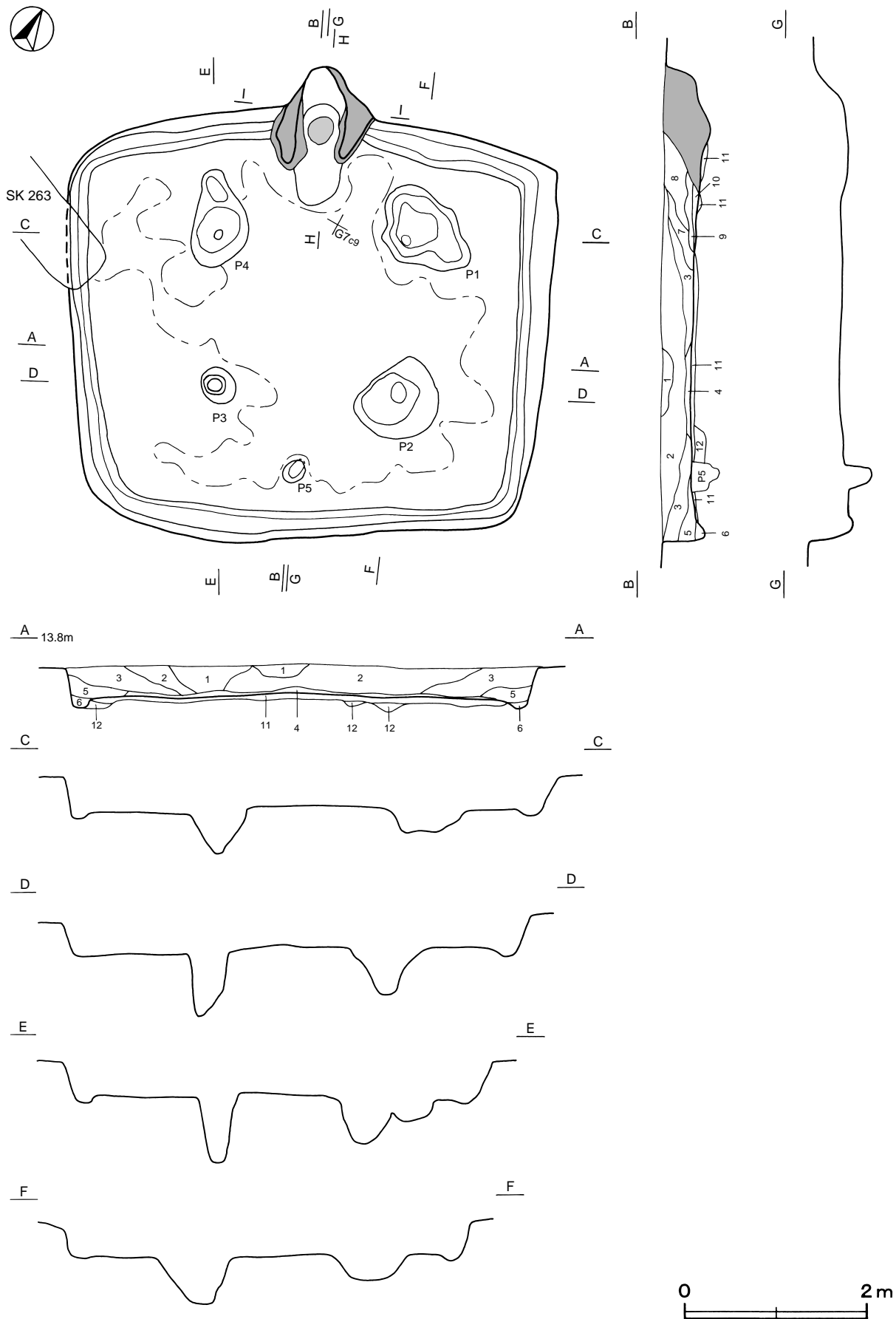
規模と形状 長軸5.33m，短軸4.63mの長方形で，主軸方向はN-26°-Wである。壁高は35～44cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床で，ロームブロック及びローム粒子を少量含む黒褐色及び暗褐色土を3～20cm埋め土して構築されている。掘り方は，中央部を島状に掘り残すようにコーナー部を一段深く掘り込んでいる。壁溝が，全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで152cm，袖部幅113cmである。袖部は床面を15cmほど掘り下げ，暗褐色土を充填し基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめて，暗褐色土を埋め戻している。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm三角形に掘り込まれ，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	焼土ブロック・ローム粒子多量	7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ローム粒子少量	8 暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 赤褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子中量	9 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
4 褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子中量	10 黒褐色	ローム粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量	11 褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
6 褐色	砂質粘土粒子中量	12 褐色	ロームブロック少量
		13 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
		14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量



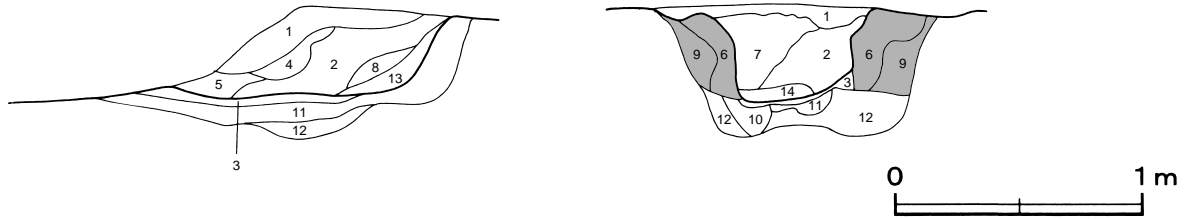
第5图 第59号住居跡実測図(1)

H 13.8m

H

L

L



第6図 第59号住居跡実測図(2)

ピット 5か所。P 1 ~ P 4は深さ27~71cmで、配置と形状から支柱穴と考えられる。P 5は深さ26cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

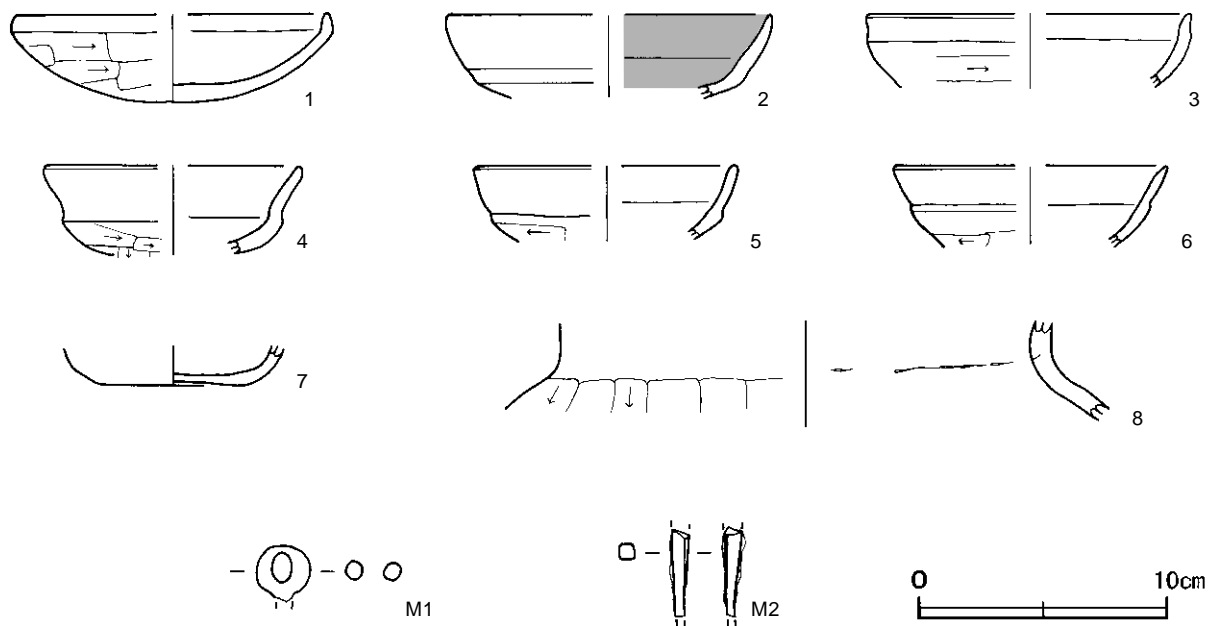
覆土 10層からなる。全体的にレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。11・12層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量	7 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量	8 灰褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子極微量	9 灰褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子極微量
4 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量	10 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量	11 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
6 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子極微量	12 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片152点(坏類32, 甕類120), 須恵器片9点(坏類7, 甕類2), 鉄製品2点(釘1, 不明1)が出土している。ほとんどの土器が細片である。1~8, M1・M2はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀末葉から8世紀前葉と考えられる。



第7図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.4]	3.5	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	45%
2	土師器	坏	[12.8]	(3.3)	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 底部摩耗により調整不明	覆土中	10% 内面黒色処理
3	土師器	坏	[12.8]	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	5%
4	土師器	坏	[10.5]	(3.5)	-	長石・石英	明褐	普通	口縁部内外横ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	5%
5	土師器	坏	[10.5]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	5%
6	土師器	坏	[11.0]	(3.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内外横ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	20%
7	須恵器	坏	-	(1.6)	6.0	長石・石英	灰黄	普通	口縁部内外横ナデ 底部ヘラ削り後ナデ	覆土中	20%
8	土師器	甗	-	(4.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	頸部内外横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面輪積み痕	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	不明	(2.2)	2.2	0.7	(4.2)	鉄	環状 断面円形	覆土中	PL11
M 2	釘力	(3.6)	0.7	0.6	(3.3)	鉄	頭部・脚部欠損 断面方形	覆土中	PL11

第60号住居跡 (第8・9図)

位置 調査1区のF 7j9区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 北西コーナー部が第15・18号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.55m、短軸3.41mの方形で、主軸方向はN - 29° - Wである。壁高は40～42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。全面が貼床で、ローム粒子を少量含む暗褐色土を4～14cm埋め土して構築されている。掘り方は、中央部を島状に掘り残すようにコーナー部を一段深く掘り込んでいる。壁溝が、竈の右袖部脇を除き巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで104cm、袖部幅85cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面を基部として、砂質粘土で構築されている。袖部の前方には土師器の甗が逆位で置かれており、補強材として使われていたと考えられる。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm三角形に掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量	7 褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量	8 褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
3 赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
4 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量	10 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
5 赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子中量	11 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
6 褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック中量		

ピット 5か所。P 1・P 2は深さ30・25cmで、配置と形状から支柱穴と考えられる。P 3は深さ30cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4・P 5は深さ21・17cmで、性格は不明である。

覆土 12層からなる。不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。13層は貼床の構築土である。

土層解説

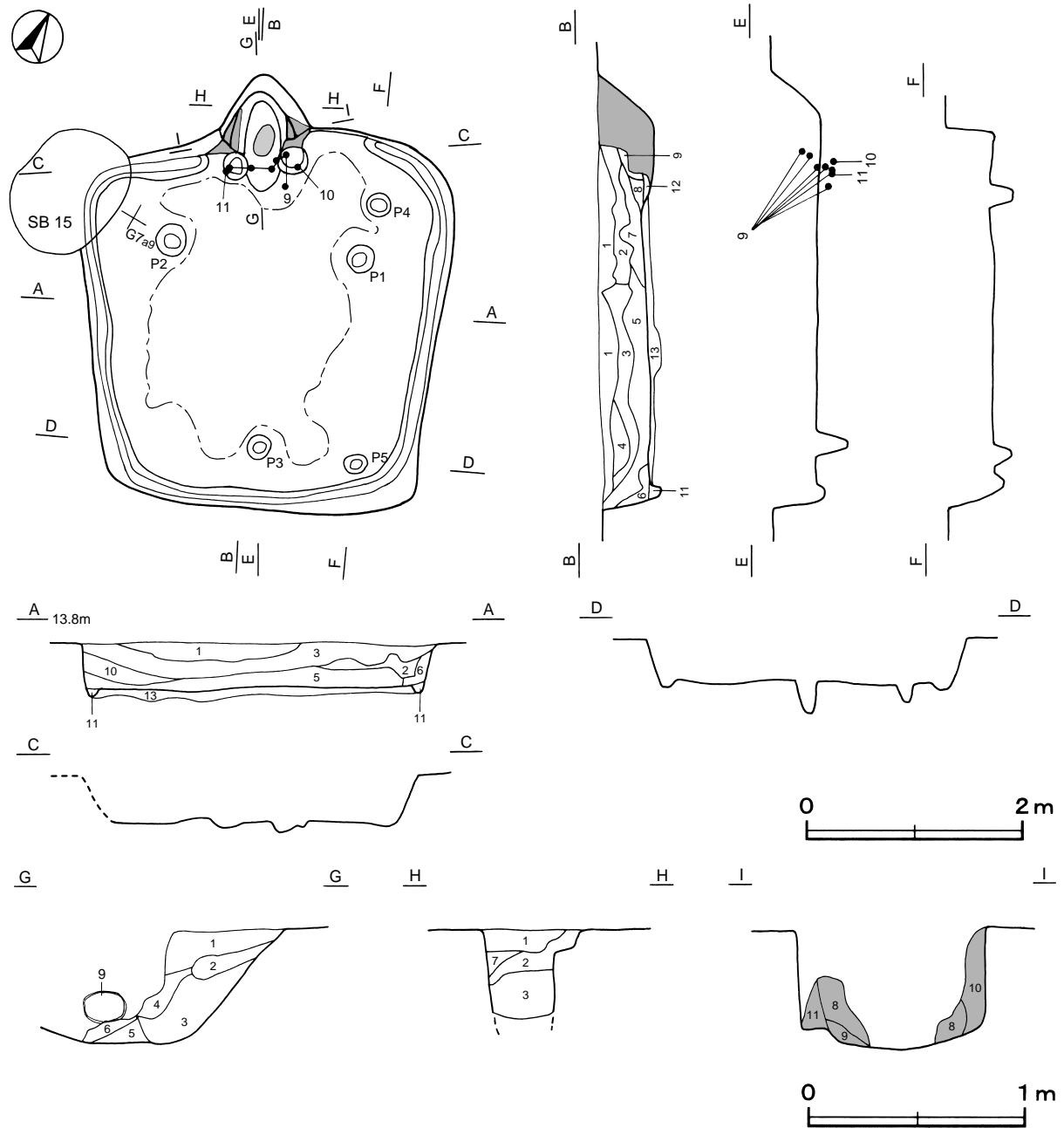
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック微量	8 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

- 9 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 10 暗 褐 色 ロームブロック微量（4層より明度・彩度とも低い）
- 11 暗 褐 色 ローム粒子微量

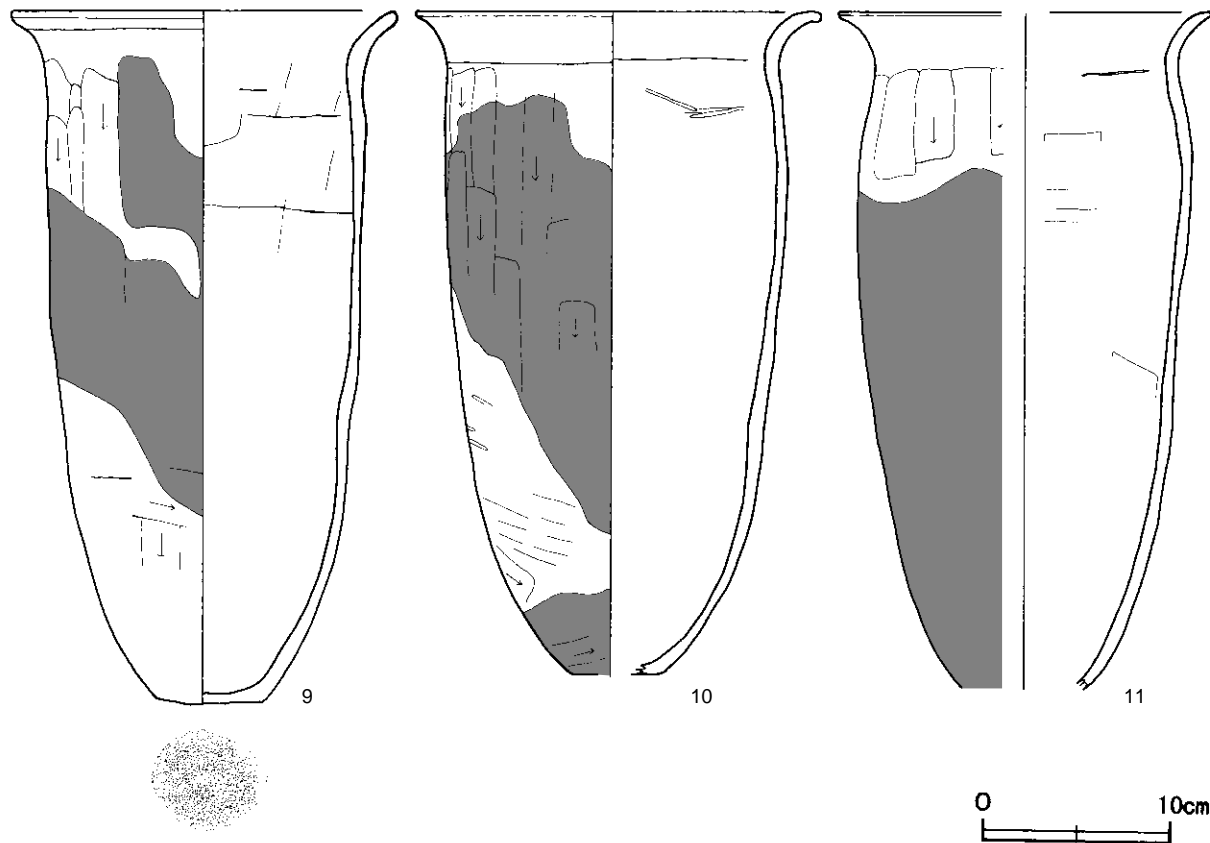
- 12 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 暗 褐 色 ローム粒子少量（6層より明度・彩度とも低い）

遺物出土状況 土師器片115点（坏類6，甕類109），須恵器片4点（坏類2，甕2）が出土している。10・11は竈の袖の手前に逆位で伏せた状態で，9は10・11の間から横位で出土している。10・11は床面をわずかに掘りくぼめ，埋め込むように伏せられていた。いずれも，竈の補強材として使用されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から7世紀末葉から8世紀前葉と考えられる。



第8図 第60号住居跡実測図



第9図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
9	土師器	甗	20.4	36.9	5.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 下位横位のヘラ削り 内面ナデ 底部ヘラ削り 外面被熟痕 煤附着	竈手前床面	80% PL10
10	土師器	甗	21.4	35.2	[4.9]	長石・石英	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 下位横位のヘラ削り 被熟痕 煤附着 内面ナデ	竈右袖部手前床面	70% PL10
11	土師器	甗	20.0	(36.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 被熟痕 煤附着 内面ナデ ヘラ状工具痕 輪積み痕	竈左袖部手前床面	80% PL10

第61号住居跡 (第10~12図)

位置 調査1区のF7i6区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 南西コーナー部を第320号土坑に掘り込まれている。

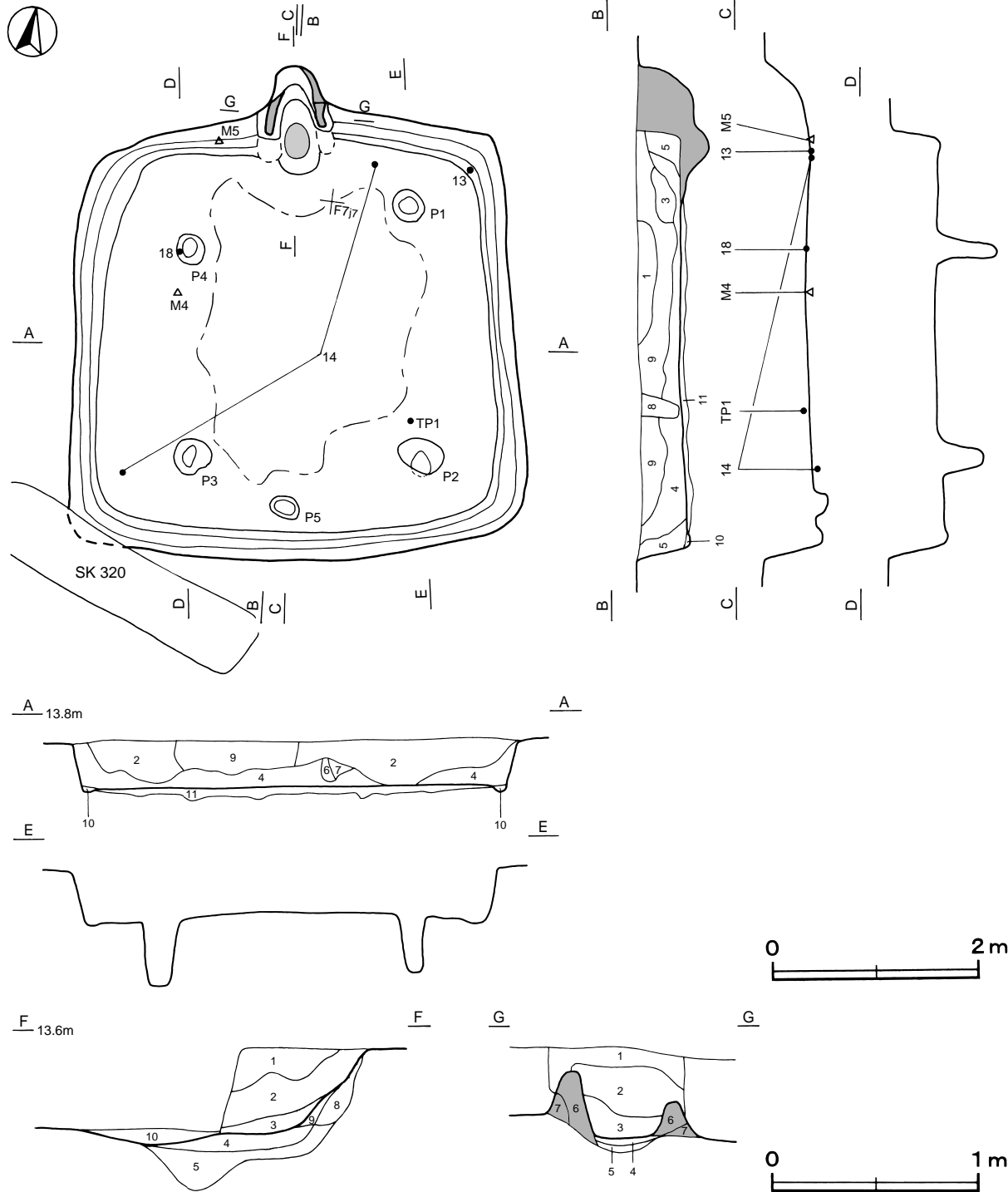
規模と形状 長軸4.35m、短軸4.31mの方形で、主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は38~50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。全面が貼床で、ローム粒子を多量に含む褐色土を3~14cmほど埋め土して構築されている。掘り方は、中央部を島状に掘り残すように竈手前とコーナー部を一段深く掘り込んでいる。壁溝が、全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅70cmである、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面を基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を最大で30cm掘りくぼめて、褐色土を埋め戻している。火床面は火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm三角形に掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック微量, ローム粒子・炭化粒子極微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック極微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 10 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |



第10図 第61号住居跡実測図

ピット 5か所。P 1 ~ P 4 は深さ43 ~ 63cmで、配置と形状から支柱穴と考えられる。P 5 は深さ14cmで、竈と向かい合う位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

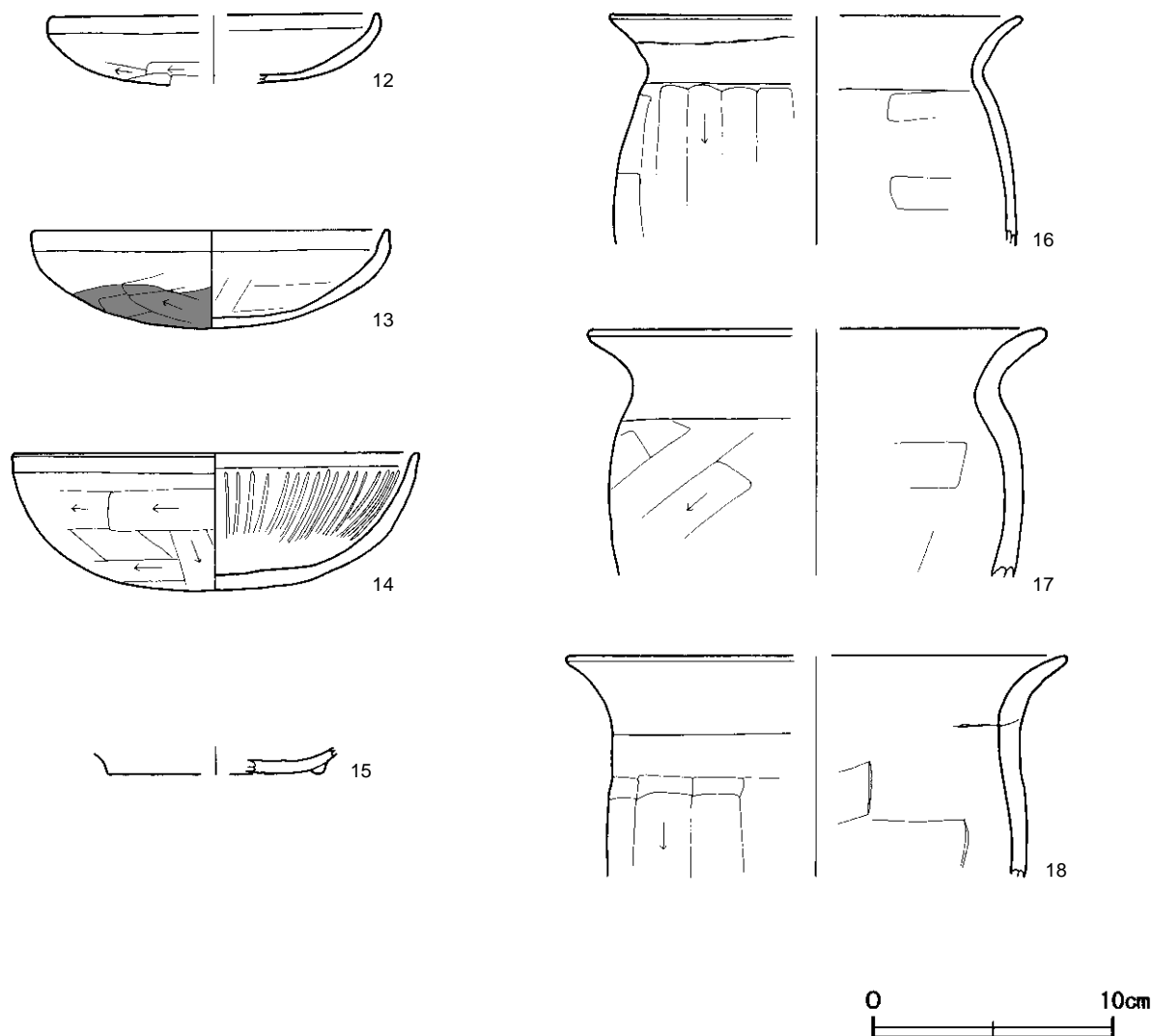
覆土 10層からなる。不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。11層は貼床の構築土である。

土層解説

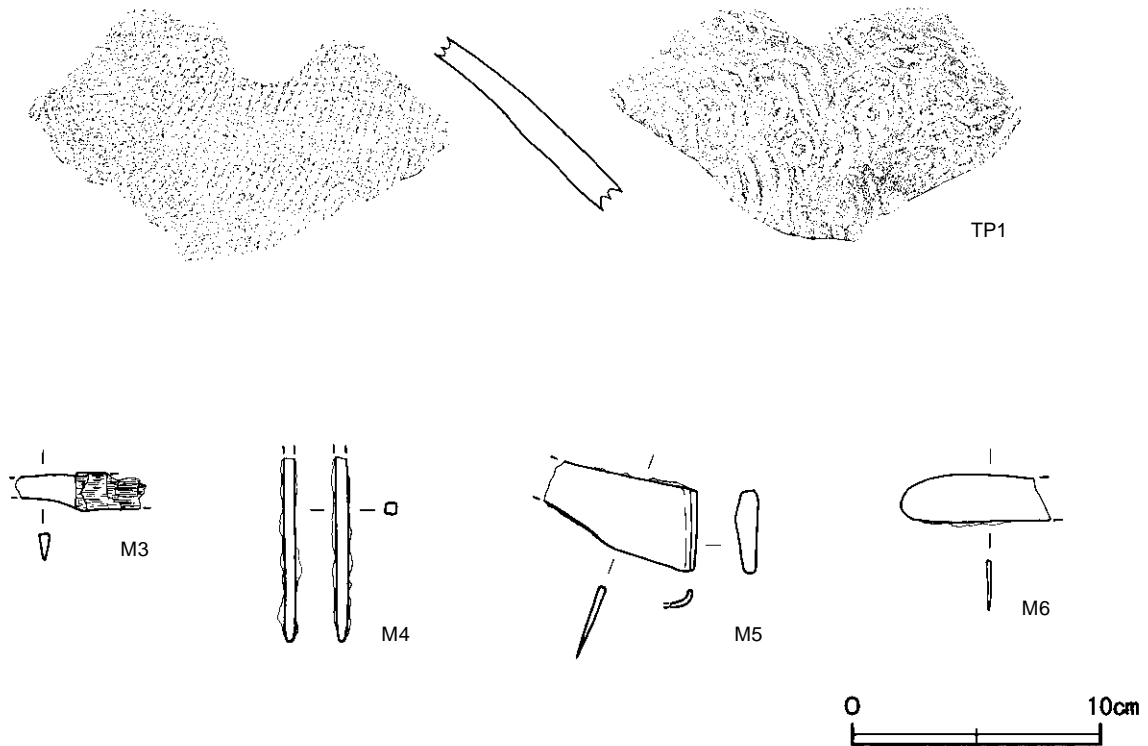
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒色	ローム粒子微量
3 黒褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	10 黒褐色	ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	11 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量
6 褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片298点（坏類40，甕類258），須恵器片15点（坏類4，高台付坏1，蓋1，盤1，甕類8），土製品1点（支脚），鉄器・鉄製品4点（刀子1，鎌2，釘1）が出土している。13は北東コーナー部，18・M 4 は北西コーナー部，M 5 は北壁際の床面から出土している。TP 1 は中央部から南東コーナー寄りの覆土下層から出土している。14は竈右袖部脇と南西コーナーの床面から出土した破片が接合したものである。12は竈の覆土中から出土している。M 5 とM 6 は同一個体の可能性が考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第11図 第61号住居跡出土遺物実測図（1）



第12図 第61号住居跡出土遺物実測図(2)

第61号住居跡出土遺物観察表(第11・12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
12	土師器	坏	[13.6]	2.8	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土中	20%
13	土師器	坏	15.0	4.0	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部ヘラ削り 煤付着 内 面ナデ 黒色処理の痕跡	北東コーナ 部床面	80% PL7
14	土師器	坏	16.7	5.6	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内外横ナデ 外面ヘラ削り 内面ナデ後 放射状のヘラ磨き	竈右袖部・南西 コーナ部床面	80% PL7
15	須恵器	坏	-	(1.2)	[9.0]	長石・石英	灰黄	普通	ロクロナデ 高台貼付	覆土中	5%
16	土師器	甗	[17.0]	(9.5)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10%
17	土師器	甗	[18.8]	(10.6)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面ナデ	覆土中	10%
18	土師器	甗	[21.0]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面ナデ 輪積み痕	北西コーナ 部床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	須恵器	甗	-	(6.7)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄褐	普通	外面斜位の平行敷き 内面同心円上の当て具痕	南東コーナ 部下層	5% PL11

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	刀子	(5.2)	1.6	0.4	(6.6)	鉄	切先部欠損 木質部一部残存	覆土中	PL11
M4	釘	(7.3)	0.5	0.4	(7.2)	鉄	頭部欠損 断面方形	北西コーナ 部床面	PL11
M5	鎌	(6.0)	3.3	0.2	(17.2)	鉄	刃部先端欠損 端部折り返し	北壁際床面	PL11
M6	鎌	(6.1)	2.9	0.1	(7.3)	鉄	刃部先端残存 M5と同一個体カ	覆土中	PL11

第62号住居跡(第13・14図)

位置 調査1区のG7e7区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、確認されたのは長軸3.5m、短軸0.42mだけで、方形又は長

方形と推測される。主軸方向はN - 16° - Wである。壁高は55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲から、平坦であると推定される。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部が調査区域外であるため明確でないが、確認できた袖部幅100cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cm掘りくぼめて、暗褐色土を埋め戻している。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm三角形状に掘り込まれ、火床面からほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| | | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

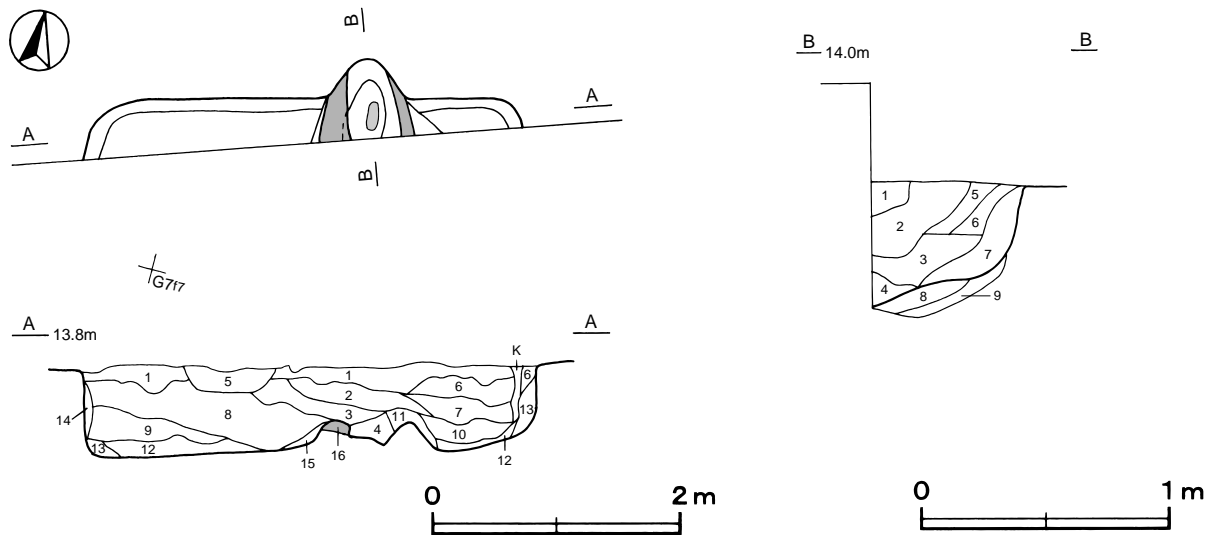
覆土 15層からなる。全体的にブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。1～4層は竈の1～4層と共通である。16層は竈の袖部の構築土である。

土層解説

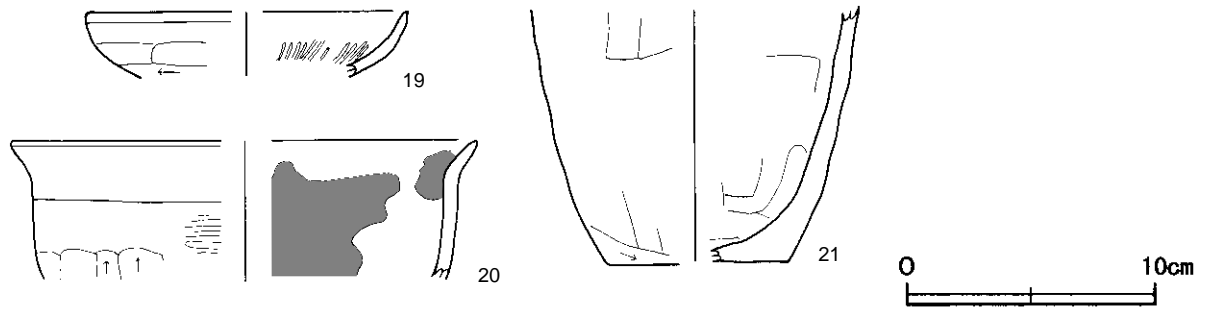
- | | | | |
|--------|---------------------------|-----------|--------------------------|
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 11 褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 13 暗褐色 | 焼土粒子中量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 15 にぶい黄褐色 | 焼土粒子多量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 16 灰褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片48点（坏類1，高台付坏4，鉢2，甕類40，甑1），須恵器片1点（甕）が出土している。19・20は覆土中，21は竈の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第13図 第62号住居跡実測図



第14図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表 (第14図)

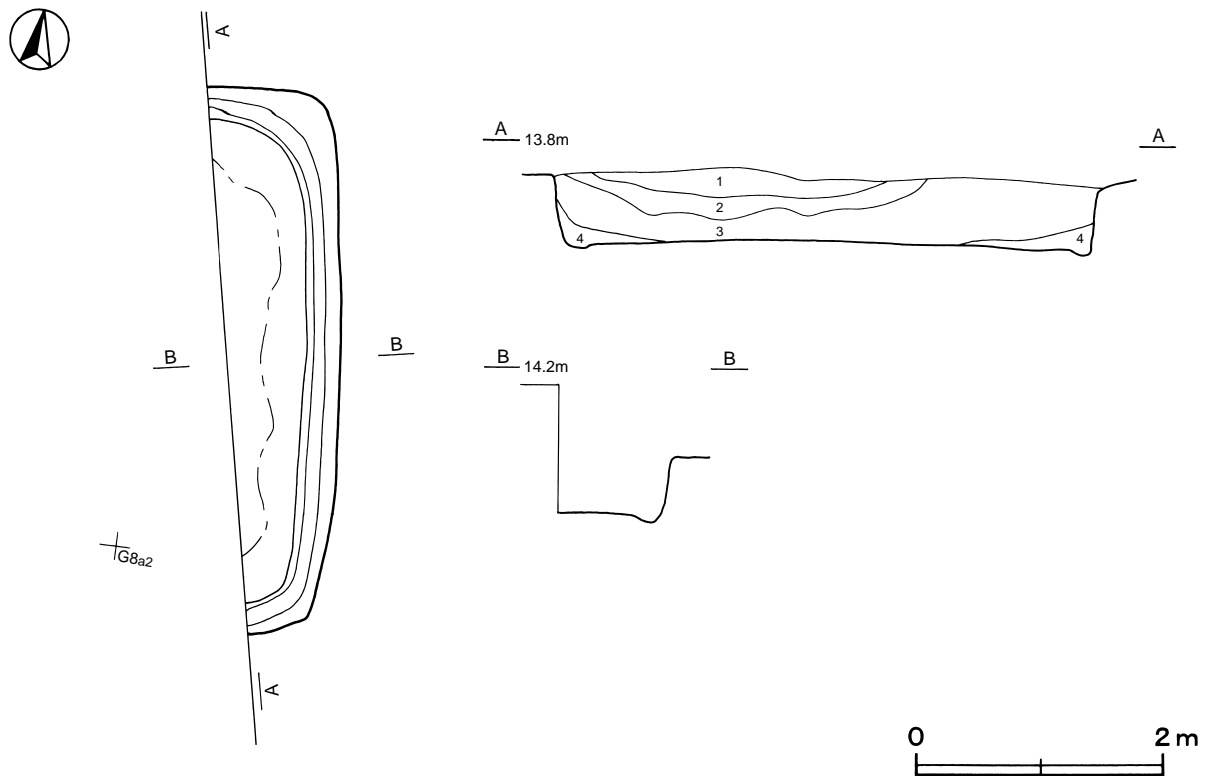
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
19	土師器	坏	[13.0]	(2.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内外横ナデ 外面へら削り 内面放射状のへら磨き	覆土中	5%
20	土師器	小形甕	[18.8]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ 油煙付着	覆土中	10%
21	土師器	甕	-	(10.0)	[7.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面下位へら削り 内面ナデ	竈覆土中	10%

第63号住居跡 (第15・16図)

位置 調査2区のF8j2区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、確認されたのは長軸4.34m、短軸1.00mだけで、方形又は長方形と推測される。主軸方向はN-7°-Wである。壁高は44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除き踏み固められている。壁溝が、確認された壁際を巡っている。



第15図 第63号住居跡実測図

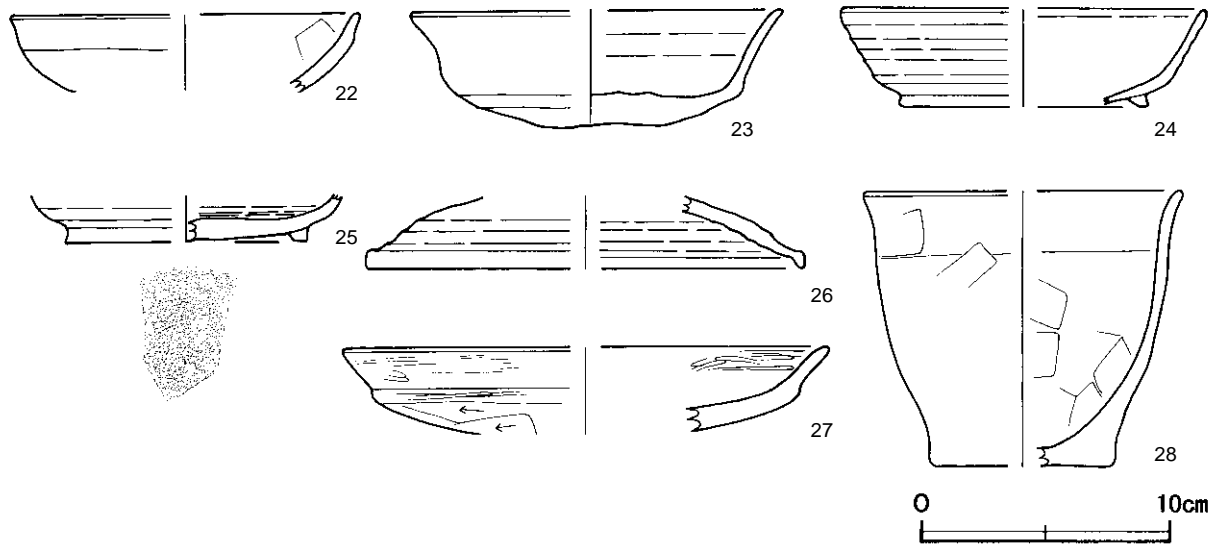
覆土 4層からなる。全体的にレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量 |
| 2 黒色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片61点（坏類11，類50），須恵器片13点（坏類5，高台付坏3，蓋5）が出土している。22～28は、いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第16図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第16図）

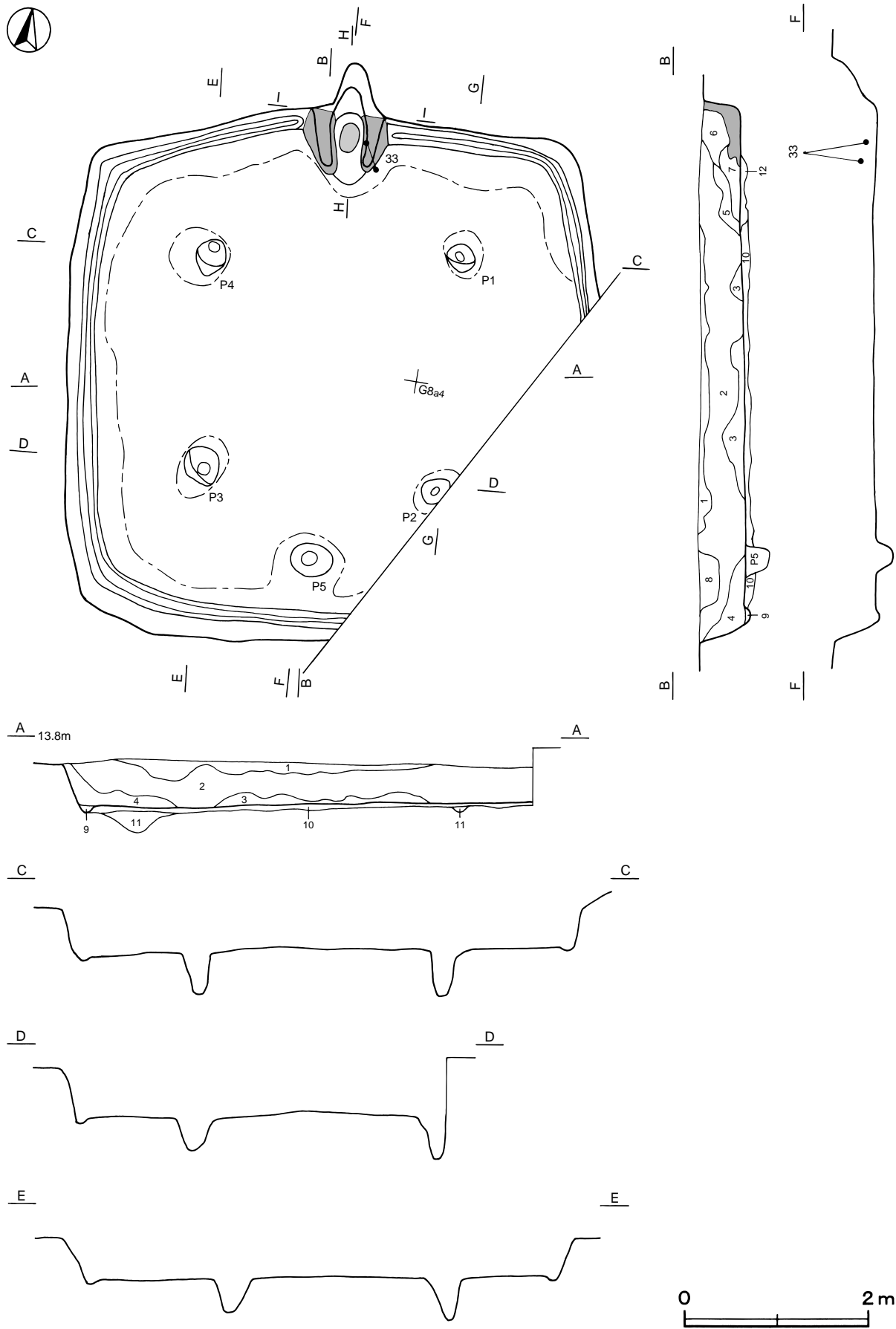
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
22	土師器	坏	[14.0]	3.1	-	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 内面ナデ	覆土中	5%
23	須恵器	坏	[14.9]	4.4	9.2	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内外横ナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	40%
24	須恵器	高台付坏	[14.6]	3.9	[10.0]	長石	灰	普通	口縁部内外横ナデ 高台貼付	覆土中	20%
25	須恵器	高台付坏	-	(1.8)	[9.6]	長石	灰黄	普通	口縁部内外横ナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土中	10% 十字のヘラ記号
26	須恵器	蓋	[17.6]	(2.8)	-	長石	灰白	普通	口縁部内外横ナデ	覆土中	20%
27	土師器	皿	[19.6]	(3.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外横ナデ後ヘラ磨き 底部ヘラ削り	覆土中	20%
28	土師器	ミニチュア壺	[12.6]	10.8	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面ナデカ 内面ナデ	覆土中	30%

第64号住居跡（第17～20図）

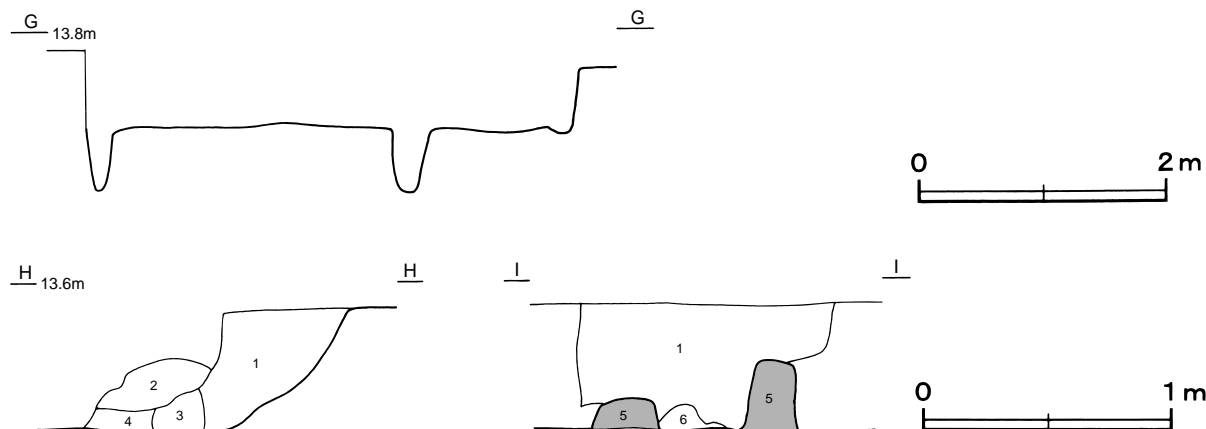
位置 調査2区のF 8 j3区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 南東コーナー部が調査区域外に延びているが、一辺5.54mの方形で、主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は41～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除き踏み固められている。全面が貼床で、ロームブロック及びローム粒子を少量含む黒褐色土及び褐色土を2～27cm埋め土して構築されている。掘り方は、中央部を島状に掘り残すようにコーナー部を一段深く掘り込んでいる。壁溝が、確認された壁際を巡っている。



第17图 第64号住居跡実測图(1)



第18図 第64号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙出部まで132cm、袖部幅105cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に57cm三角形状に掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子中量 | 5 にぶい褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子多量 |
| 3 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物微量 |

ピット 5か所。P 1～4は深さ35～50cmで、配置と形状から支柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

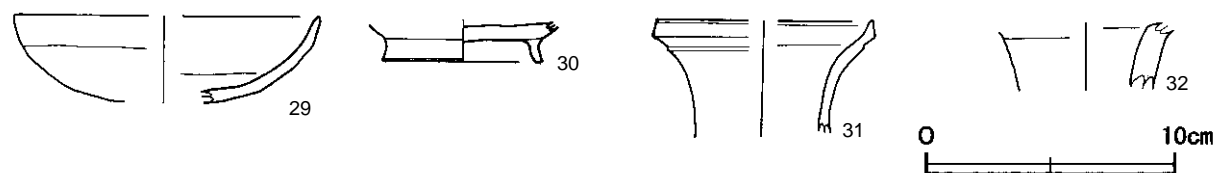
覆土 9層からなる。不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。10～12層は貼床の構築土である。

土層解説

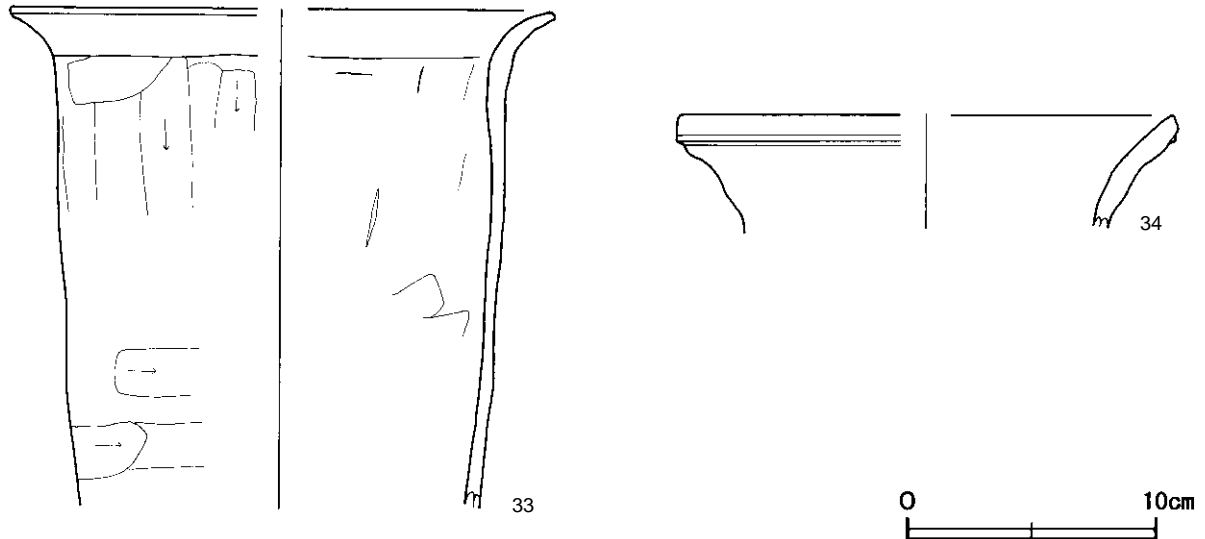
- | | | | |
|---------|----------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片371点(坏類33, 甕類338), 須恵器片17点(坏類6, 高台付坏1, 甕8, 長頸瓶2), 石器1点(砥石)が出土している。33は竈右袖部の内側と右袖部手前の覆土下層及び覆土中から出土した破片が接合したものである。29～32・34は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀末葉から8世紀前葉と考えられる。



第19図 第64号住居跡出土遺物実測図(1)



第20図 第64号住居跡出土遺物実測図(2)

第64号住居跡出土遺物観察表(第19・20図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
29	土師器	坏	[12.2]	(3.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部ヘラ削りカ	覆土中	20%
30	須恵器	高台付坏	-	(1.6)	6.2	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土中	10%
31	須恵器	長頸瓶	[8.8]	(4.0)	-	長石・石英	灰黄	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中	5%
32	須恵器	長頸瓶	-	(2.7)	-	長石・赤色粒子	灰オリーブ	普通	外面自然釉	覆土中	5%
33	土師器	甗	[21.8]	(20.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 下位横位のヘラ削り 内面ナデ	甗右袖部内側及び手前下層	30% PL10
34	須恵器	甗	[19.8]	(4.6)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部内外ロクロナデ 口縁部外面上位断面三角形の隆帯	覆土中	5%

第65号住居跡(第21・22図)

位置 調査2区のF 8 g5区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 南東コーナー部が調査区域外に延びているが、長軸3.78m、短軸3.30mの長方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は38~55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除き踏み固められている。全面が貼床で、ローム粒子を中量含む褐色土を2~11cm埋め土して構築されている。掘り方は、中央部を島状に掘り残すように竈手前とコーナー部を一段深く掘り込んでいる。壁溝が、北東コーナー部を除き、確認された壁際を巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで138cm、袖部幅99cmである。袖部は、床面とほぼ同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm三角形に掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量	6 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	7 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子微量
3 赤褐色	焼土ブロック多量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量	8 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

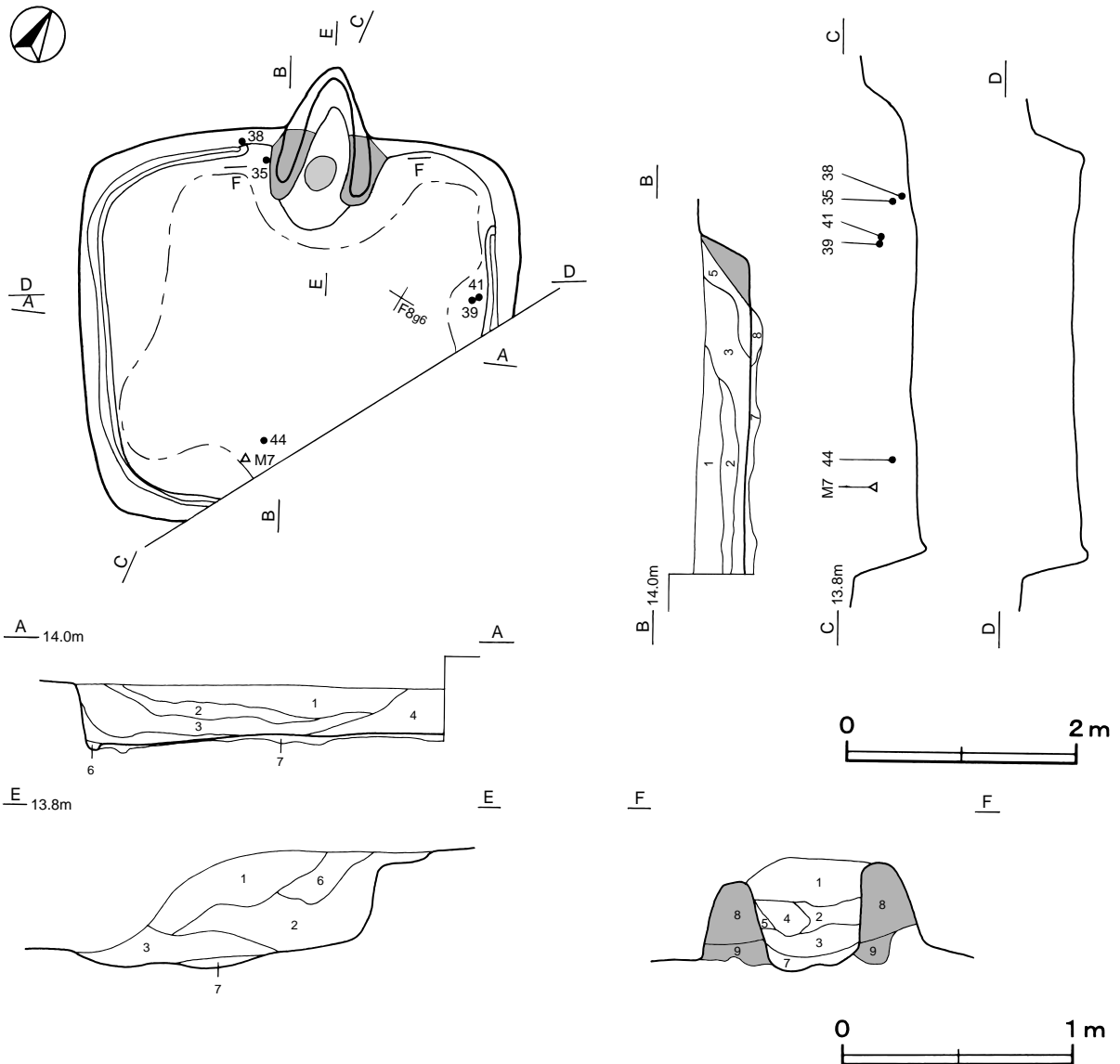
覆土 6層からなる。全体的にレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

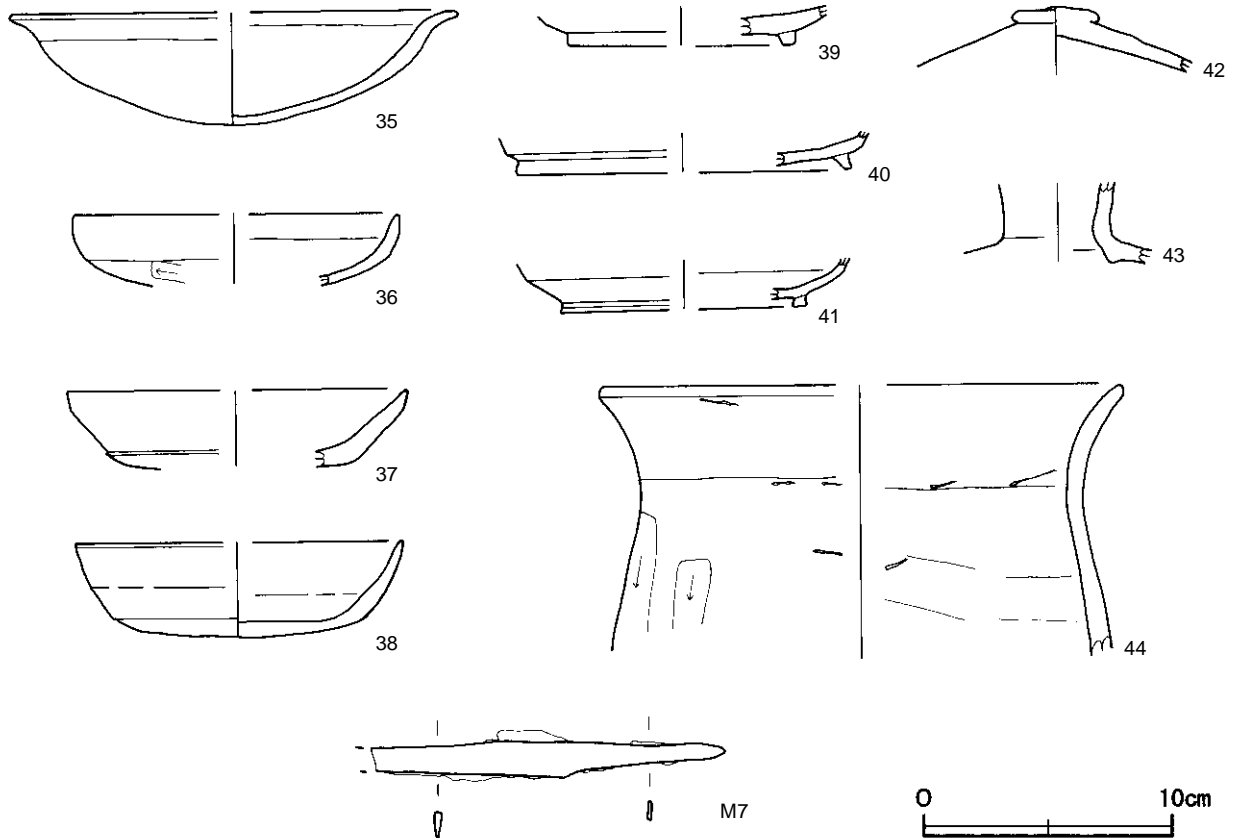
1 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	5 褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量
2 黒色	炭化物・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子極微量
4 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片242点（坏類37，甕類205），須恵器片22点（坏類9，高台付坏3，蓋2，盤1，甕6，長頸瓶1），鉄器1点（刀子）が出土している。35は竈左袖部脇，38は北壁際の覆土下層，39・41は東壁際，44・M7は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第21図 第65号住居跡実測図



第22図 第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師器	坏	[17.9]	4.5	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横ナデ 内面ナデ 体部及び底部ヘラ削り	竈左袖部脇下層	40%
36	土師器	坏	[13.0]	(2.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外横ナデ 底面部ヘラ削り	覆土中	20%
37	土師器	坏	[13.8]	(3.0)	-	長石	黄橙	普通	口縁部内外横ナデ 底面部ヘラ削り 内面黒色処理の痕跡	覆土中	5%
38	須恵器	坏	[13.2]	3.7	[10.3]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部ナデ 底部多方向のヘラ削り	北壁際下層	40%
39	須恵器	高台付坏	-	(1.5)	[9.2]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	東壁際中層	30%
40	須恵器	高台付坏	-	(1.5)	[13.4]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土中	10%
41	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[9.8]	長石	灰黄	普通	底部高台貼付	東壁際中層	10%
42	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	5%
43	須恵器	長頸瓶	-	(3.2)	-	長石・赤色粒子	灰黄	普通	外面自然釉	覆土中	5%
44	土師器	甗	[20.8]	(10.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 後ナデカ 内面ナデ 内外面輪積み痕	南壁際中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	刀子	(14.2)	1.4	0.4	(22.4)	鉄	切先欠損 刃開のみ 刃開緩やか	南壁際中層	PL11

(2) 掘立柱建物跡

第15号掘立柱建物跡 (第23～25図)

位置 調査1区のF7i8区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第60号住居跡と第18号掘立柱建物跡を掘り込み、第21号井戸に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の総柱建物跡と考えられる。桁行方向をN-5°-Eとする南北棟で、規模

は桁行7.20m，梁行4.80mである。柱間寸法は，桁行が1.80m，梁行が2.40mを基調としており，面積は34.56㎡である。柱筋はおおむね通っている。

柱穴 14か所。南西角の柱穴は第21号井戸に掘り込まれ，残存していない。P1～P11の平面形は隅丸方形又は楕円形を基調とし，深さは48～85cmである。P12～P14は束柱穴と考えられ，平面形は円形で，深さは18～43cmである。土層は，第1層が柱痕跡に相当し，締まりの弱い黒褐色土，第2～22層は埋土でありローム土を含む黒褐色・暗褐色・褐色土で，強く突き固めた痕跡は認められない。第23～27層は抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック少量（4より彩度が高い）
2	黒褐色	ロームブロック中量	16	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子少量（16より彩度が高い）
4	暗褐色	ロームブロック少量	18	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック微量	19	黒褐色	ロームブロック微量（7より彩度が低い）
6	黒褐色	ローム粒子少量	20	黒褐色	ローム粒子中量（締まり強い）
7	黒褐色	ロームブロック微量	21	黒褐色	ローム粒子微量
8	褐色	ローム粒子多量	22	黒褐色	ロームブロック微量（中ブロック含む）
9	黒褐色	ローム粒子少量（締まり弱い）	23	黒褐色	ローム粒子少量（締まり弱い）
10	暗褐色	ロームブロック中量	24	黒褐色	ロームブロック微量（締まり弱い）
11	暗褐色	ローム粒子微量（明度高い）	25	暗褐色	ローム粒子微量（締まり弱い）
12	黒褐色	ローム粒子中量	26	暗褐色	ローム粒子微量（明度高い，締まり弱い）
13	黒褐色	ロームブロック少量	27	黒褐色	ローム粒子微量（締まり弱い）
14	黒褐色	ロームブロック中量（2より明度が低い）			

遺物出土状況 土師器片199点（坏類12，甕類187），須恵器片20点（坏類5，高台付坏2，蓋1，瓶2，甕9，甌1），金属製品1点（不明）が出土している。45・46はP4の埋土，47はP8の埋土，48はP5の柱痕跡，50はP1の埋土から出土している。

所見 時期は，出土土器及び重複関係から，8世紀中葉以降と考えられる。また，柱穴の配置から，第18号掘立柱建物から建て替えが行われたものと考えられる。

第18号掘立柱建物跡（第23～25図）

位置 調査1区のF7i8区で，標高13mの台地の縁辺部に位置している。

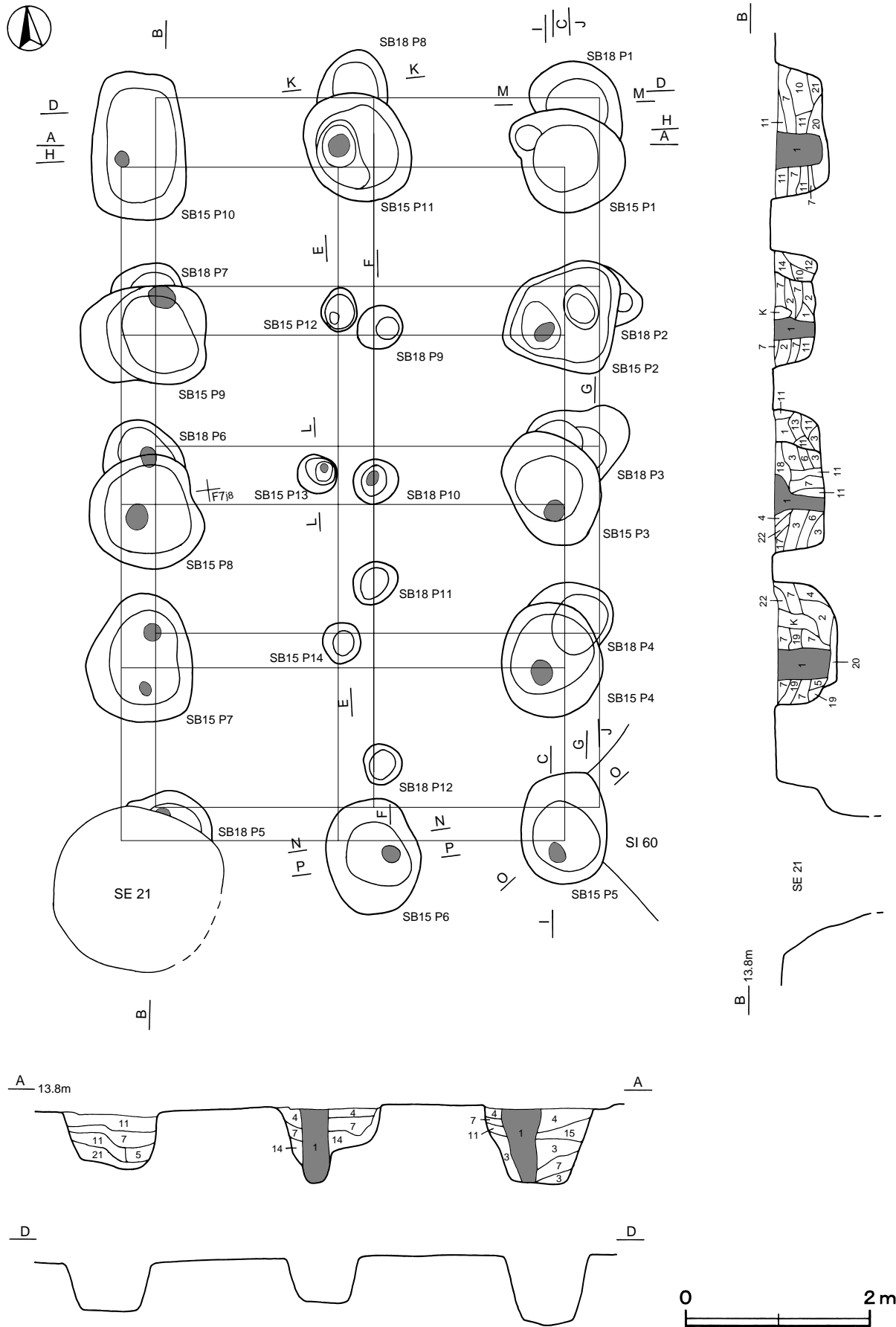
重複関係 第60号住居跡を掘り込み，第15号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間，梁行2間の総柱建物跡と考えられる。桁行方向をN-5°-Eとする南北棟で，規模は桁行7.60m，梁行4.80mである。柱間寸法は，桁行が1.90m，梁行が2.40mを基調としており，面積は36.48㎡である。柱筋はおおむね通っている。

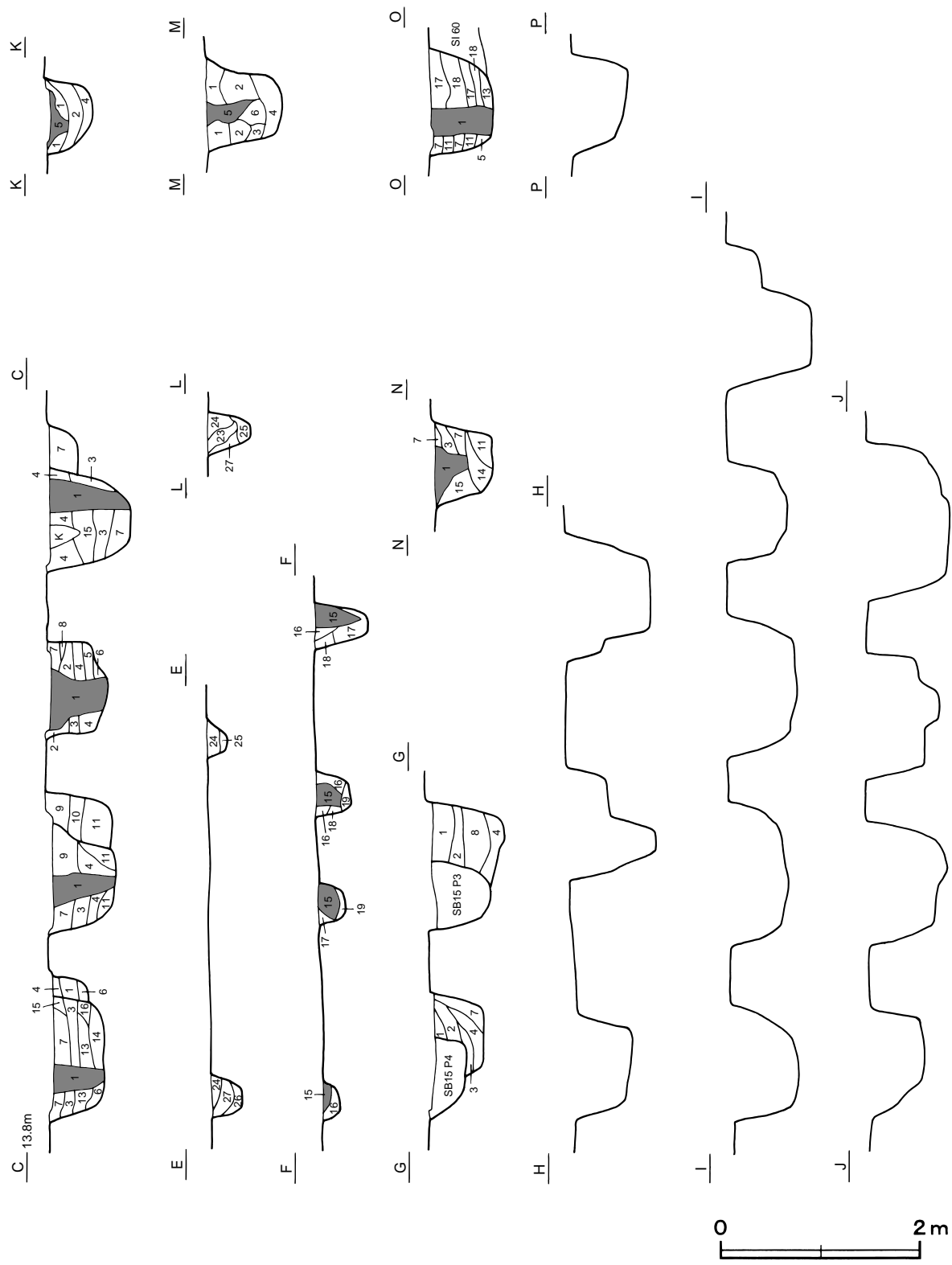
柱穴 12か所。P1～P8は部分的に残存しているだけで，平面形は明確でない。深さは47～78cmである。P9～P12は束柱穴と考えられ，平面形は円形で，深さは17～51cmである。土層は，5・15層が柱痕跡に相当し，他はいずれも埋土であり，ローム土を含む黒褐色・暗褐色・褐色土で，強く突き固めた痕跡は認められない。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック中量	12	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック少量	14	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック微量	15	黒褐色	ローム粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量	16	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック微量	17	黒褐色	ロームブロック少量（12より明度高い）
8	褐色	ローム粒子多量	18	暗褐色	ローム粒子中量
9	暗褐色	ロームブロック中量	19	黒褐色	ロームブロック少量（締まり強い）
10	暗褐色	ロームブロック中量			



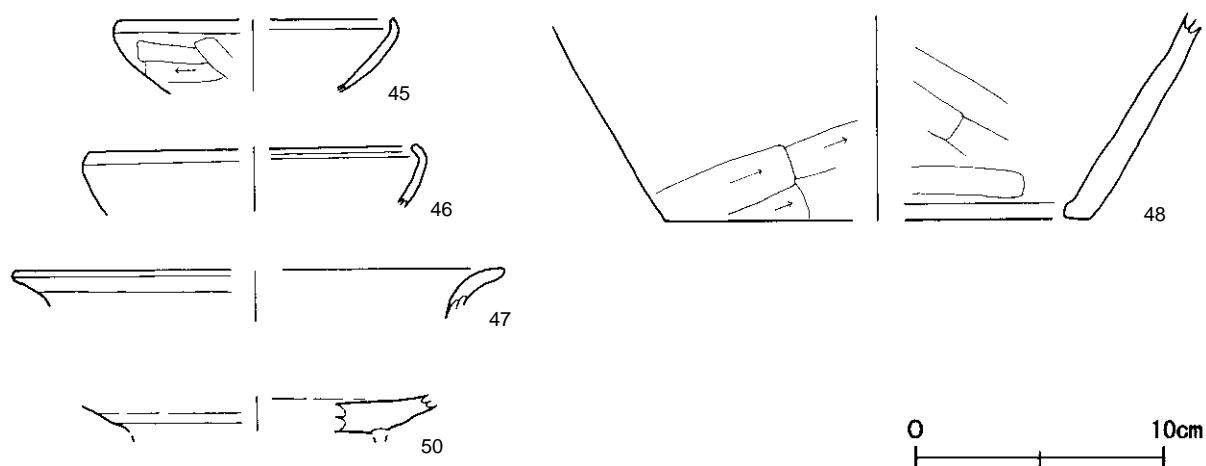
第23图 第15·18号掘立柱建物跡実測図(1)



第24图 第15·18号掘立柱建物跡実測图(2)

遺物出土状況 土師器片29点（坏類3，甗類26）が出土している。土器は、いずれも細片で図示することはできなかった。

所見 時期は、重複関係から、8世紀中葉以降と考えられる。柱穴の配列から第15号掘立柱建物への建て替えが行われたものと考えられる。



第25図 第15号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
45	土師器	坏	[11.2]	(2.9)	-	石英・長石・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	P 4埋土	10%
46	土師器	坏	[13.2]	(2.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横ナデ	P 4埋土	5%
47	土師器	甗	[19.6]	(2.1)	-	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面横ナデ 内面ナデ	P 8埋土	5%
48	須恵器	甗	-	(8.1)	[17.0]	石英・長石・雲母	暗灰黄	普通	体部外面下位へラ削り 斜位の平行敲き 内面ナデ	P 5柱痕跡	5%
50	須恵器	高台付坏	-	(1.5)	-	長石・石英	灰黄	普通	口クロナデ	P 1埋土	5%

第17号掘立柱建物跡（第26～28図）

位置 調査2区のF 8 i3区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第19号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 東部が調査区域外に延びているため、確認された桁行は2間、梁行は2間で、総柱建物跡と推測される。束柱穴は第19号掘立柱建物の柱穴に掘り込まれている。桁行方向をN - 82° - Wとする東西棟で、規模は確認された桁行5.40m、梁行4.20mである。柱間寸法は、桁行が1.80m、梁行が2.10mを基調としており、面積は22.68㎡である。柱筋はおおむね通っている。

柱穴 7か所。いずれも部分的に残存しているだけで、平面形は明確ではない。深さは52～90cmである。土層は、第1層が柱痕跡に相当し、暗褐色土、第2～7層が埋土でローム粒子及びロームブロックを含む褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められない。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	6 褐色	ローム粒子多量
3 極暗褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック多量
4 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片33点（坏類6，甕類27），須恵器片10点（甕）が出土している。49はP4の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器及び重複関係から、8世紀中葉以降と考えられる。また、柱穴の配置から、第19号掘立柱建物への建て替えが行われたと考えられる。

第19号掘立柱建物跡（第26～28図）

位置 調査1区のF8i3区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第17号掘立柱建物跡を掘り込み、第315・316・318号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 東部が調査区域外に延びているため、確認された桁行は3間、梁行は2間で、総柱建物跡と考えられる。桁行方向をN-83°-Wとする東西棟で、規模は確認された桁行6.00m、梁行4.80mである。柱間寸法は、桁行が1.80m、梁行が2.40mを基調としており、面積は28.80㎡である。柱筋はおおむね通っている。

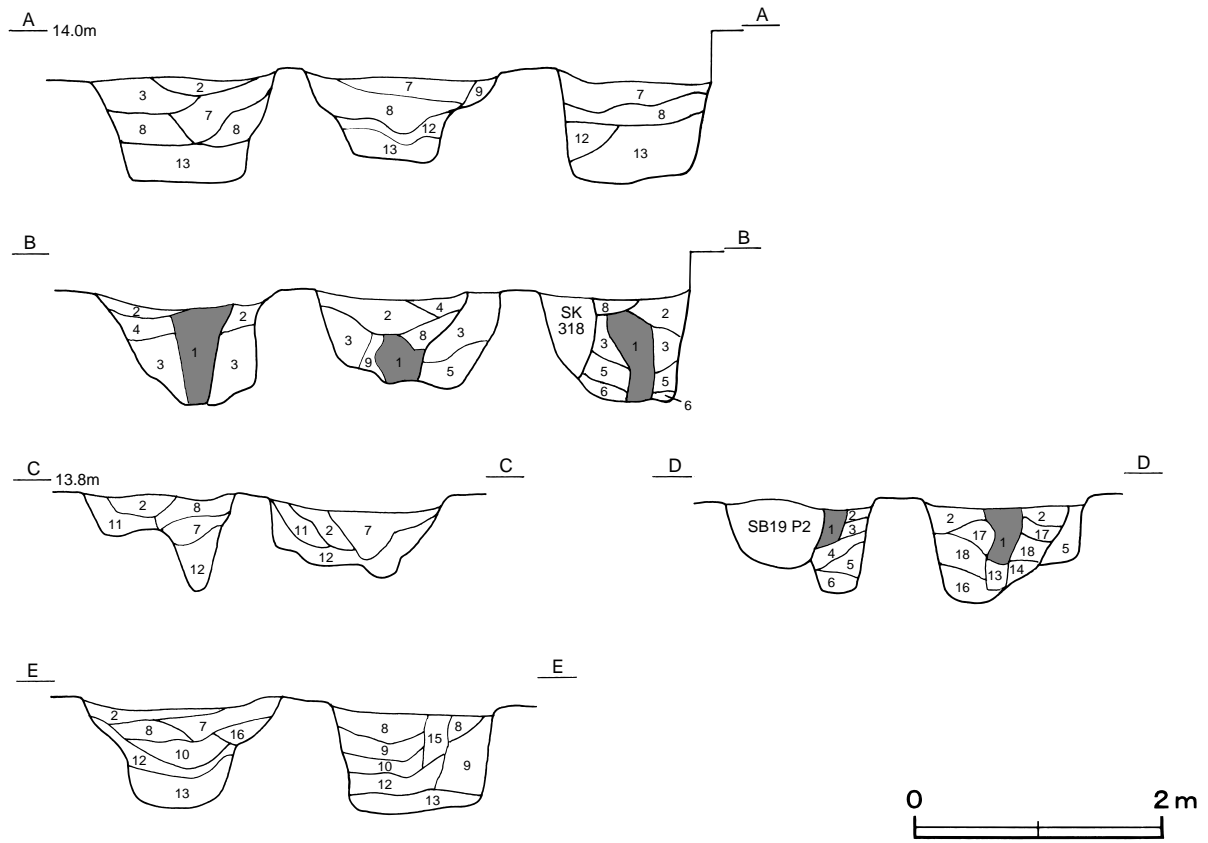
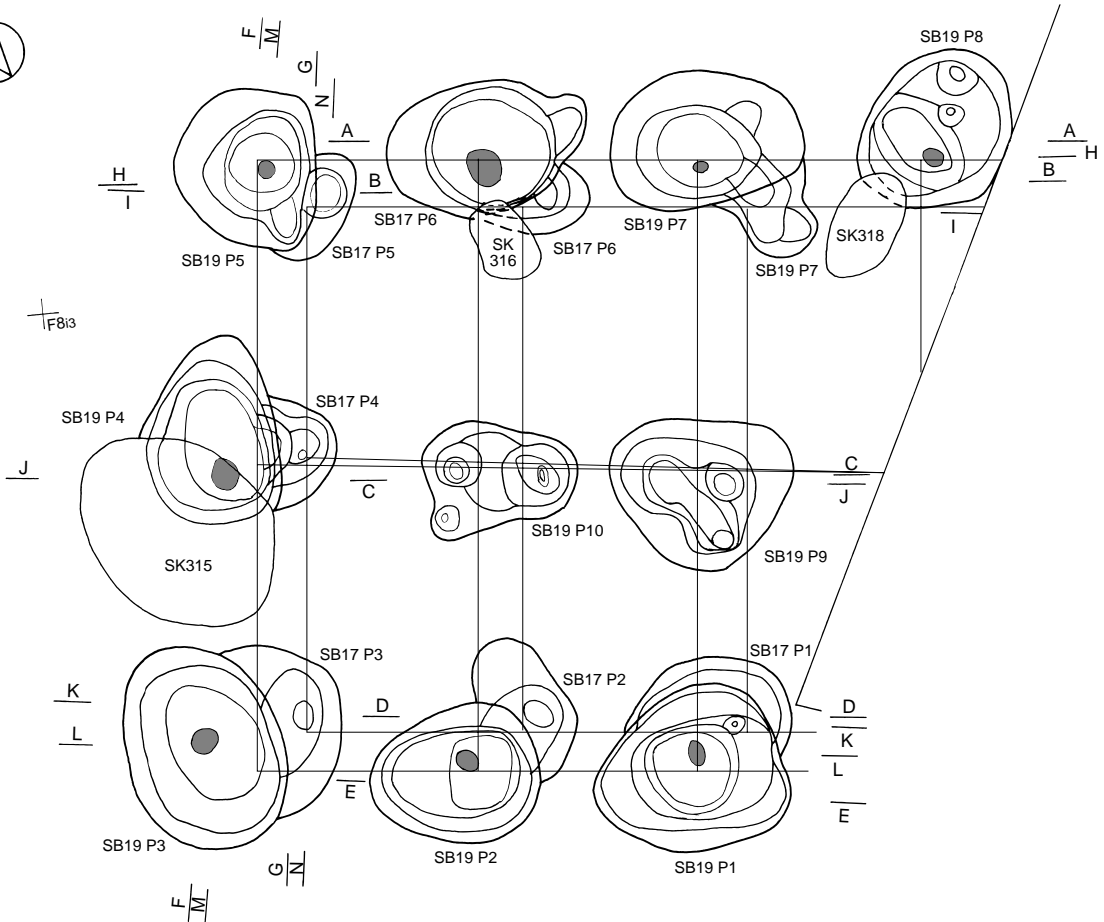
柱穴 10か所。P1～P8の平面形は楕円形状で、深さは78～104cmである。P9・P10は束柱穴で、平面形は楕円形状で、深さは37～56cmである。土層は、第1層が柱痕跡に相当し、第2～13層は埋土であり、ローム粒子及びロームブロックを含む褐色及び暗褐色系の土で、強く突き固められた痕跡は認められない。

土層解説

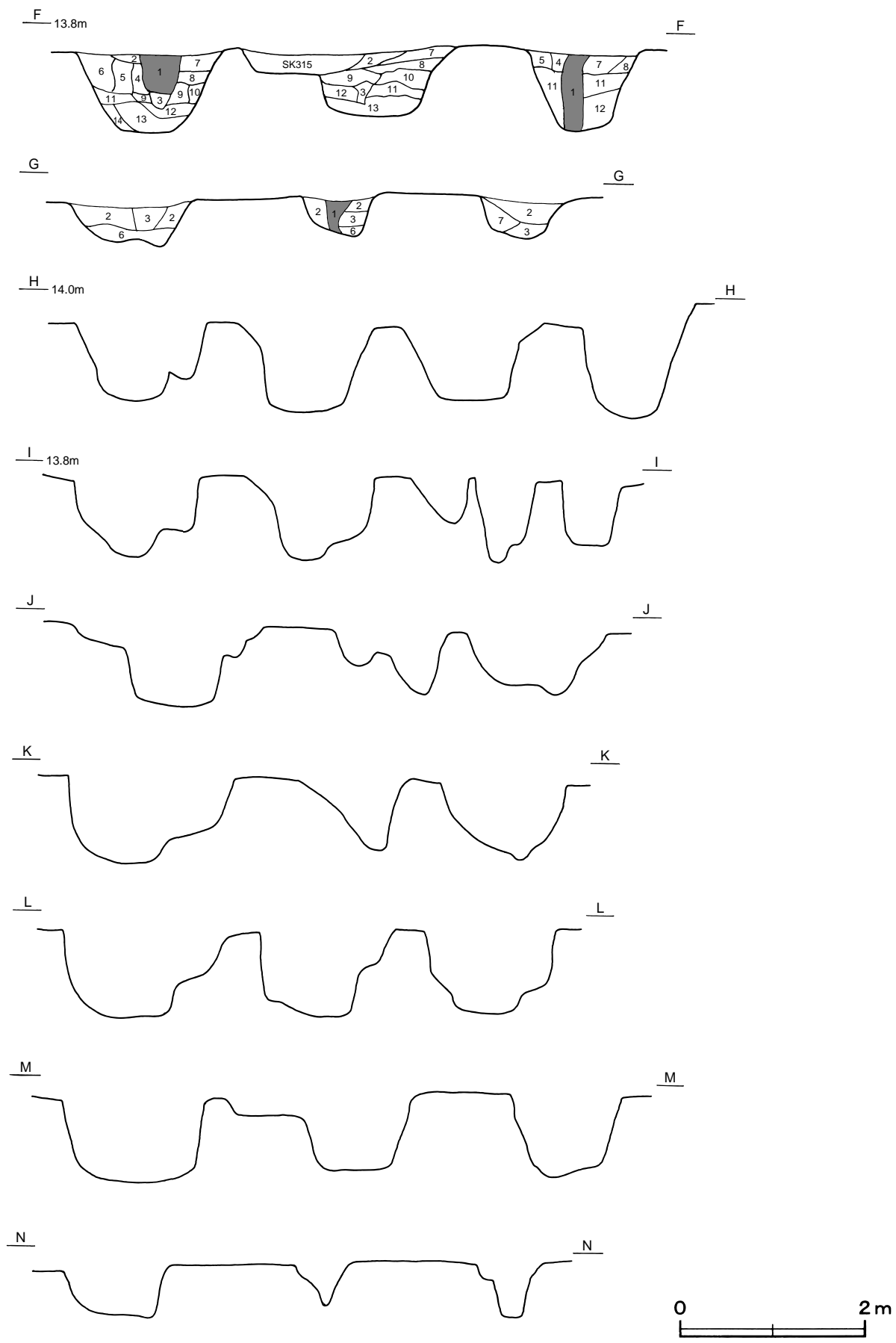
1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量	10 褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量 (ローム中ブロック含む)	11 極暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック中量
4 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量 (粘性強い)
5 暗褐色	ロームブロック少量	14 褐色	ロームブロック多量
6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量	15 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
7 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量・炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子中量	17 極暗褐色	ロームブロック中量
9 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量 (粘性・縮まり強い)	18 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片73点（坏類9，甕類64），須恵器片24点（坏類18，高台付坏1，蓋2，甕3）が出土している。51・52はP6の埋土から出土している。

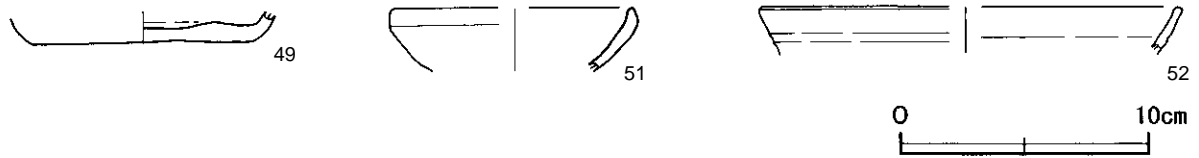
所見 時期は、出土土器及び周囲の遺構との関連から8世紀中葉以降と考えられる。また、柱穴の配列から第17号掘立柱建物跡から建て替えが行われたものと考えられる。



第26图 第17・19号掘立柱建物跡実測図(1)



第27图 第17・19号掘立柱建物跡実測図(2)



第28図 第17・19号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
49	須恵器	坏	-	(1.3)	[9.0]	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	P 4 埋土	5%

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
51	土師器	坏	[9.6]	(2.5)	-	石英	明赤褐	普通	□縁部外面横ナデ 外面摩耗調整不明 内面ナ テ	P 6 埋土	5%
52	須恵器	坏	[16.8]	(1.9)	-	長石	黄灰	普通	ロクロナデ	P 6 埋土	5%

(3) 方形竪穴遺構

第3号方形竪穴遺構 (第29～31図)

位置 調査1区のG7d2区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第4号方形竪穴遺構の西壁部を掘り込み、第256・278・314号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.05m、短軸2.05mの台形で、主軸方向はN - 83° - Wである。壁高は29cmで、外傾して立ち上がっている。

床 全面に小さな凹凸が顕著に見られるが、ほぼ平坦である。全面が硬化しており、北部がわずかに赤変していることから、火熱を受けたことが考えられる。北壁や西壁も赤変しているが、焼土の堆積は確認されなかった。

ピット 1か所。深さ20cmで、性格は不明である。

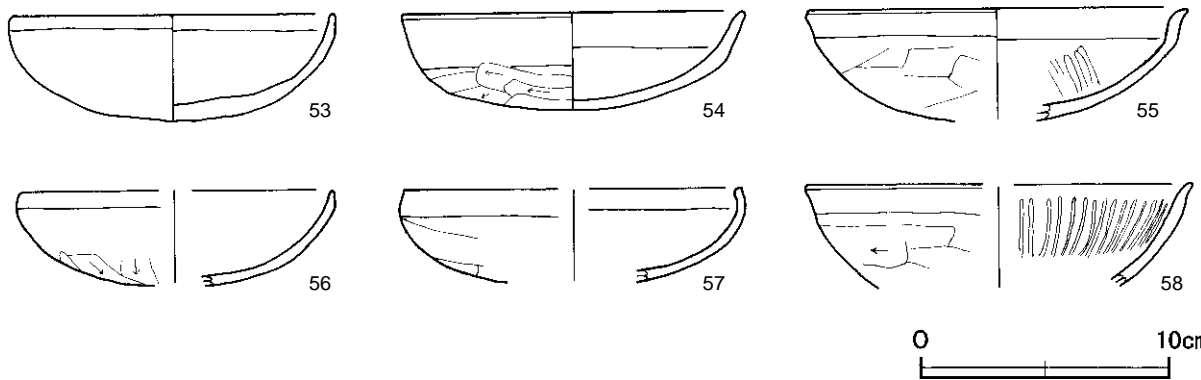
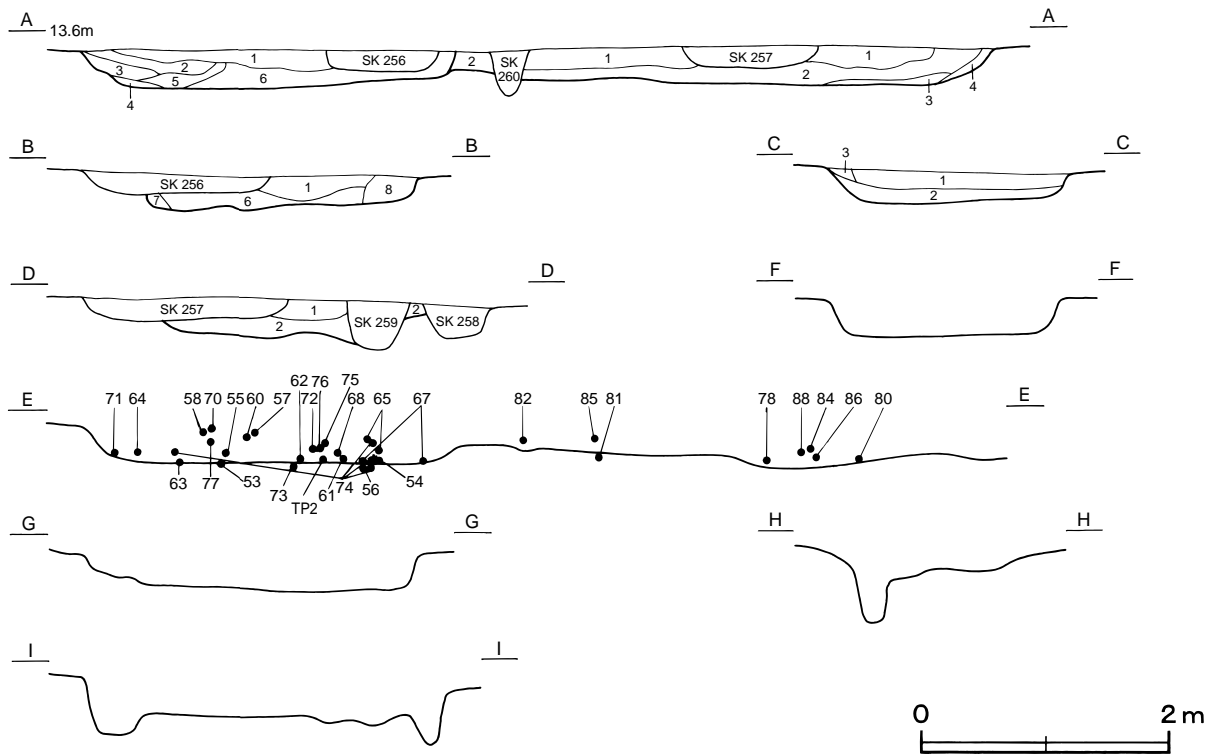
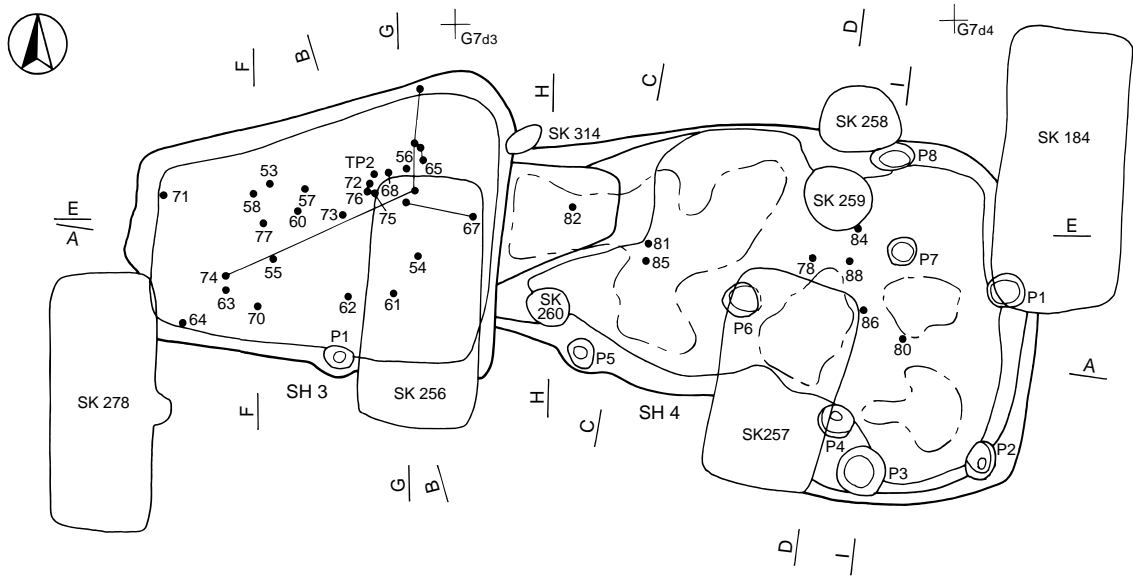
覆土 8層からなる。ブロック状の不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

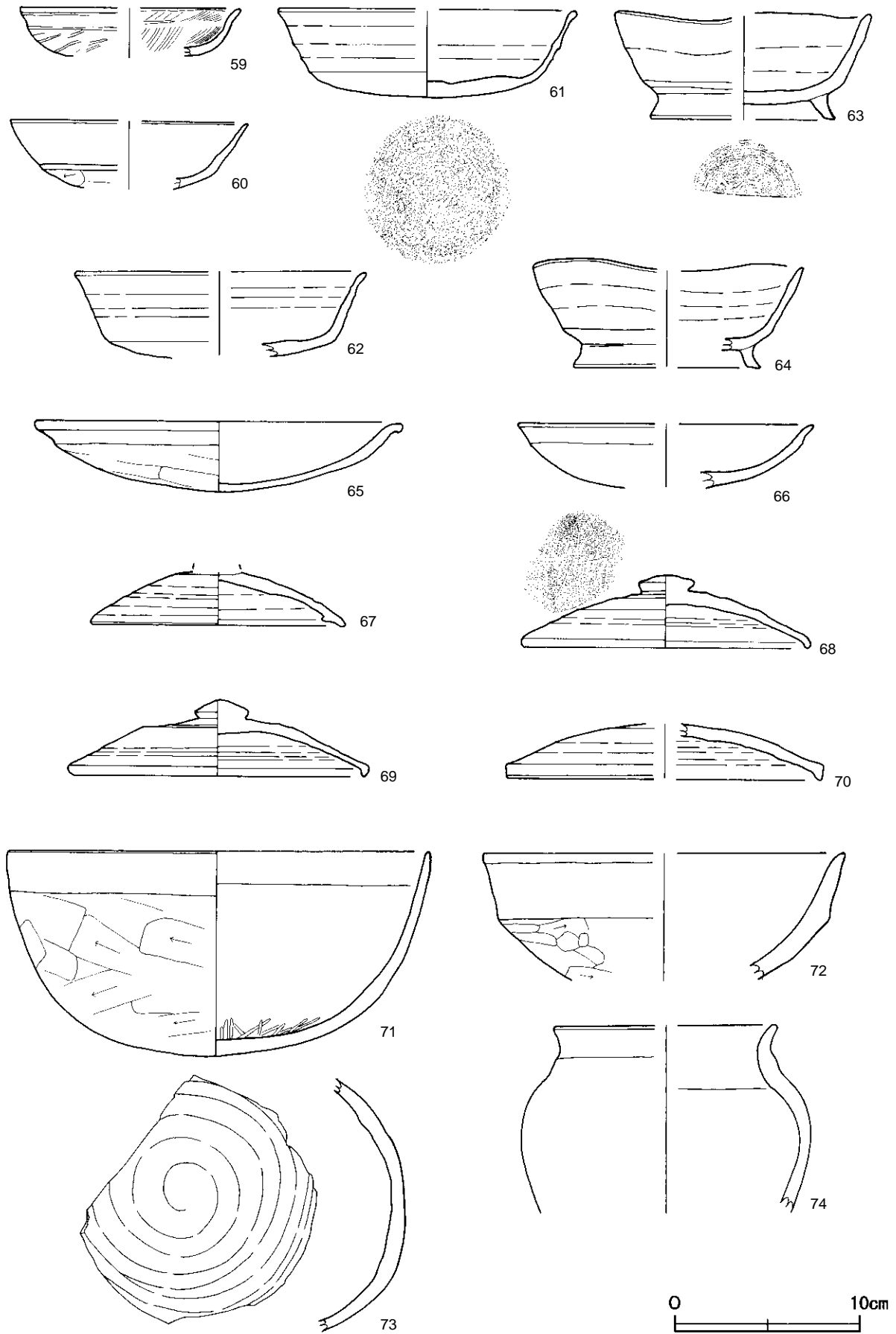
1	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	5	黒褐色	焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
3	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック微量
4	黒褐色	ローム粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片416点 (坏類222, 鉢8, 甕類186), 須恵器片71点 (坏類20, 高台付坏4, 蓋30, 瓶2, 甕15) が、全体にわたって、覆土上層から床面までまんべんなく出土していることから、一括して投棄されたと考えられる。出土量は当遺跡の中で最多である。

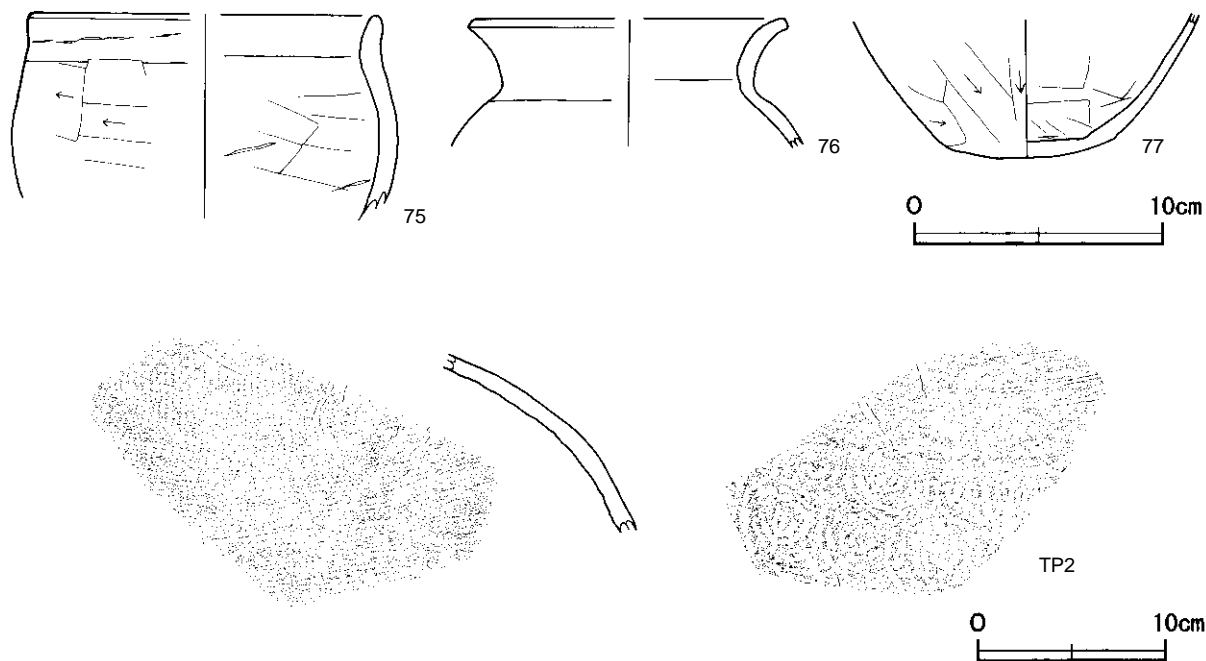
所見 廃棄時期は、出土土器から、7世紀末葉から8世紀前葉と考えらる。土器の出土状況から、最終的には廃棄土坑であったと考えられるが、本来の性格は不明である。



第29図 第3・4号方形竖穴遺構・第3号方形竖穴遺構出土遺物実測図



第30图 第3号方形竖穴遺構出土遺物実測図(1)



第31図 第3号方形竪穴遺構出土遺物実測図(2)

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第29・30・31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
53	土師器	坏	13.0	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外横ナデ 外面摩耗調整不明 内面ナデ	中央部北壁寄り床面	90% PL 7
54	土師器	坏	13.8	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部内外横ナデ 底部へら削り 内面ナデ	中央部南東コーナー部寄り床面	80% PL 7
55	土師器	坏	15.2	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨きの痕跡 内外面赤彩の痕跡	中央部下層	50% PL 7
56	土師器	坏	[12.6]	3.8	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部へら削り	北東コーナー部床面	50% PL 7
57	土師器	坏	[13.6]	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削りカ 内面ナデ	中央部上層	30%
58	土師器	坏	[15.6]	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	北西コーナー部上層	20%
59	土師器	坏	[12.0]	(2.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横ナデ後へら磨き 内面横ナデ 外面へら磨き 口辺部内面二段斜放射暗文	覆土中	10% 畿内系土師器
60	土師器	坏	[12.8]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	口縁部内外横ナデ 底部へら削り	中央部上層	20%
61	須恵器	坏	[15.8]	4.7	9.8	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へら削り	中央部南東コーナー部寄り床面	60% PL 7
62	須恵器	坏	[15.8]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転へら削り	中央部南壁寄り床面	30%
63	須恵器	高台付坏	[13.8]	5.7	[10.0]	長石	灰	普通	底部回転へら削り後高台貼付	南西コーナー部床面	40%
64	須恵器	高台付坏	[14.6]	6.0	[10.0]	長石・石英	灰	普通	高台貼付	南西コーナー部下層	30%
65	土師器	皿	19.8	3.8	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横ナデ 底部外面へら削り 内面ナデ	北東コーナー部下層	50% PL 8
66	土師器	皿	[16.0]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部摩耗調整不明 内面ナデ 赤彩の痕跡	覆土中	20%
67	須恵器	蓋	13.6	(2.8)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転へら削り	東壁際及び中央部床面	90% PL 8
68	須恵器	蓋	15.4	3.9	-	長石	灰	普通	天井部回転へら削り	中央部下層	80% 外面十字のへら記号 PL8
69	須恵器	蓋	15.8	4.1	-	長石	灰	普通	天井部回転へら削り	覆土中	60% PL 8
70	須恵器	蓋	[16.8]	(3.0)	-	長石	黄灰	普通	天井部回転へら削り	南西コーナー部上層	20%
71	土師器	鉢	22.6	11.0	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内外横ナデ 外面へら削り 内面ナデ後へら磨き	西壁際下層	80% PL 8
72	土師器	鉢	[19.4]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	中央部下層	30%
73	須恵器	長頸瓶	-	(13.3)	-	長石	灰	普通	縦位のロクロナデ 上部自然釉	中央部床面	40%
74	土師器	小形甕	[11.8]	(10.0)	-	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面摩耗調整不明 内面ナデ	北東及び南西コーナー部床面	25% PL 9
75	土師器	小形甕	[13.8]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ 内外面輪積み痕	中央部中層	20%
76	土師器	小形甕	[12.4]	(5.1)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内外横ナデ	中央部下層	10% PL 8
77	土師器	甕	-	(5.5)	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下位へら削り 内面ナデ	中央部中層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP2	須恵器	甕	-	(9.3)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄褐	普通	外面上位縦位の平行敲き 内面同心円上の当 て具痕	中央部床面	5% PL11

第4号方形竪穴遺構 (第29・32・33図)

位置 調査1区のG7d3区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第3号方形竪穴遺構，第184・257～260・314号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長軸4.34m，短軸2.88mの台形又はL字形で，主軸方向はN - 82° - Wである。壁高は30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが，北西コーナー部が緩やかに傾斜している。中央部が，部分的に踏み固められている。

ピット 8か所。深さは17～37cmで，性格は不明である。

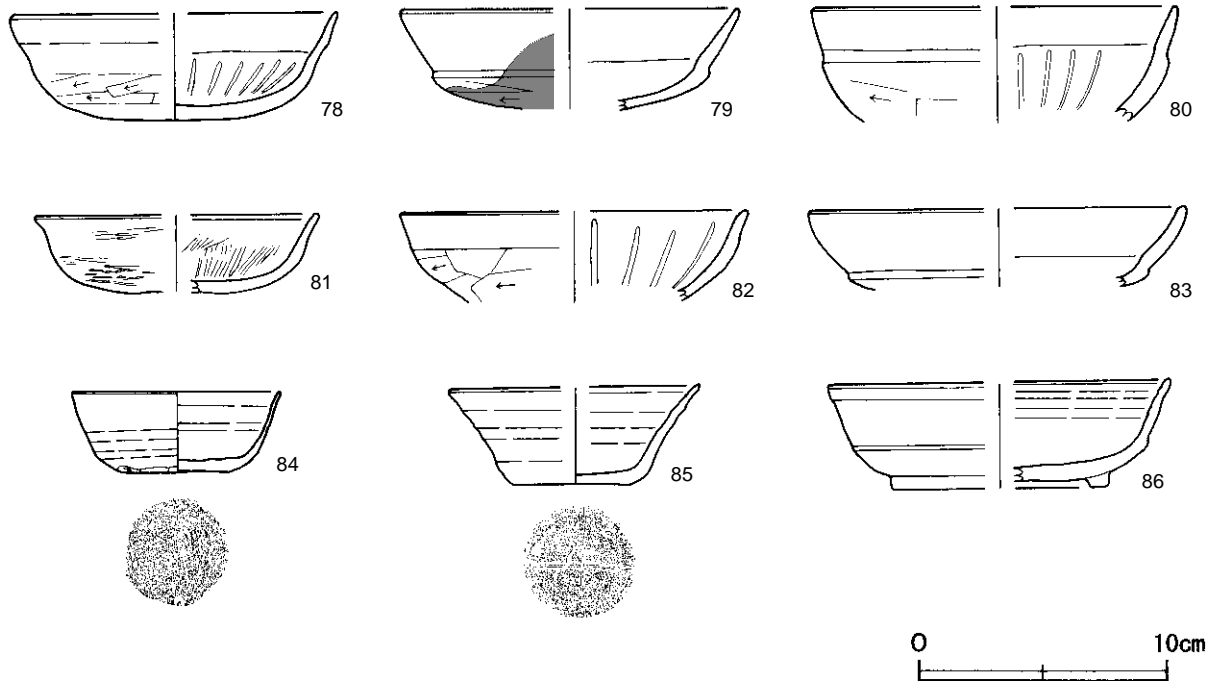
覆土 4層からなる。ブロック状の不自然な堆積状況を呈しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

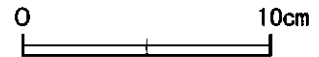
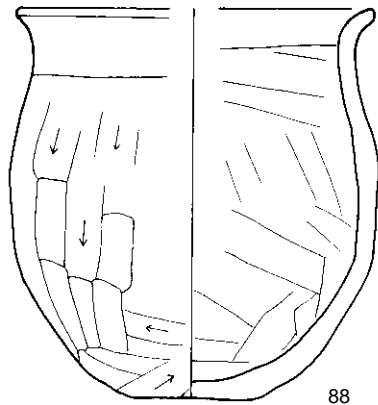
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片71点 (坏類49, 甕類22), 須恵器片32点 (坏類6, 蓋16, 甕10) が，全体にわたって，覆土上層から床面までまんべんなく出土していることから，一括して投棄された遺物と考えられる。

所見 廃棄時期は，出土土器及び重複関係から7世紀末葉から8世紀前葉と考えられる。位置及び遺構の様相から第3号方形竪穴遺構と同時期と考えられる。



第32図 第4号方形竪穴遺構出土遺物実測図(1)



第33図 第4号方形竪穴遺構出土遺物実測図(2)

第4号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第32・33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
78	土師器	坏	[13.2]	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	中央部下層	40% PL 7
79	土師器	坏	[13.4]	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部へら削り 煤付着	覆土中	20%
80	土師器	坏	[14.5]	(4.6)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外横ナデ 底部へら削り 内面放射状のへら磨き	中央部東壁寄り床面	10%
81	土師器	坏	[11.2]	(3.0)	-	長石	橙	普通	体部外面へら磨き 口辺部内面二段斜放射暗文 底部内面螺旋暗文	中央部西壁寄り床面	20% 畿内系土師器
82	土師器	坏	[13.8]	(3.6)	-	長石	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	北西コーナー部下層	10%
83	土師器	坏	[15.0]	(3.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内外横ナデ	覆土中	10%
84	須恵器	坏	8.3	3.2	4.3	長石	灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部多方向のへら削り	中央部下層	80% PL 8
85	須恵器	坏	[10.1]	3.9	4.6	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り	中央部西壁寄り下層	40% 底部十字のへら記号
86	須恵器	高台付坏	[13.6]	4.2	[8.6]	長石・石英	灰	普通	底部高台貼付	中央部下層	40%
87	須恵器	蓋	[17.8]	(2.9)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転へら削り	覆土中	50%
88	土師器	甗	[14.2]	15.6	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	中央部下層	20%

表2 奈良時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧 新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉	竈	貯蔵穴				
59	G 7 c 8	N・26°・W	長方形	5.33×4.63	35~44	平坦貼床	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 鉄製品	7世紀末葉~8世紀前葉	本跡 S K 263	
60	F 7 j 9	N・29°・W	方形	3.55×3.41	40~42	平坦貼床	ほぼ全周	2	1	2	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀末葉~8世紀前葉	本跡 S B 15・18	
61	F 7 i 6	N・6°・W	方形	4.35×4.31	38~50	平坦貼床	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄器・鉄製品	8世紀前葉	本跡 S K 320	
62	G 7 e 7	N・16°・W	方形又は長方形	3.50×(0.42)	55	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉		
63	F 8 j 2	N・7°・W	方形又は長方形	4.34×(1.00)	44	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉		
64	F 8 j 3	N・5°・W	方形	5.54×5.54	41~50	平坦貼床	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	7世紀末葉~8世紀前葉		
65	F 8 g 5	N・28°・W	長方形	3.78×3.30	38~55	平坦貼床	ほぼ全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 鉄器	8世紀前葉		

表3 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴				主な出土遺物	重複関係 (古 新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)		
15	F 7 i 8	N・5°・E	4×2	7.20×4.80	34.56	1.80	2.40	総柱	14	楕円形 隅丸方形	18~85	土師器, 須恵器	S I 60 S B 18 本跡 S E 21

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴				主な出土遺物	重複関係 (古 新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ (cm)		
17	F 8 i3	N・82°W	(2)×2	(5.40)×4.20	(22.68)	1.80	2.10	総柱カ	7	不明	52~90	土師器, 須恵器	本跡 S B 19
18	F 7 i8	N・5°E	4×2	7.60×4.80	36.48	1.90	2.40	総柱	12	不明	17~78	土師器	S I 60 本跡 S B 15
19	F 8 i3	N・83°W	(3)×2	(6.00)×4.80	(28.80)	1.80	2.40	総柱	10	楕円形	37~104	土師器, 須恵器	S B 17 本跡 S K 315・316・318

表4 奈良時代方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧 新)
								主柱穴	張り出し部	ピット	火処				
3	G 7 d2	N・83°W	台形	3.05×2.05	29	平坦	-	-	-	1	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀末葉~8世紀前葉	S H 4 本跡 S K 256・278・314
4	G 7 d3	N・82°W	台形カ	(4.34)×2.88	30	平坦	-	-	-	8	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀末葉~8世紀前葉	本跡 S H 3, S K 184・257・260・314

2 平安時代の遺構と遺物

竪穴住居跡 5軒, 掘立柱建物跡 1棟が確認された。以下, 確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第54号住居跡 (第34図)

位置 調査1区のG 6 e7区で, 標高13mの台地の縁辺部に位置している。本跡は平成13年度に西部を, 平成16年度に東部を調査したが, 前回分の調査成果も含めて記載する。

重複関係 南西壁の上部を第164号土坑に, 中央部の南側を第171号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.80m, 短軸3.47mの長方形で, 主軸方向はN - 48° - Eである。壁高は10~26cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。掘り方調査を行ったところ, 貼床であることが確認された。掘り方は, 竈の手前が深く掘り込まれている。竈手前には, 袖材の粘土が流れて広がっている。壁溝が, 竈の両脇を除き巡っている。

竈 北東壁のやや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで125cm, 袖部幅120cmである。左袖部は, 掘り方に暗褐色土を充填して, 右袖部は掘り残した地山面を基部として, 白色粘土で構築されている。火床部は床面を15cm掘りくぼめて, 暗褐色土を埋め戻している。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm三角形に掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量
2	暗 褐色	粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量			
3	暗 赤 褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
4	暗 赤 褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	9	暗 赤 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量
5	黒 褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
6	黒 褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量			

ピット 4か所。前回の調査で, P 1は貯蔵穴の可能性が考えられ, P 2・P 3は性格不明となっている。今回, P 4が確認され, 深さ31cmで, P 1と同様にコーナー部にあることから, P 1・P 4が主柱穴であった可能性も考えられる。

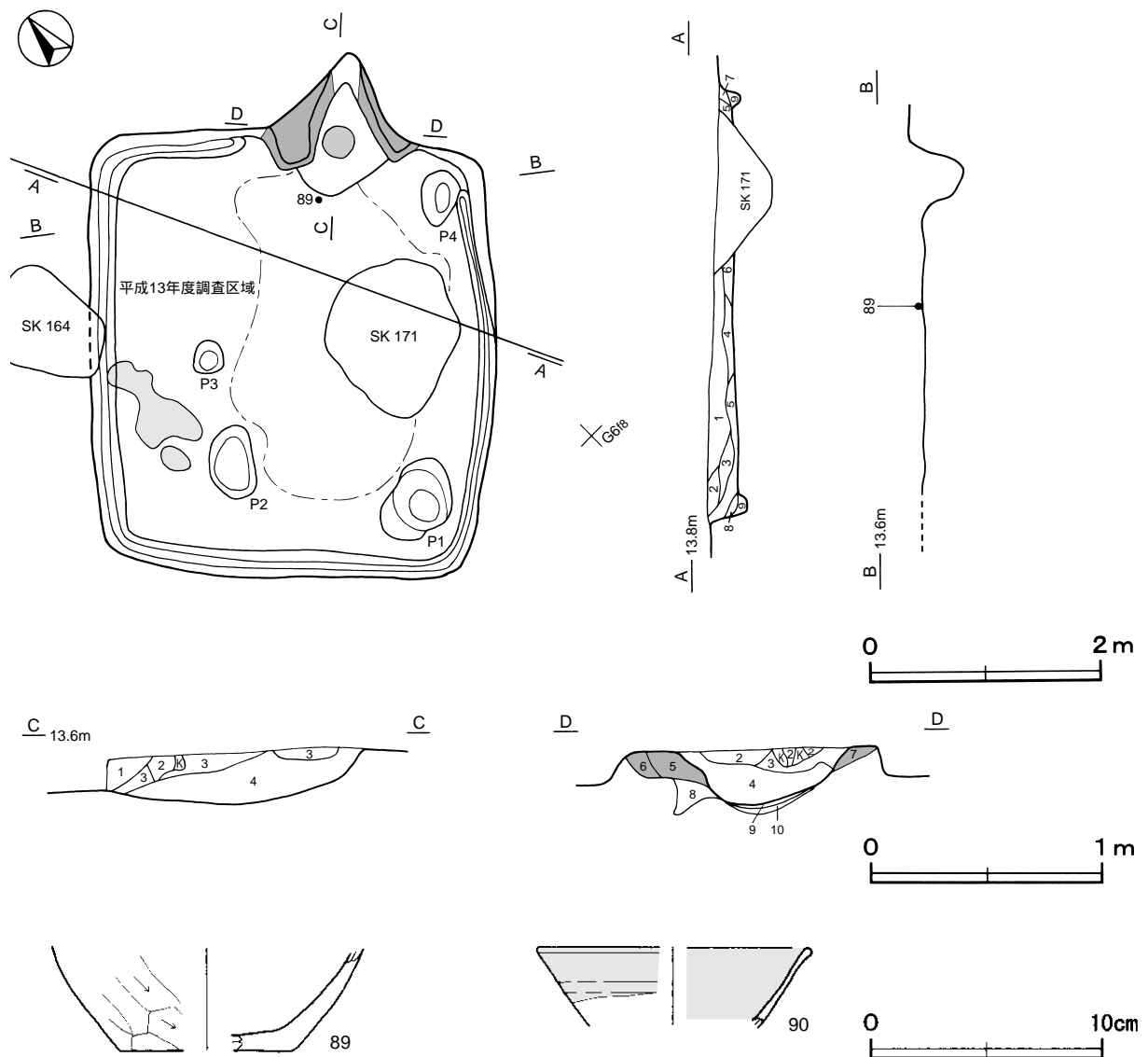
覆土 前回の調査で、9層からなる自然堆積であることが明らかになっている。以下、土層解説を記載する。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量	6 褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック微量
4 褐色	ロームブロック多量，粘土粒子微量	8 褐色	焼土ブロック微量
		9 暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 今回の調査区域からは、土師器片38点（坏類4，甕類34），須恵器片1点（蓋），灰釉陶器片7点（椀カ）が出土している。89は竈手前の床面，90は床面直下から出土している。また，細片のため図示することができなかったが，竈の覆土中からは土師器の甕の体部片が出土している。

所見 時期を『羽黒遺跡』では，出土土器から10世紀前葉と考えており，今回出土した土器は少量であるが，それを裏付けるものであると考えられる。



第34図 第54号住居跡・出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
89	土師器	甕	-	(4.5)	[7.4]	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	外面下位へラ削り 内面ナデ	竈手前床面	5%
90	灰釉陶器	椀	[11.6]	(3.4)	-	緻密	黄灰	良好	内外面施釉	床面直下	5%

第55号住居跡 (第35～37図)

位置 調査1区のG6h9区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

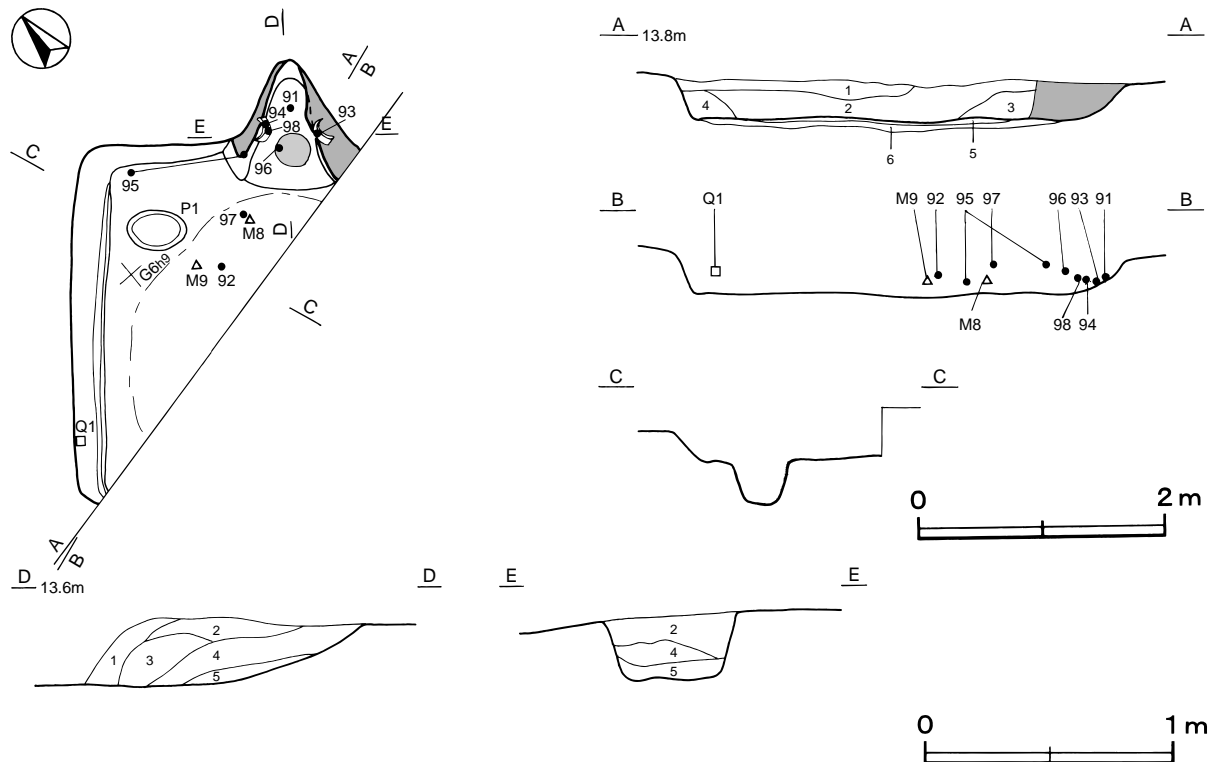
規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため、確認されたのは長軸2.87m、短軸2.17mだけで、方形又は長方形と推測される。主軸方向はN - 49° - Eである。壁高は30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。全面が貼床で、ロームブロックを中量含む褐色土及び明褐色土を5～10cm埋め土して構築されている。掘り方は、地山をほぼ均一の深さで掘り込んでいる。壁溝が、西壁際を巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅108cmである。袖部は、砂質粘土で構築されており、補強材として土師器の甕が埋め込まれている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に63cm三角形状に掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 | 4 明赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量, 炭化粒子極微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量, 炭化粒子極微量 | | |



第35図 第55号住居跡実測図

ピット 1か所。深さ49cmで、支柱穴と考えられる。

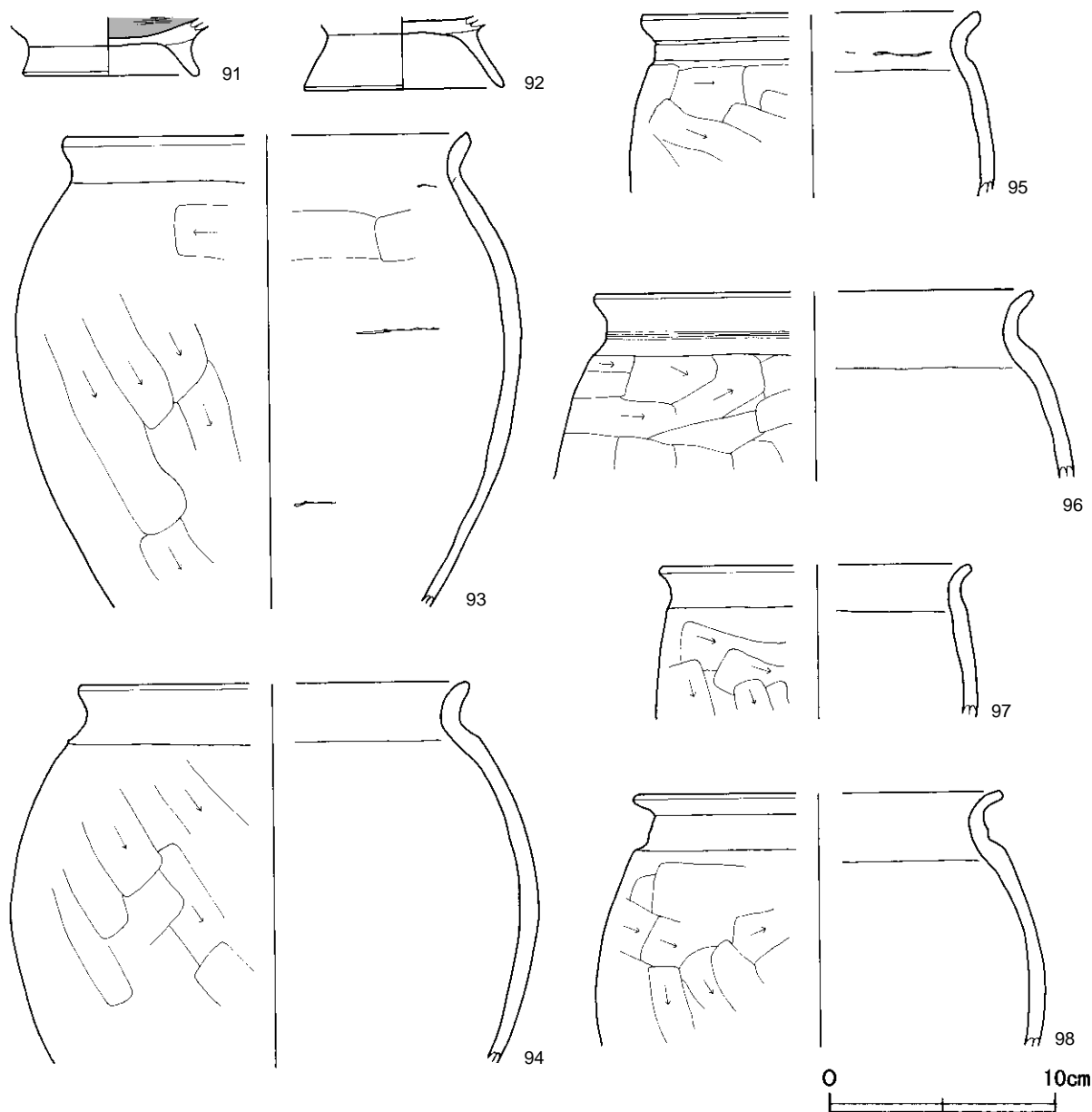
覆土 4層からなる。ロームブロックを含みブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。5・6層は貼床の構築土である。

土層解説

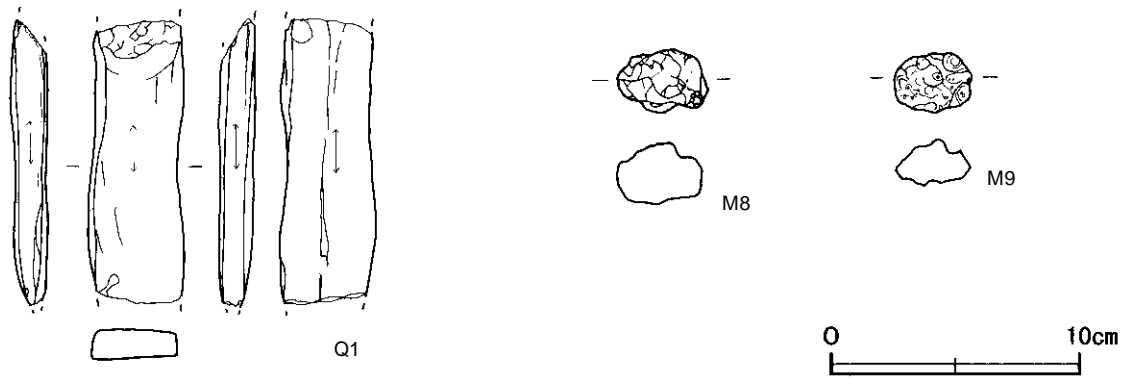
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子極微量 |

遺物出土状況 土師器片163点（坏類7，高台付坏3，甕類153），須恵器片9点（坏類），灰釉陶器片6点（椀カ），石器1点（砥石），鉄滓11点が出土している。93・94は竈の袖部に補強材として埋め込まれており、同一個体の可能性が考えられる。91は竈の底面，92は中央部，Q1は西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。95は竈の覆土上層と北コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第36図 第55号住居跡出土遺物実測図（1）



第37図 第55号住居跡出土遺物実測図(2)

第55号住居跡出土遺物観察表(第36・37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
91	土師器	椀	-	(2.5)	7.6	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部高台貼付後ナデ	竈底面	20% 内面黒色処理
92	土師器	椀	-	(3.2)	8.8	石英・赤色粒子	橙	普通	底部高台貼付後ナデ	中央部覆土中層	20%
93	土師器	甗	[17.8]	(20.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り内面ナデ	竈右袖部内側	40% PL9
94	土師器	甗	[17.2]	(16.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り内面ナデ	竈左袖部内側	35% PL9
95	土師器	甗	[14.8]	(8.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ内面ナデ 口縁部内面輪積み痕	北コーナー部下層及び竈下層	20% PL9
96	土師器	甗	[19.4]	(8.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外横ナデ 外面ヘラ削り 内面ナデ	竈中層	10%
97	土師器	甗	[13.6]	(6.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 外面ヘラ削り 内面ナデ	竈左袖部手前中層	10% PL9
98	土師器	甗	[16.2]	(11.2)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外横ナデ 外面ヘラ削り 内面ナデ	竈左袖部内側	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	[11.3]	3.9	1.2	(110.4)	緑泥片岩	砥面4面	西コーナー部中層	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
M8	鉄滓	3.1	2.4	2.5	31.4	着磁性なし	竈左袖部手前下層	
M9	鉄滓	2.4	3.1	1.9	10.8	着磁性あり	北コーナー部下層	

第56号住居跡(第38・39図)

位置 調査1区のG6e9区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.28m、短軸2.98mの長方形で、主軸方向はN-71°-Eである。壁高は13~17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。竈左袖部の手前と中央部がややくぼんでおり、それを囲むよう北側と南側が踏み固められている。全面が貼床で、ロームブロックを中量含む褐色土を3~11cm埋め土して構築されている。掘り方は、地山をほぼ均一の深さで掘り込んでいる。壁溝が、東コーナー部と南壁際で部分的に巡っている。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅84cmである。袖部は床面と同じ高さ基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を7cm掘りくぼめて褐色土を埋め戻している。火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm三角形に掘り込まれて、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	5 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
4 暗褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

ピット 4か所。P1・P2は、深さ23・18cmで、配置と形状から支柱穴と考えられる。P3・P4は深さ15・22cmで、性格は不明である。

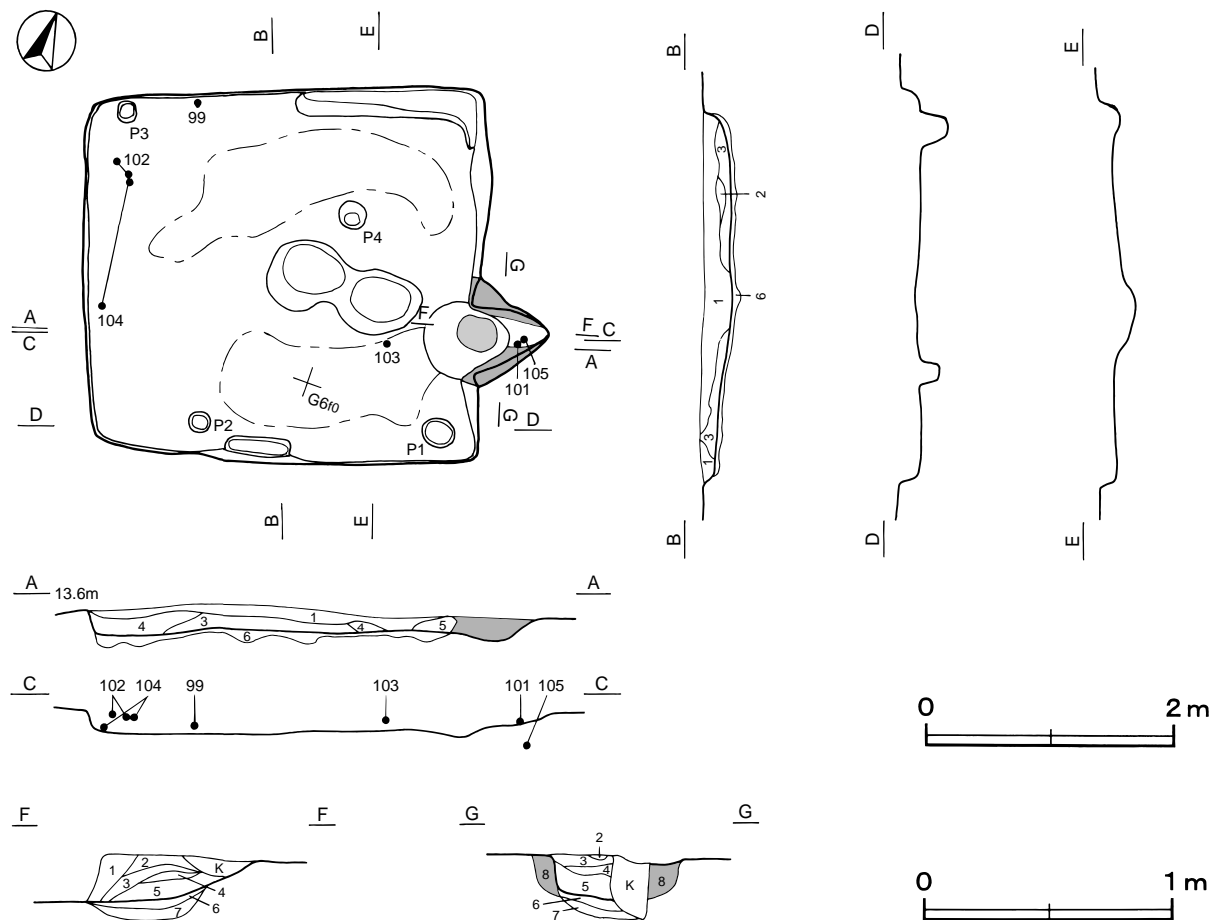
覆土 5層からなる。全体的に不規則な堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

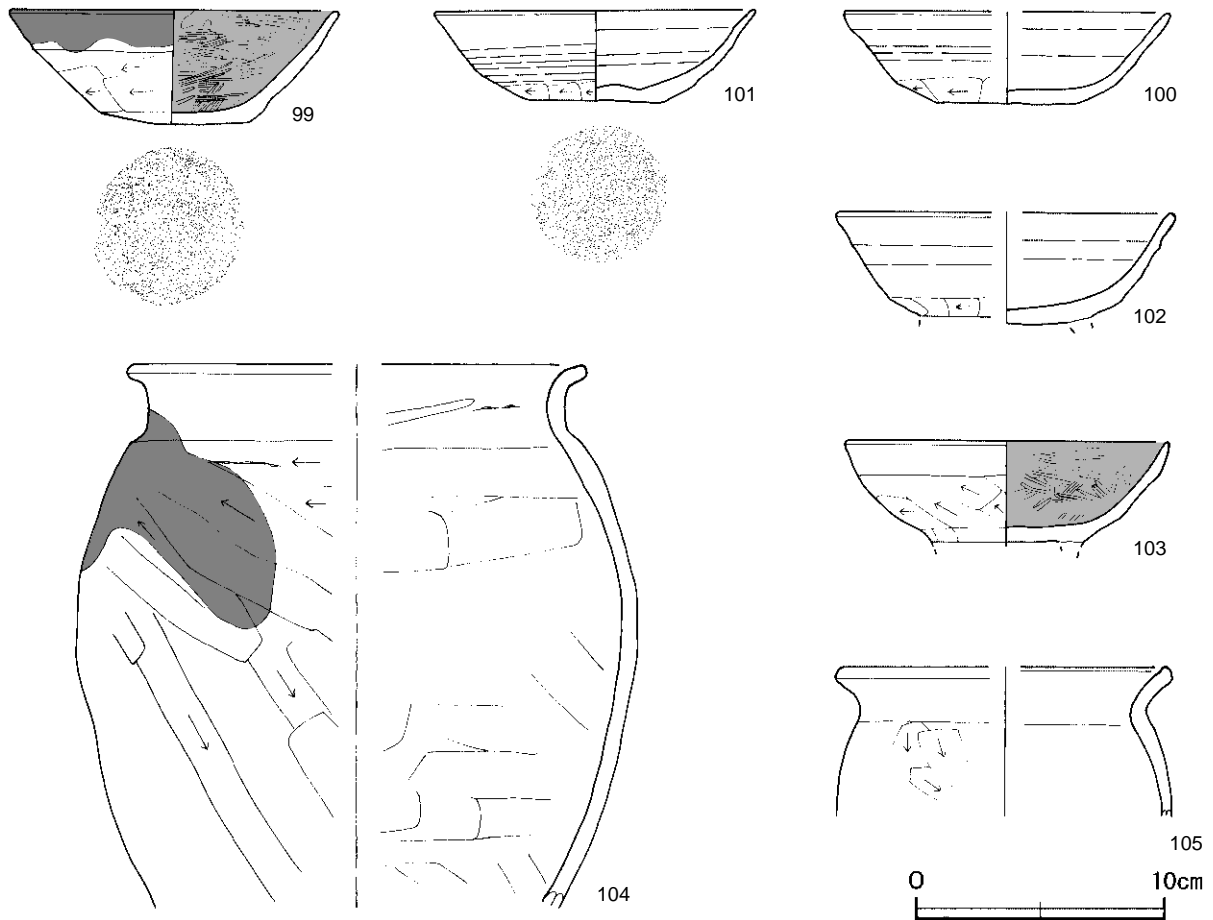
1 黒褐色	ロームブロック微量	5 黒褐色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
3 暗褐色	ロームブロック中量		
4 極暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片82点（坏類10，高台付坏3，甗類69），須恵器片9点（坏類4，高台付坏1，蓋1，甗3）が出土している。101は竈の底面から正位で，99は北壁際，103は竈手前の覆土下層からそれぞれ出土している。102は北西コーナー部の覆土上層，104は西壁際の覆土下層及び覆土上層から出土した破片が，それぞれ接合したものである。105は竈の掘り方から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第38図 第56号住居跡実測図



第39図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
99	土師器	坏	13.1	4.7	6.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き 外面煤・内面油煙付着 底部多方向のへら削り	北壁際下層	95% 内面黒色処理 PL7
100	土師器	坏	[13.0]	3.7	5.6	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちへら削り 底部へら削り後ナデ	南東コーナー部貼床中	30%
101	須恵器	坏	12.8	3.7	5.5	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちへら削り 底部へら削り後ナデ	竈底面	100% PL8
102	土師器	椀	[13.4]	(4.4)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちへら削り 底部高台貼付後ナデカ	北西コーナー部上層	60%
103	土師器	椀	13.0	(4.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き 底部高台貼付後ナデカ	竈手前下層	80% 内面黒色処理
104	土師器	甕	[18.2]	(21.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 外面へら削り後ナデ 煤付着 内面ナデ 内外面輪積み痕	西壁際上層及び下層	30% PL9
105	土師器	甕	[13.0]	(5.9)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面縦位のへら削り	竈掘り方	5%

第57号住居跡 (第40・41図)

位置 調査1区のG7g1区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 東壁部が第58号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南側部分が調査区域外に延びているため、南北軸は2.20mだけが確認された。東西軸は3.20mで、方形又は長方形と推測される。主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。中央部を除いて貼床で、ローム粒子を含む黒褐色土を2～8cm埋め土して構築されている。掘り方は、中央部を島状に掘り残し、竈手前とコーナー部を深く掘り込んでいる。

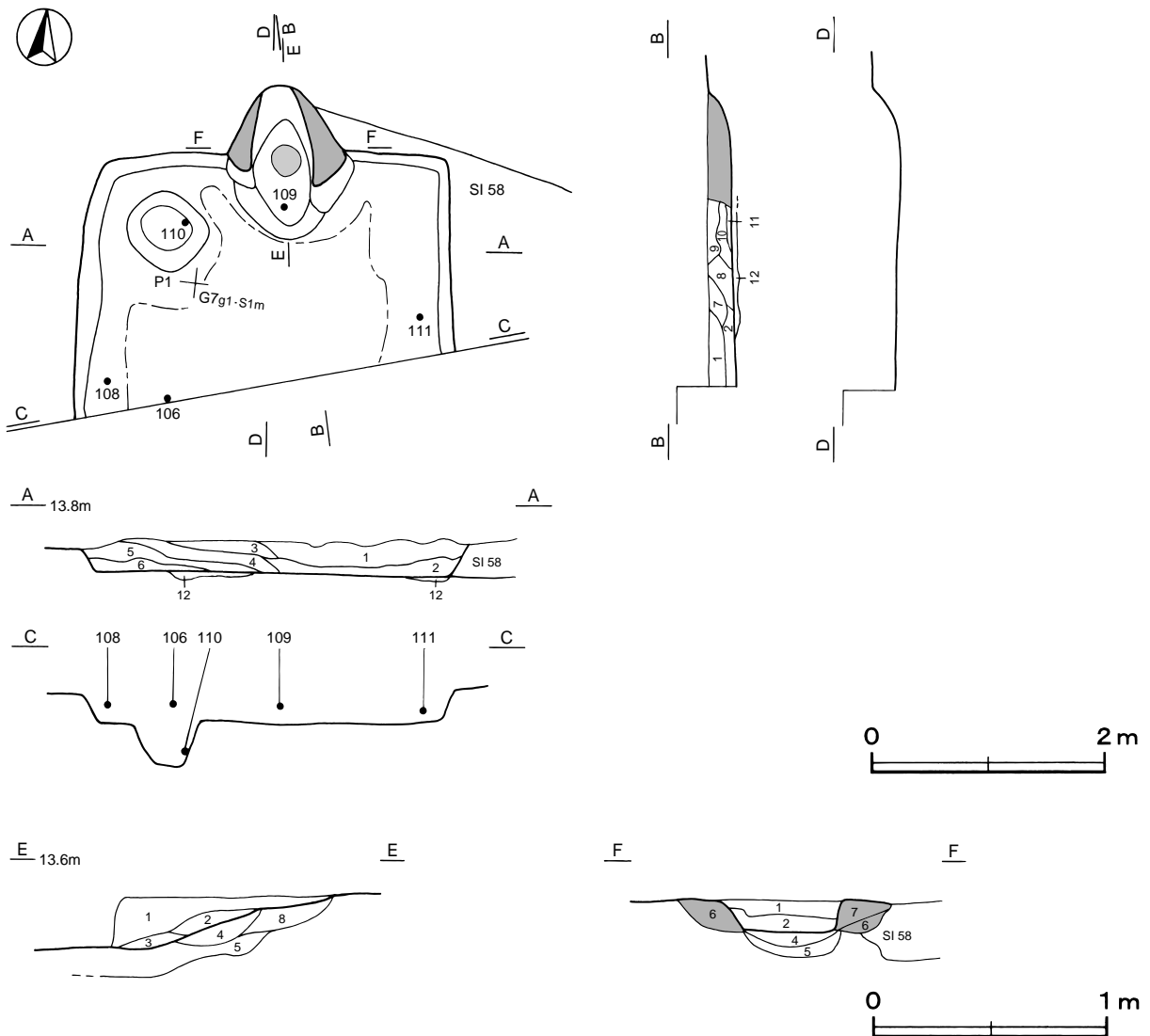
竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅103cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さを基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめて褐色土を埋め戻しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm三角形状に掘り込まれ、緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量 |

ピット 1か所。深さ40cmで、性格は不明である。

覆土 11層からなる。ブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。第12層は貼床の構築土である。



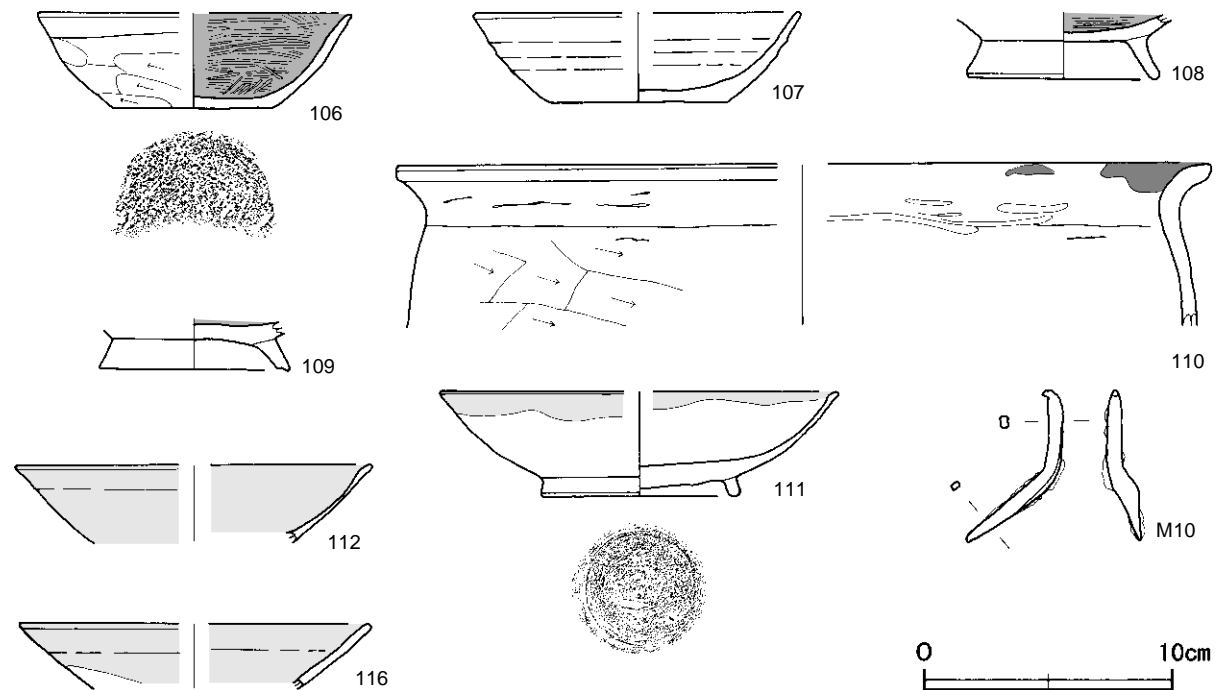
第40図 第57号住居跡実測図

土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒	褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒	褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	10	黒	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 (2より明度が低い)	11	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
5	黒	褐色	ロームブロック・炭化物微量	12	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 (締まり強い)
6	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量				
7	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量				

遺物出土状況 土師器片51点 (坏類16, 椀2, 甕類33), 須恵器片12点 (坏類6, 高台付坏2, 甕4), 灰釉陶器片3点 (椀), 鉄製品1点 (釘カ), 鉄滓1点が出土している。106は中央部の西壁寄り, 108は西壁際, 109は竈手前, 111は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。110はP1の覆土下層, 107は竈の覆土中から出土している。112, 116は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第41図 第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
106	土師器	坏	[12.4]	3.8	6.4	石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へラ削り 底部へラ削り 内面へラ磨き	中央部西壁寄り下層	50% 内面黒色処理 PL7
107	須恵器	坏	[13.0]	3.6	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転へラ切り後ナデ	覆土中	40% PL8
108	土師器	椀	-	(2.7)	7.6	長石・石英	橙	普通	内面へラ磨き 底部高台貼付後ナデ	西壁際下層	30% 内面黒色処理
109	土師器	椀	-	(1.9)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面へラ磨き 底部高台貼付後ナデ	竈手前下層	30% 内面黒色処理
110	土師器	甕	[32.6]	(6.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 内外面輪積み痕 口縁部内面煤付着	P1下層	5%
111	灰釉陶器	椀	[15.8]	4.2	7.6	緻密	灰白	良好	口縁部内外面施釉 見込み無釉	東壁際床面	40% PL8
112	灰釉陶器	椀	[14.4]	(3.1)	-	緻密	灰黄	良好	内外面施釉	覆土中	10%
116	灰釉陶器	椀	[14.0]	(2.6)	-	緻密	灰黄	良好	内外面施釉	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	釘カ	6.1	0.4	0.5	7.8	鉄	断面方形	覆土中	PL11

第58号住居跡 (第42図)

位置 調査1区のG7 g1区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 西壁部が第57号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南側部分が調査区域外に延びているため、確認されたのは長軸3.10m、短軸1.50mだけで、方形又は長方形と推測される。主軸方向はN - 23° - Eである。壁高は21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、東壁寄りが踏み固められている。確認された範囲内では、東壁際を除いて貼床で、ローム粒子及びロームブロックを含む黒褐色土及び褐色系の土を3～12cm埋め土して構築されている。掘り方は、地山をほぼ均一の深さで掘り込んでいる。壁溝が、北東コーナー部を巡っている。

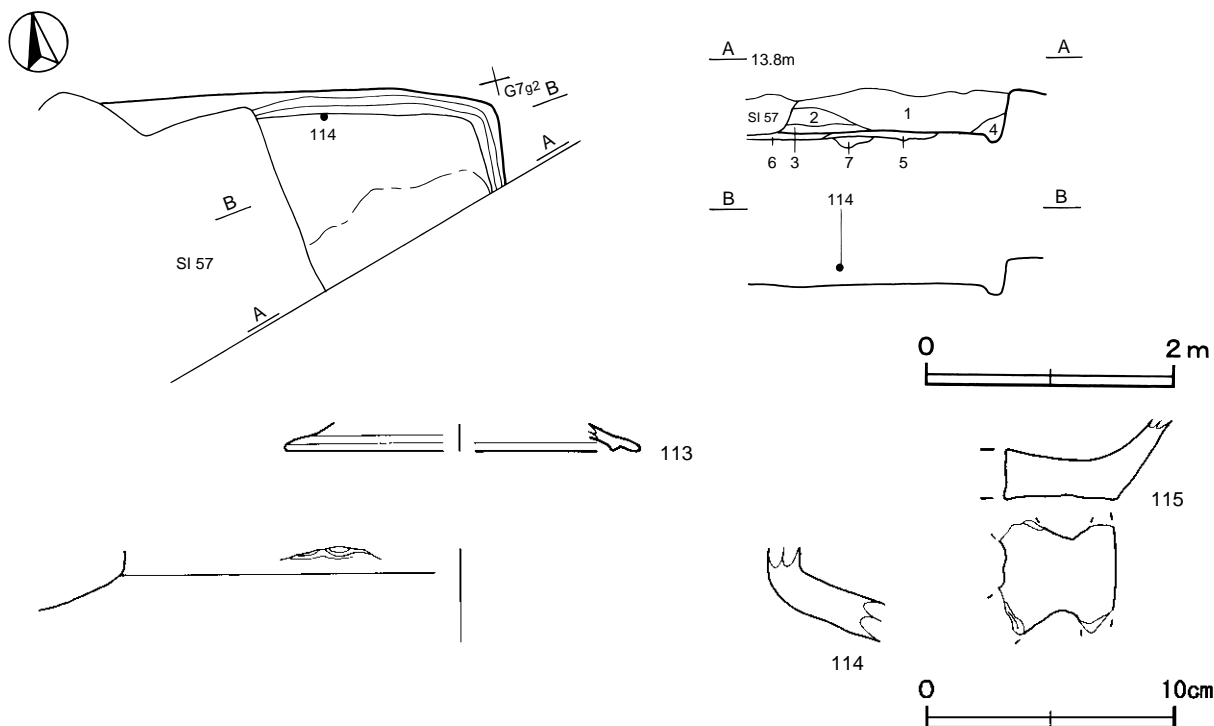
覆土 4層からなる。ブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。第5～7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 (締め強い) |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (2より明度が高い) | 7 明褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片71点 (坏類6, 椀2, 甕類62, 甑1), 須恵器片5点 (坏類1, 高台付坏1, 蓋2, 甕1) が出土している。114は北壁際の覆土上層, 113, 115は貼床の構築土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器及び重複関係から8世紀前葉から9世紀中葉と考えられる。



第42図 第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表 (第42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
113	須恵器	蓋	[14.2]	(1.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ	貼床中	5%
114	須恵器	甕	-	(3.9)	-	長石・赤色粒子	灰	普通	体部外面・頸部内面自然釉 工具による波状紋 内面ナデ	頸部外面櫛歯状 北壁際上層	5%
115	土師器	甌	-	(3.1)	-	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部へら削り 5孔式カ	貼床中	5%

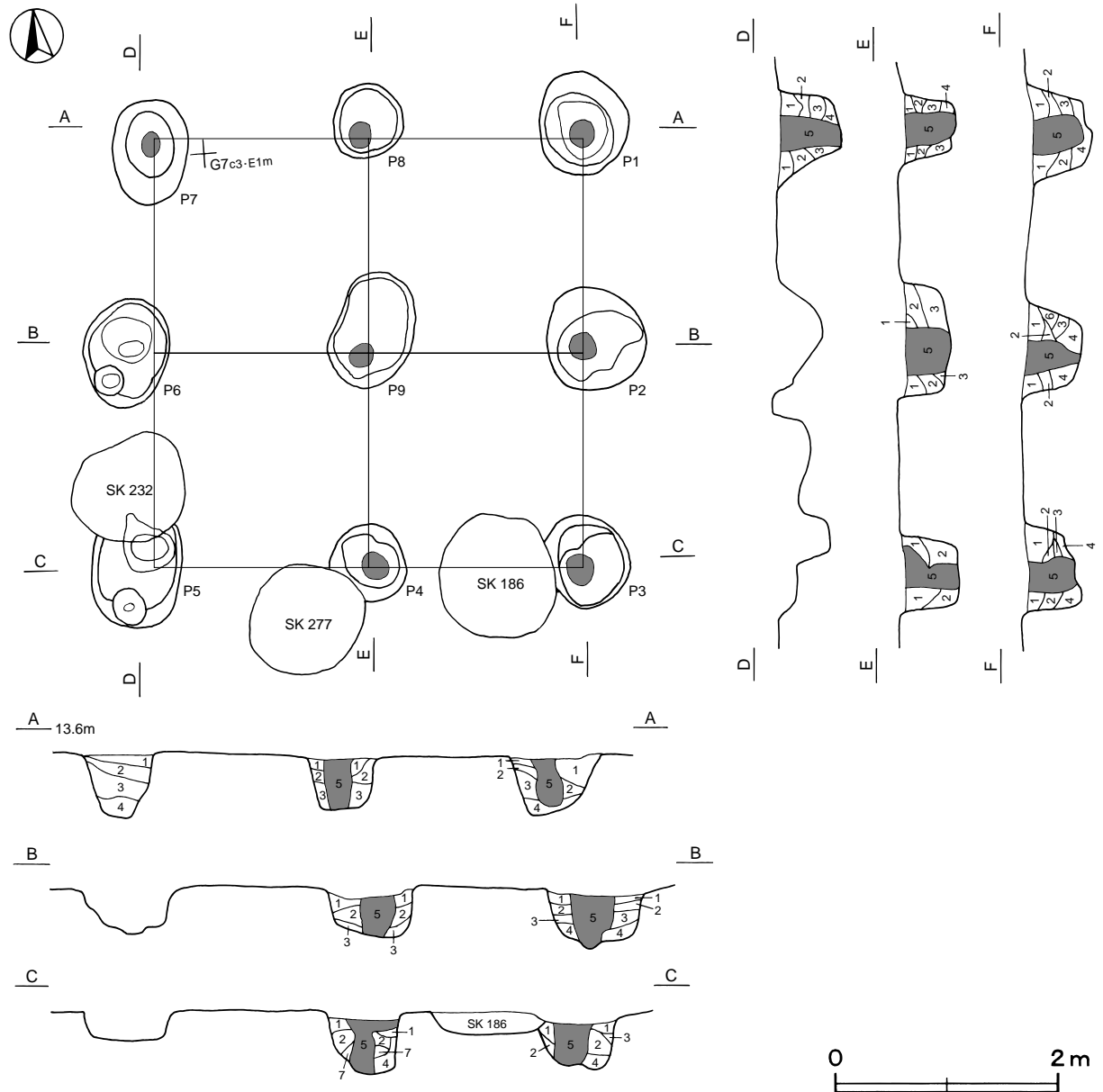
(2) 掘立柱建物跡

第16号掘立柱建物跡 (第43・44図)

位置 調査1区のG7c3区で、標高13mほどの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第186・232・277号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡である。桁行方向をN-7°-Eとする南北棟で、規模は桁行、



第43図 第16号掘立柱建物跡実測図

梁行とも3.80mである。柱間寸法は、1.90mを基調としており、面積は14.44㎡である。柱筋は、おおむね通っている。

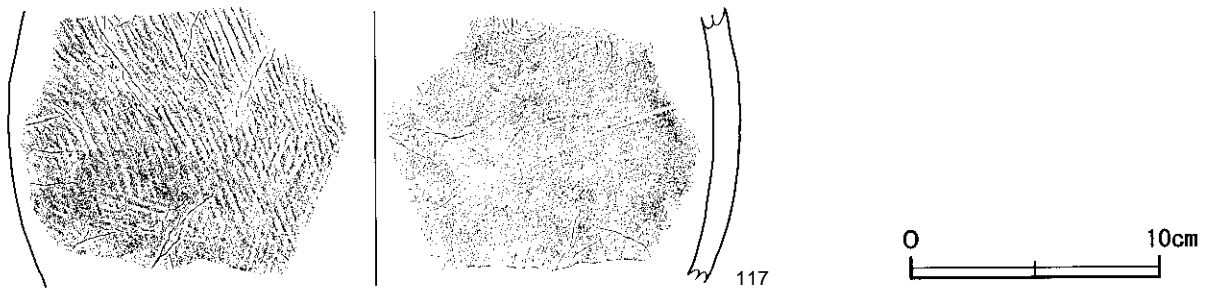
柱穴 9か所。平面形はほぼ円形で、深さは38～60cmである。土層は、第5層が柱痕跡に相当し、締まりは普通の黒褐色土、第1～4、6・7層は埋土でローム土を含む褐色・黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	5	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6	褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	炭化物少量，ローム粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片8点（甕），須恵器片4点（坏類1，甕3）が出土している。117はP1の柱痕跡から出土している。

所見 時期は、細片のため出土土器から判断できないが、遺構の配置や規模・構造から平安時代と考えられる。



第44図 第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
117	須恵器	甕	-	(11.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	外面斜位の平行敲き 内面ナデ 同心円状の当て具痕	P1柱痕跡	5%

表5 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧 新)
								支柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
54	G 6 e 7	N・48°・E	長方形	3.80×3.47	10～26	平坦 貼床	ほぼ 全周	2	-	2	竈1	-	自然	土師器，須恵器，灰釉 陶器	10世紀前葉	本跡 S K 164・ 171
55	G 6 h 9	N・49°・E	方形又は 長方形	2.87×(2.17)	30	平坦 貼床	一部	1	-	-	竈1	-	人為	土師器，須恵器，灰釉 陶器，石器，鉄滓	10世紀前葉	
56	G 6 e 9	N・71°・E	長方形	3.38×2.98	13～17	平坦 貼床	一部	2	-	2	竈1	-	人為	土師器，須恵器	9世紀後葉	
57	G 7 g 1	N・3°・W	方形又は 長方形	3.20×(2.20)	24	平坦 貼床	-	-	-	1	竈1	-	人為	土師器，須恵器，灰釉 陶器，鉄製品，鉄滓	10世紀前葉	S I 58 本跡
58	G 7 g 1	N・23°・E	方形又は 長方形	(3.10)×(1.50)	21	平坦 貼床	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器，須恵器	8世紀前葉～9世紀中葉	本跡 S I 57

3 その他の遺構と遺物

中世以降の遺構と遺物及び時期不明の遺構と遺物について記述する。遺構は方形竪穴遺構1基，火葬土坑1基，井戸跡9基，土坑111基が確認されている。

(1) 方形竪穴遺構

第2号方形竪穴遺構（第45～47図）

位置 調査1区のF 7 j6区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.96m，短軸1.92mの長方形で，主軸方向はN - 14° - Eである。壁高は21～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，軟質である。

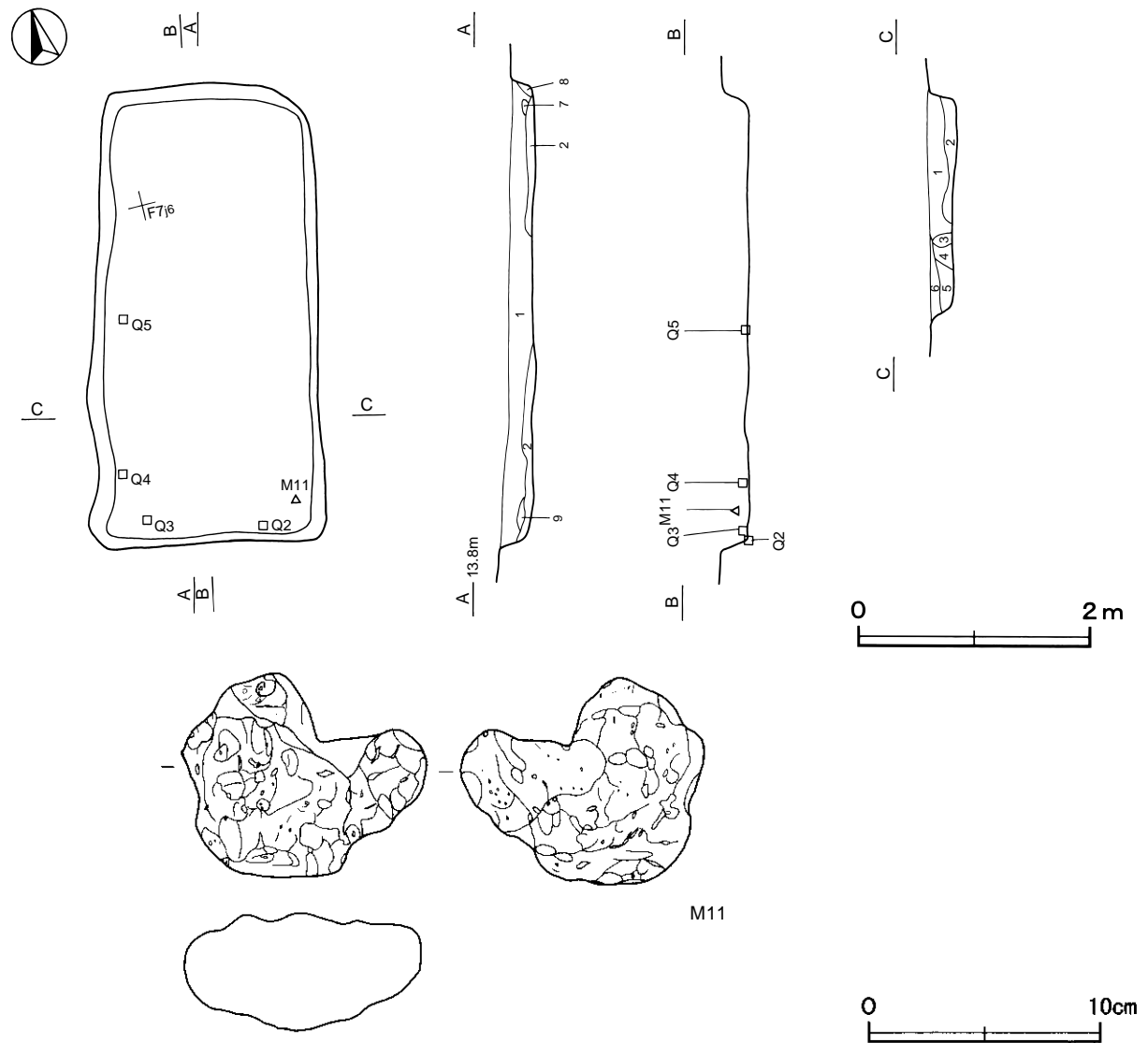
覆土 9層からなる。ロームブロックを多量に含みブロック状の堆積状況を呈しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

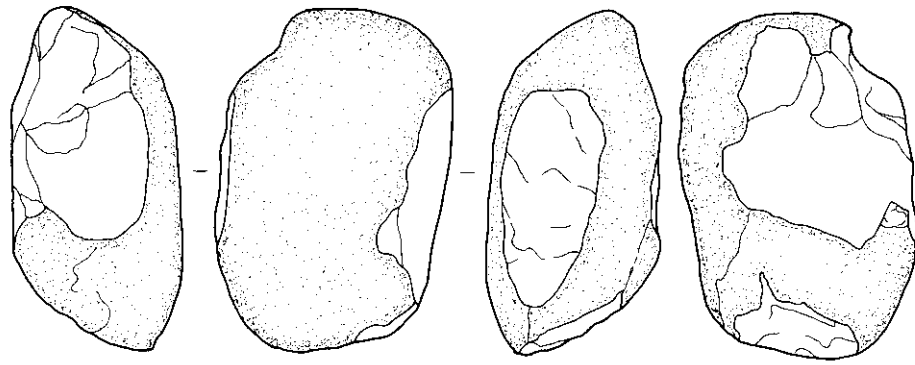
1 褐色	ロームブロック多量	6 極暗褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子多量
3 明褐色	ロームブロック多量	8 褐色	ロームブロック少量
4 明褐色	ロームブロック中量	9 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5 明褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片7点（坏類3，高台付坏1，甕類3），須恵器片8点（坏類5，高台付坏1，甕2），石器・石製品4点（不明），鉄滓1点が出土している。Q2は南東コーナー部の床面，Q3，4は南西コーナー，Q5は西壁際，M11は南東コーナー部の覆土下層から出土している。土器は，いずれも混入によるものと考えられ，細片のため，図示することはできなかった。

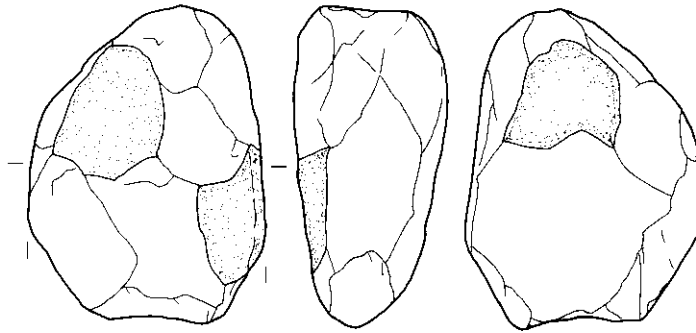
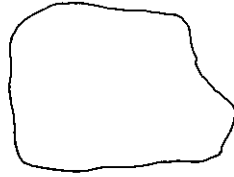
所見 時期は，判断できる出土土器がなく，不明である。



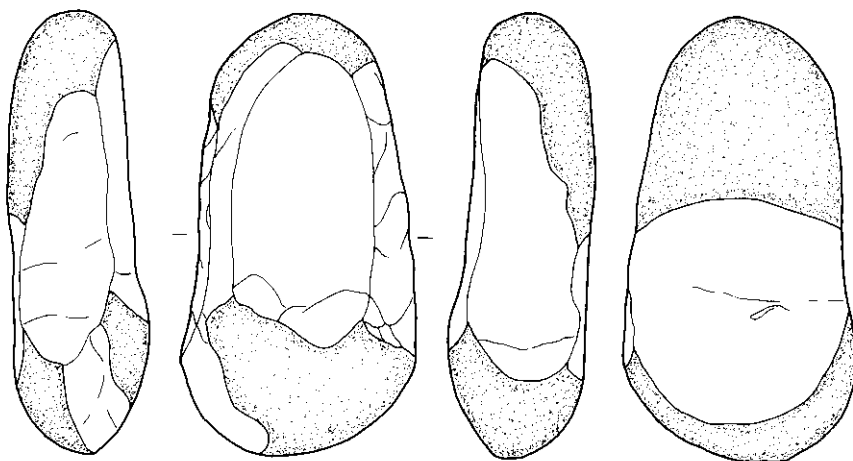
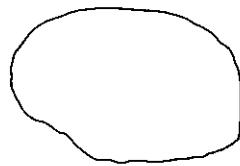
第45図 第2号方形竪穴遺構・出土遺物実測図



Q2



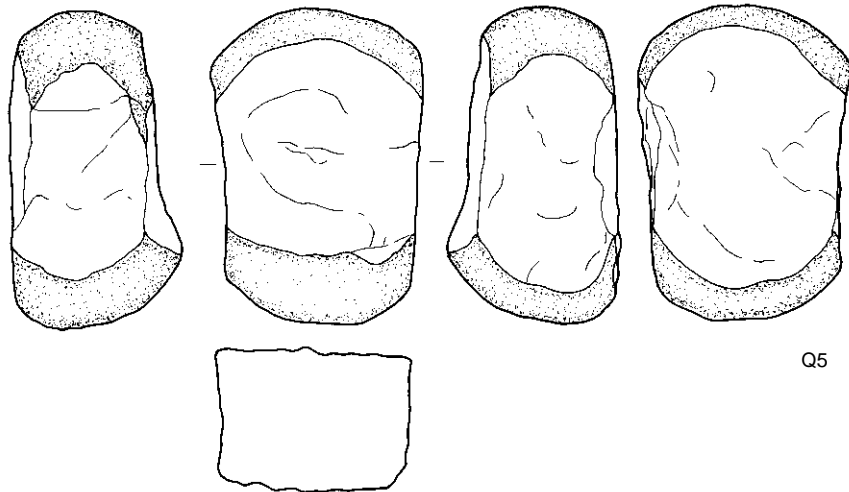
Q3



Q4



第46図 第2号方形竖穴遺構出土遺物実測図(1)



第47図 第2号方形竪穴遺構出土遺物実測図(2)

第2号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第45~47図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	不明石製品	18.3	12.7	9.3	1620	安山岩	4面に削り加工 礫面あり 用途不明	南東コーナー部床面	PL12
Q3	不明石製品	(17.0)	12.7	8.1	(1270)	安山岩	3面に削り加工 礫面あり 用途不明	南西コーナー部下層	PL12
Q4	不明石製品	23.4	12.8	7.9	1430	安山岩	4面に削り加工 礫面あり 用途不明	南西コーナー部下層	PL12
Q5	不明石製品	16.8	11.5	9.3	1510	安山岩	4面に削り加工 礫面あり 用途不明	西壁際下層	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
M11	椀状滓	8.7	10.5	5.0	500	着磁性あり	南東コーナー部下層	

(2) 火葬土坑

第1号火葬土坑 (SK283) (第48図)

位置 調査1区のG7a4区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 T字状を呈している。燃烧部は長軸1.06m、短軸0.57mの隅丸長方形で、長軸方向はN-17°-Eである。深さは10~20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。通気溝は燃烧部の西壁中央部にあり、燃烧部と直交し、長さ1.43m、最大幅0.66m、深さ22cmである。通気溝は燃烧部より深く掘り込まれ、燃烧部の底部は火熱を受けて赤変している。

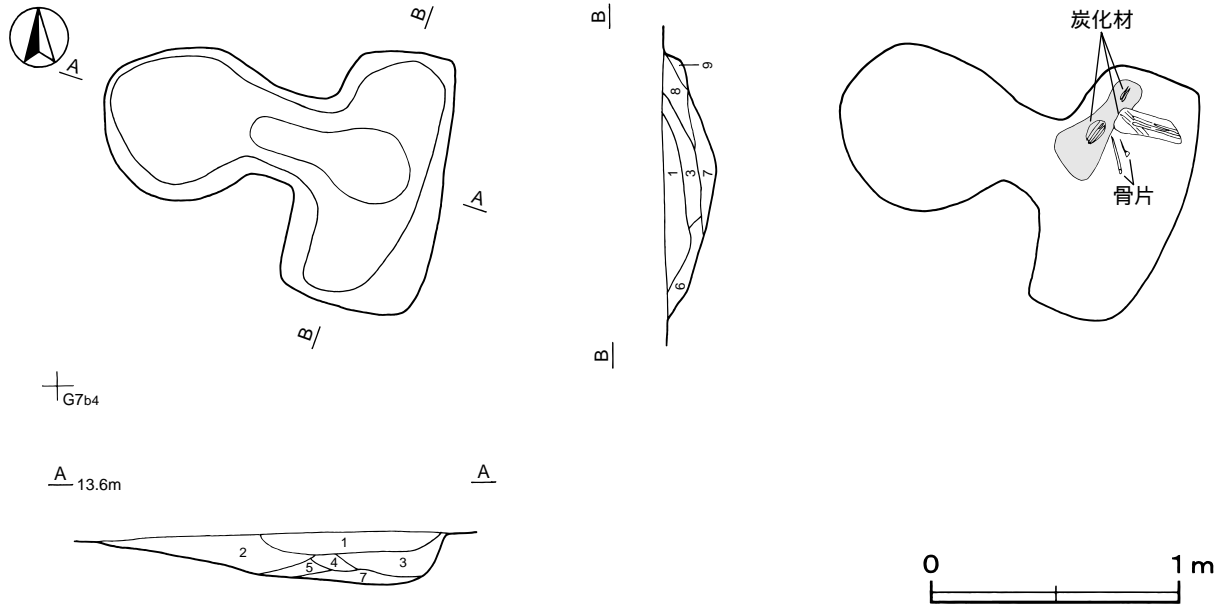
覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を呈する人為堆積である。第4・7~9層は骨粉を含んでいる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量	6	黒褐色	炭化物・ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	炭化物・骨粉少量, ローム粒子・焼土粒子微量
4	黒褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・骨粉少量, 炭化粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・骨粉少量
			9	暗赤褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子・骨粉少量

遺物出土状況 燃焼部の北壁寄りの覆土下層から底面にかけて、骨片や焼土及び炭化材が出土している。

所見 骨片・焼土・炭化材が出土し、底面が赤変していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。また、細骨片が多く出土しているが、主な骨は取り出されたと考えられる。調査区内では、火葬骨を埋葬した墓は確認されておらず、関連する墓域は不明である。時期は、遺構の形状から中世と考えられる。

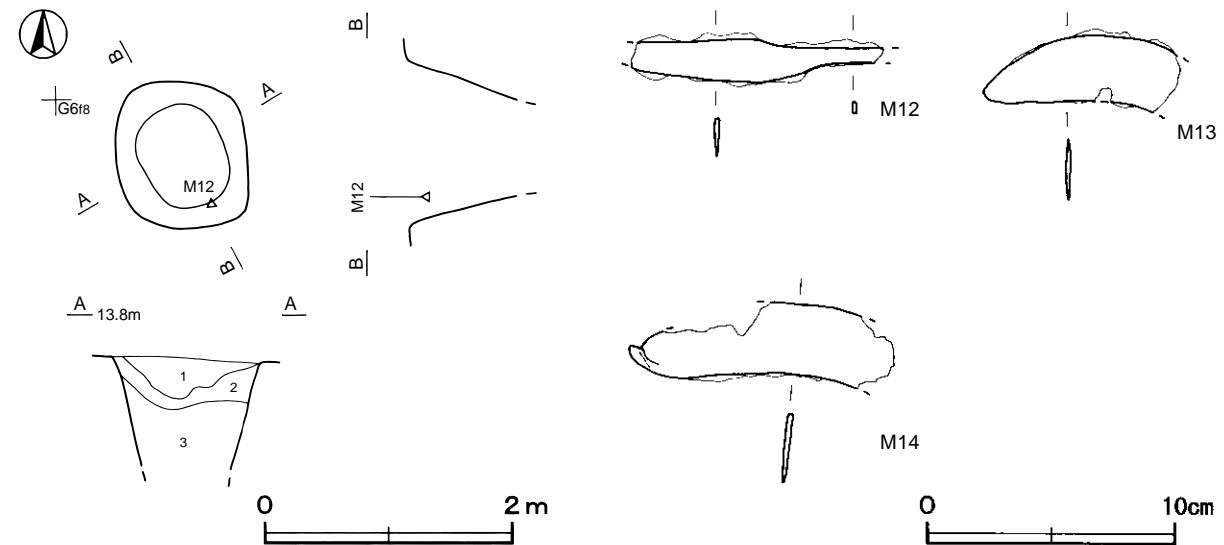


(3) 井戸跡

第14号井戸跡 (第49図)

位置 調査1区のG 6 f8区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径1.16m，短径1.06mの円形である。湧水のため確認できた深さは0.76mである。



覆土 3層確認された。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量,ロームブロック
微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片12点(坏類4,甕類8),須恵器片1点(蓋),鉄器3点(刀子1,鎌2)が出土している。M12は覆土上層から, M13・M14は覆土中から出土している。土器は,いずれも細片で図示することはできなかった。遺物は,埋土へ混入したものと考えられる。

所見 時期は,規模や形状から,中世の可能性も考えられるが,本跡に伴う出土土器がないため,不明である。

第14号井戸跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀子	(10.3)	1.7	0.2	(11.5)	鉄	切先・茎尻欠損 両側 両側とも緩やか	上層	PL11
M13	鎌	(8.0)	2.7	0.2	(12.6)	鉄	刃部先端残存	覆土中	PL11
M14	鎌	(10.7)	2.8	0.3	(19.0)	鉄	端部欠損	覆土中	PL11

第15号井戸跡 (第50図)

位置 調査1区のG7f2区で,標高13mの台地の縁辺部に位置している。

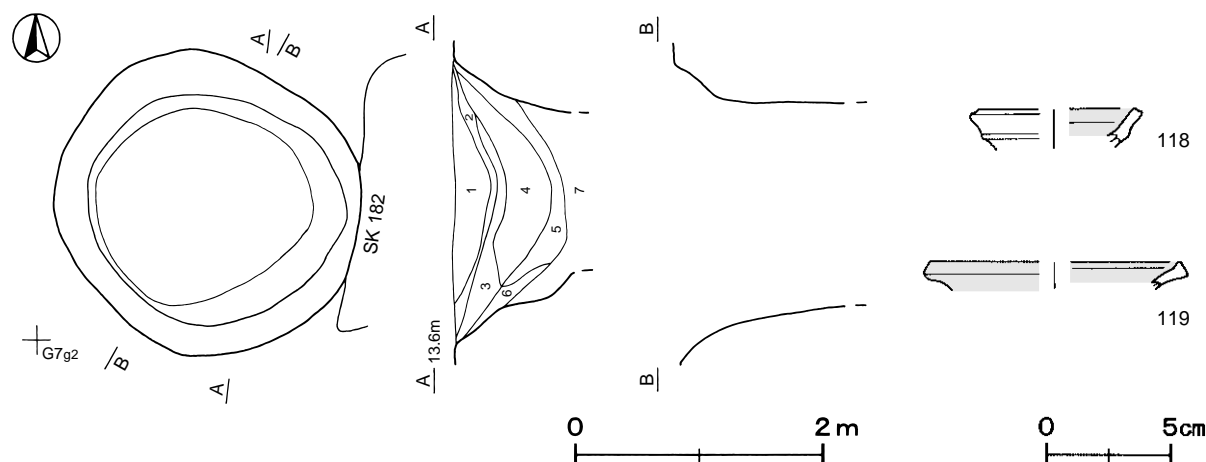
重複関係 第182号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.50m,短径2.40mの円形である。湧水のため確認できた深さは1.10mである。

覆土 7層確認された。ロームブロックを含み,不規則な堆積状況を呈していることから,人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量(小ブロック含む) |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック・焼土粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量(大ブロック含む) | 7 黒褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | | |



第50図 第15号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片24点(甕類), 須恵器片8点(坏類), 灰釉陶器片2点(長径瓶), 石器・石製品17点(石臼カ1, 不明16)が出土している。118・119とも覆土中から出土している。遺物は、いずれも細片で、埋土への混入または、埋め戻しの際の投棄によるものと考えられる。

所見 中・近世の墓坑の可能性ある第182号土坑を掘り込んでおり、時期は、中・近世以降と考えられる。

第15号井戸跡出土遺物観察表 (第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
118	灰釉陶器	長頸瓶	[62]	(1.6)	-	緻密	灰白	良好	内面施釉	覆土中	5%
119	灰釉陶器	長頸瓶	[100]	(1.1)	-	緻密	浅黄	良好	内外面施釉	覆土中	5%

第16号井戸跡 (第51図)

位置 調査1区のG7d1区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径1.86m, 短径1.75mの円形である。湧水のため確認できた深さは0.80mである。

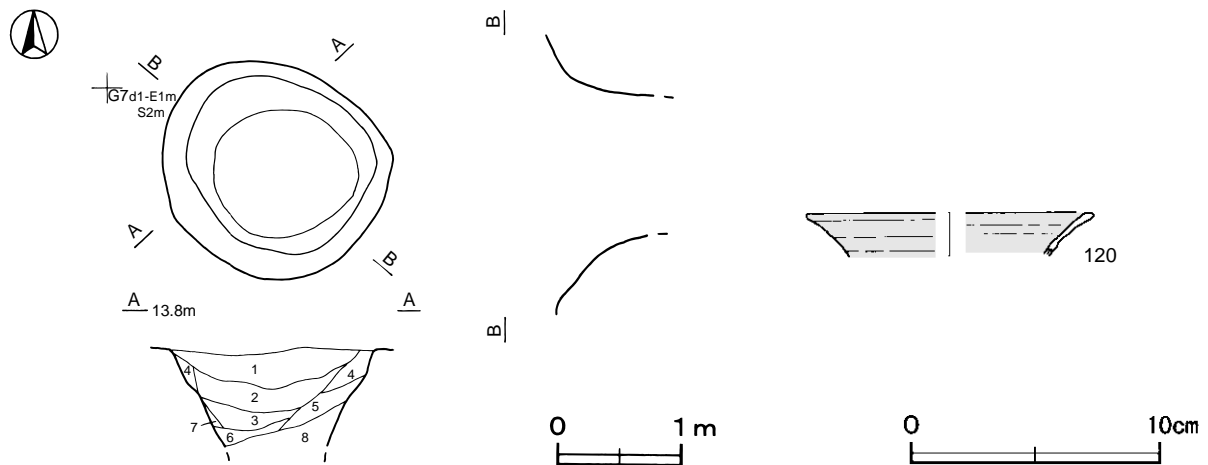
覆土 8層確認された。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------------|---|-----|--------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 (1より明度は高く, 彩度が低い) | 6 | 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 8 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片188点(坏類40, 皿2, 甕類146), 須恵器片35点(坏類10, 蓋2, 瓶1, 甕22), 灰釉陶器片1点(椀), 石器・石製品18点(不明)が出土している。120は覆土中から出土している。遺物は覆土上層に集中しており、いずれも細片で、埋土への混入または、埋め戻しの際の投棄によるものと考えられる。

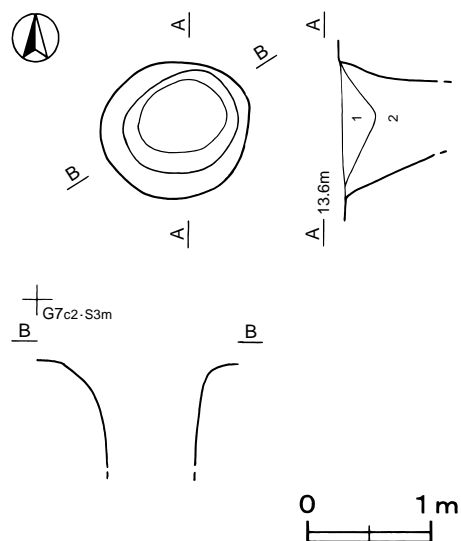
所見 中・近世の墓坑の可能性ある土坑群に隣接していることから、それに伴う井戸の可能性が考えられる。



第51図 第16号井戸跡・出土遺物実測図

第16号井戸跡出土遺物観察表 (第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
120	灰釉陶器	椀	[11.4]	(1.7)	-	緻密	灰白	良好	内外面施釉	覆土中	5%



第52図 第17号井戸跡実測図

第17号井戸跡 (第52図)

位置 調査1区のG7c2区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径1.23m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。湧水のため確認できた深さは0.76mである。

覆土 2層確認された。ローム土を含み、不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類)、須恵器片1点(甕)、鉄滓4点が出土している。土器は、いずれも細片で図示することはできなかった。遺物は、埋土へ混入したものと考えられる。

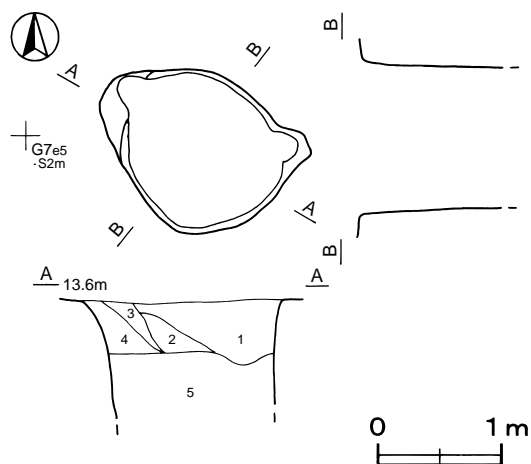
所見 中・近世の墓坑の可能性がある土坑群に隣接していることから、それに伴う井戸の可能性が考えられる。

第18号井戸跡 (第53図)

位置 調査1区のG7e5区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径1.55m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-48°-Wである。湧水のため確認できた深さは0.95mである。

覆土 5層確認された。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。



第53図 第18号井戸跡実測図

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 黒色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片20点(坏類6、甕類14)、須恵器片21点(坏類3、高台付坏2、蓋3、甕13)、鉄滓1点が出土している。土器は、いずれも細片で図示することはできなかった。遺物は、埋土へ混入したものと考えられる。

所見 中・近世の墓坑の可能性がある土坑群に隣接していることから、それに伴う井戸の可能性が考えられる。

第19号井戸跡 (第54図)

位置 調査2区のF8i2区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径2.05m、短径2.00mの円形である。湧水のため確認できた深さは1.08mである。

覆土 4層確認された。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

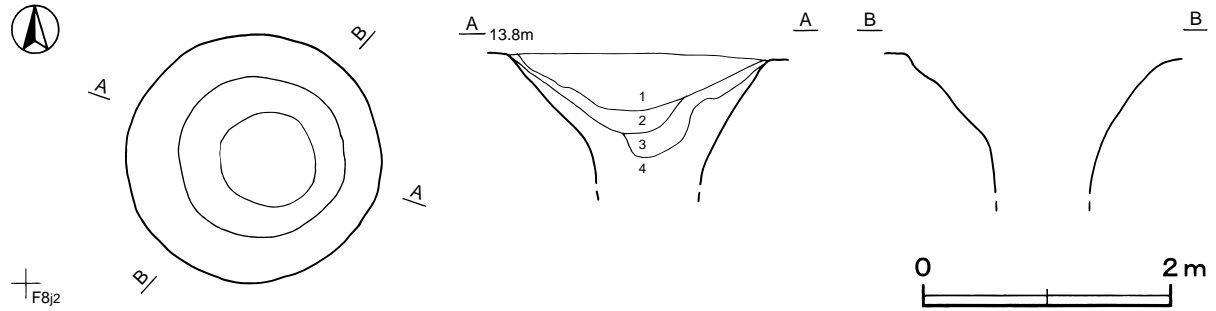
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック中量

3 褐色 ロームブロック多量
4 褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片 9 点 (甕類), 須恵器片 4 点 (高台付坏 1, 盤 1, 甕 2) が出土している。土器は, 埋土へ混入したものと考えられ, いずれも細片で図示することはできなかった。

所見 時期は, 規模や形状から, 中世の可能性も考えられるが, 本跡に伴う出土土器がないため, 不明である。



第54図 第19号井戸跡実測図

第20号井戸跡 (第55図)

位置 調査 2 区の F 8 e6 区で, 標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径1.40m, 短径1.18mの楕円形で, 長径方向は N - 35° - E である。湧水のため確認できた深さは1.46mである。

覆土 3層確認された。ロームブロックを含み, 不規則な堆積状況を呈していることから, 人為堆積と考えられる。

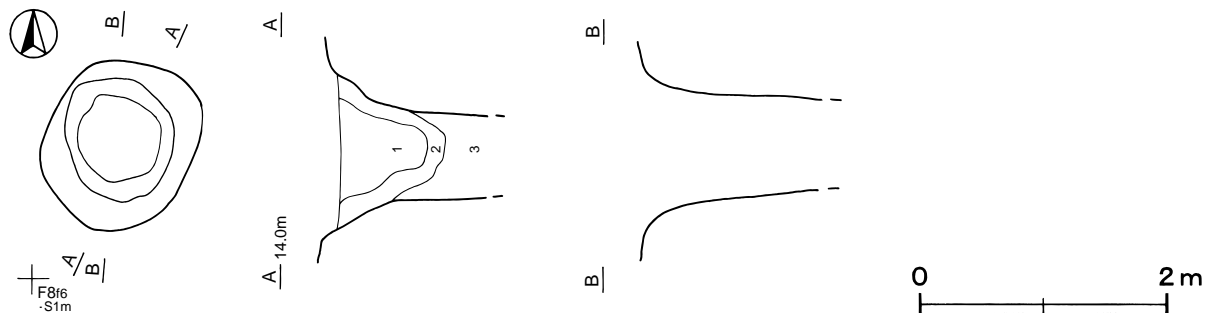
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片20点 (坏類 4, 甕類16), 須恵器片 4 点 (坏類) が出土している。土器は, 埋土へ混入したものと考えられ, いずれも細片で図示することはできなかった。

所見 時期は, 規模や形状から, 中世の可能性も考えられるが, 本跡に伴う出土土器がないため, 不明である。



第55図 第20号井戸跡実測図

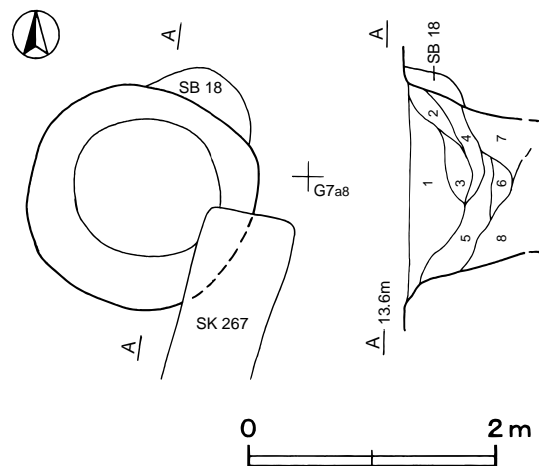
第21号井戸跡 (第56図)

位置 調査 1 区の G 7 a7 区で, 標高13mの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第15・18号掘立柱建物跡を掘り込み、第267号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.90m、短径1.80mの円形である。湧水のため確認できた深さは0.90mである。

覆土 8層確認された。ロームブロック及び粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。



土層解説			
1	黒褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量	
3	黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	
4	黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	
5	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量	
6	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	
7	黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	
8	黒褐色	ローム粒子微量	

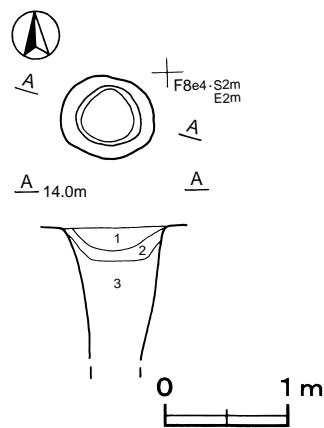
所見 時期は、中・近世の墓坑の可能性のある第267号土坑に掘り込まれているが、出土土器がないため不明である。

第56図 第21号井戸跡実測図

第22号井戸跡 (第57図)

位置 調査2区のF 8e4区で、標高13mの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長径0.75m、短径0.65mの楕円形で、長径方向はN-75°-Wである。湧水のため確認できた深さは1.06mである。



覆土 3層確認された。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説		
1	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点(甕類)、須恵器片1点(坏類)が出土している。土器は、埋土へ混入したものと考えられ、いずれも細片で図示することはできなかった。

所見 時期は、規模や形状から、中世の可能性も考えられるが、本跡に伴う出土土器がないため、不明である。

第57図 第22号井戸跡実測図

(4) 土坑

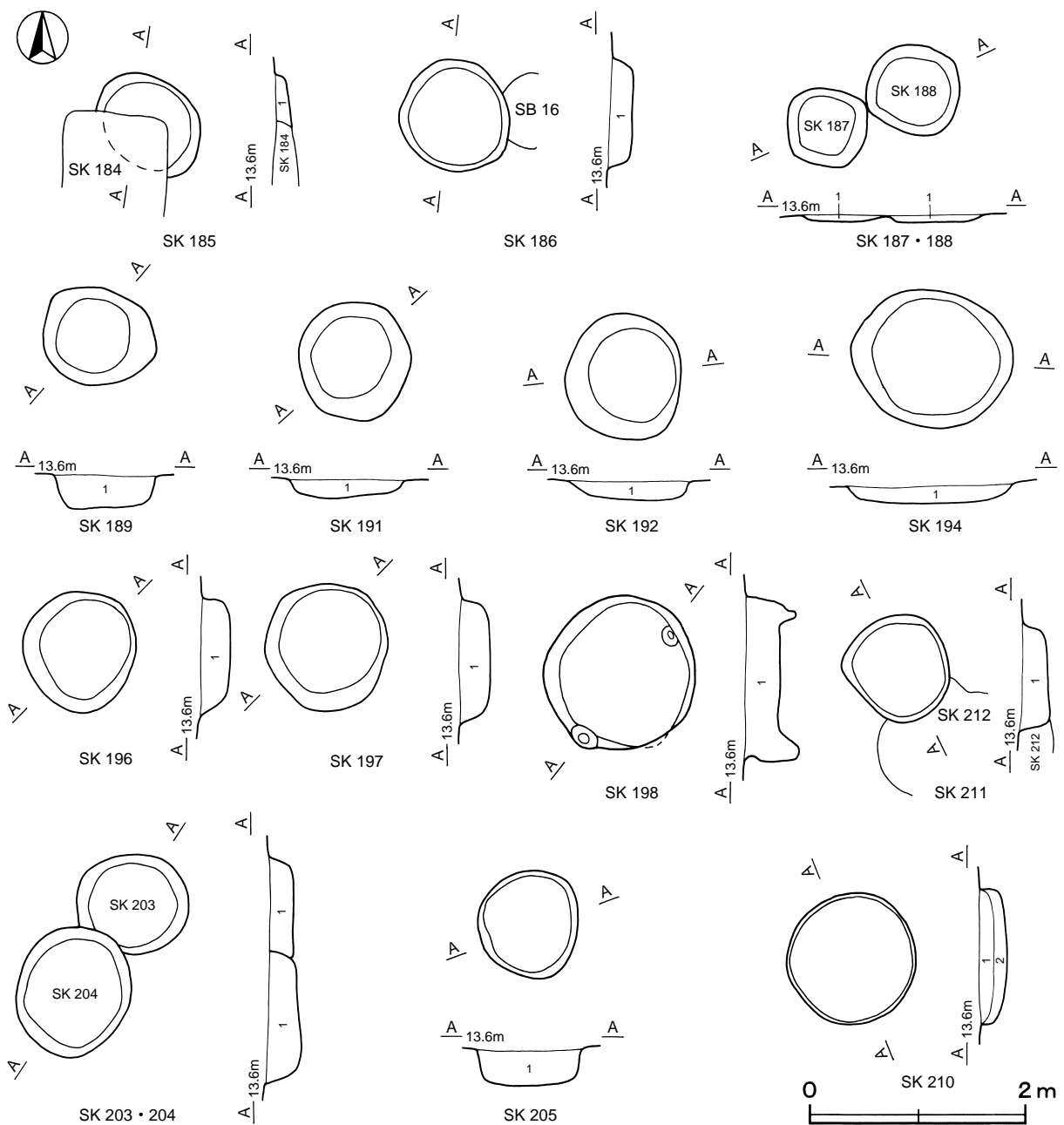
規模と形状から、4種類に分類した。1類は長径(軸)が1m前後、深さが20~30cmの円形又は楕円形を呈する土坑、2類は長軸1m以上で深さ20cmほどの長方形又は隅丸方形を呈する土坑、3類はピット状の土坑、4類は1~3類以外の土坑である。1類は、『羽黒遺跡』(註)のA・B・D類に、2類はC類に、3類はF類に、4類はE・G類に相当する。覆土は、いずれも人為堆積の様相を呈するものがほとんどで、遺物は少なく細片のため、詳細な時期や性格は不明である。

1類は64基で、1区の南側で多く確認されており、規模と形状及び群集している傾向を持っていることから、貯蔵穴や墓坑の可能性が考えられる。中には、上端がわずかにオーバーハングする形状のものが見られる。時期的には、2類に掘り込まれている例があることから、2類より遡ると考えられるが明確ではない。確認数は一番多い。

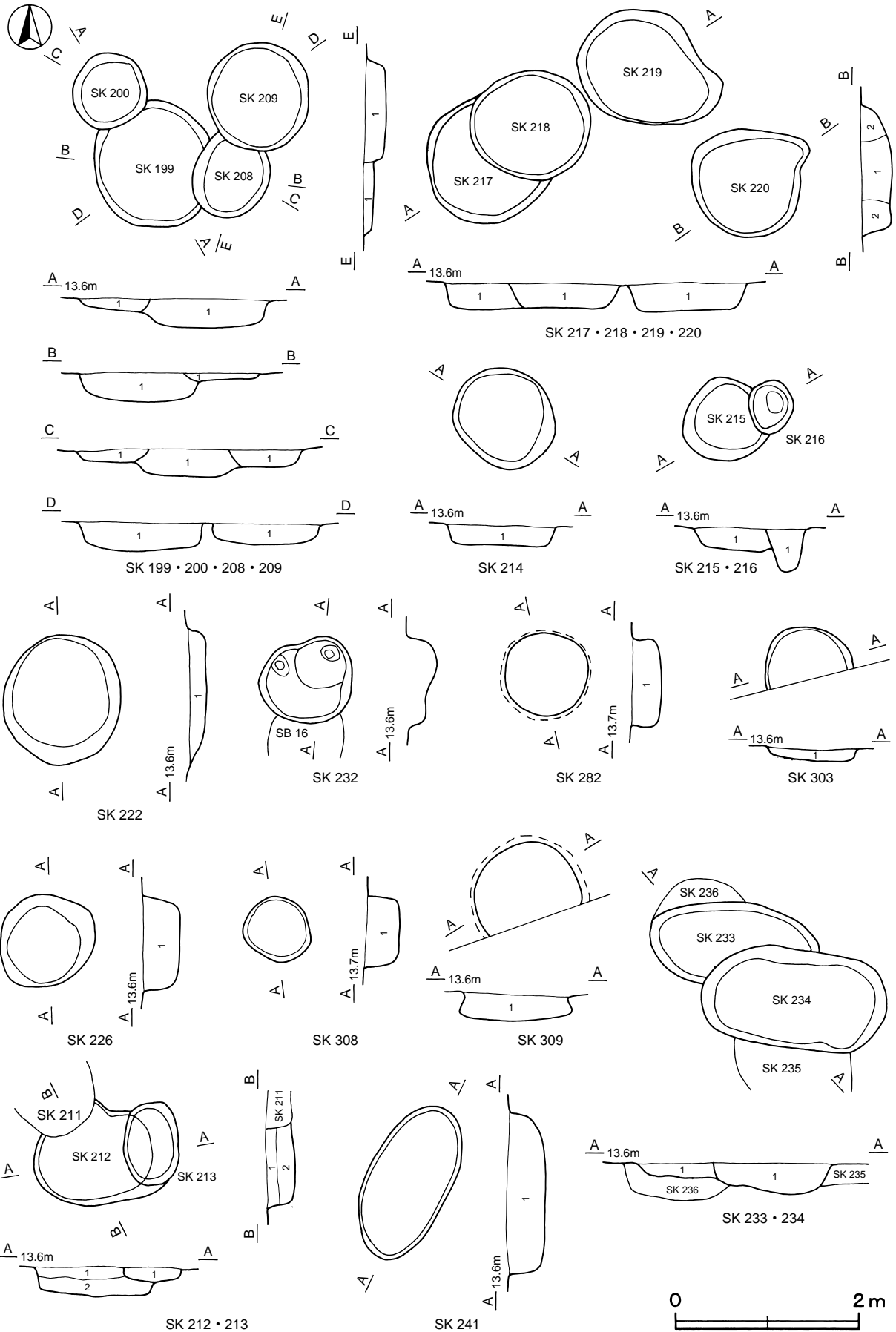
2類は19基で、1区の中央部と東側で多く確認されており、規模や形状から中・近世の墓坑の可能性が考えられる。1類に続いて確認数が多い。

3・4類は28基で確認数が少なく、特に集中するような場所は見られない。

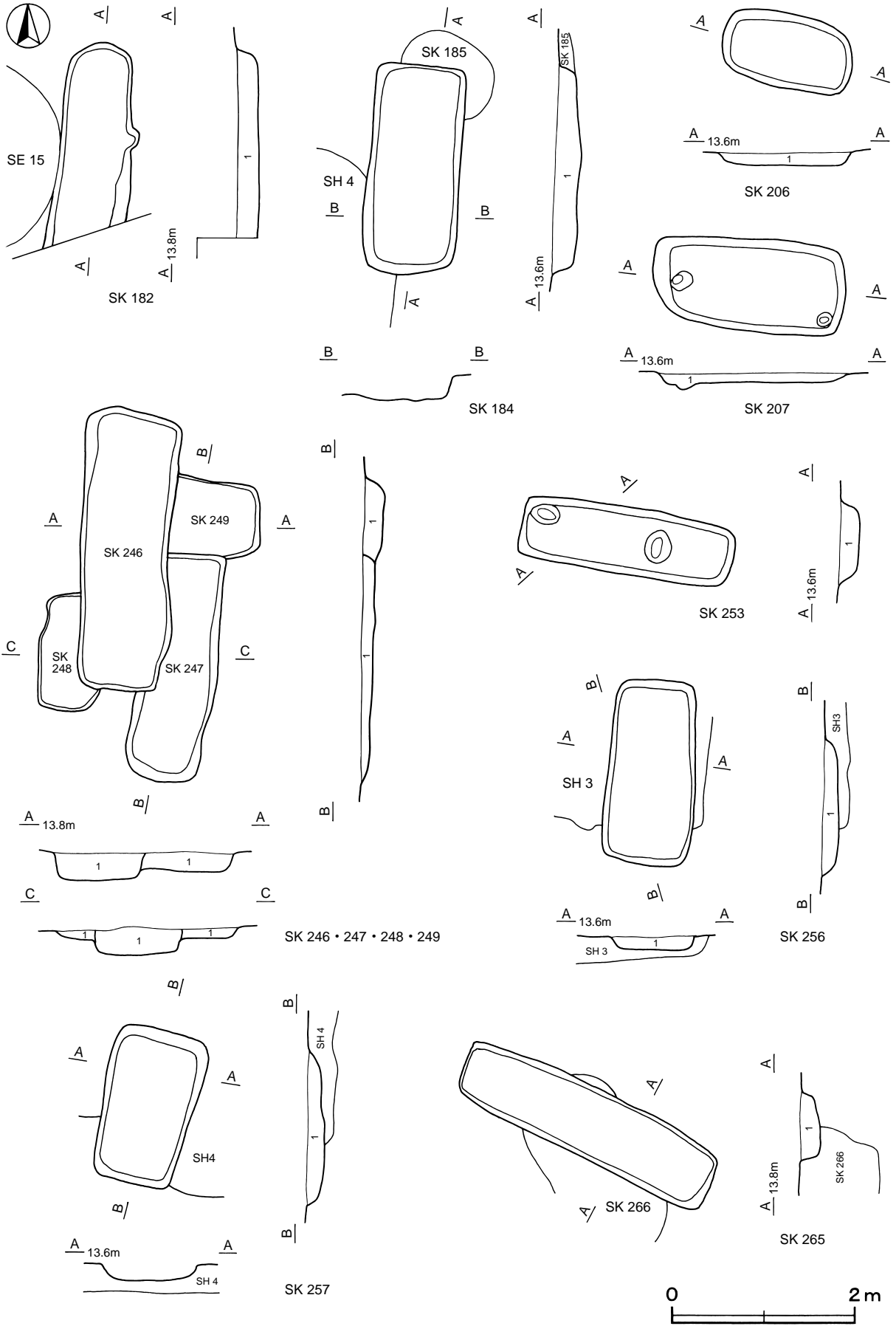
以下、1類、2類を中心に実測図（第58～61図）と土層解説を掲載する。その他については、本節末の一覧表に記載し、平面図は全体図（第64図）に示した。



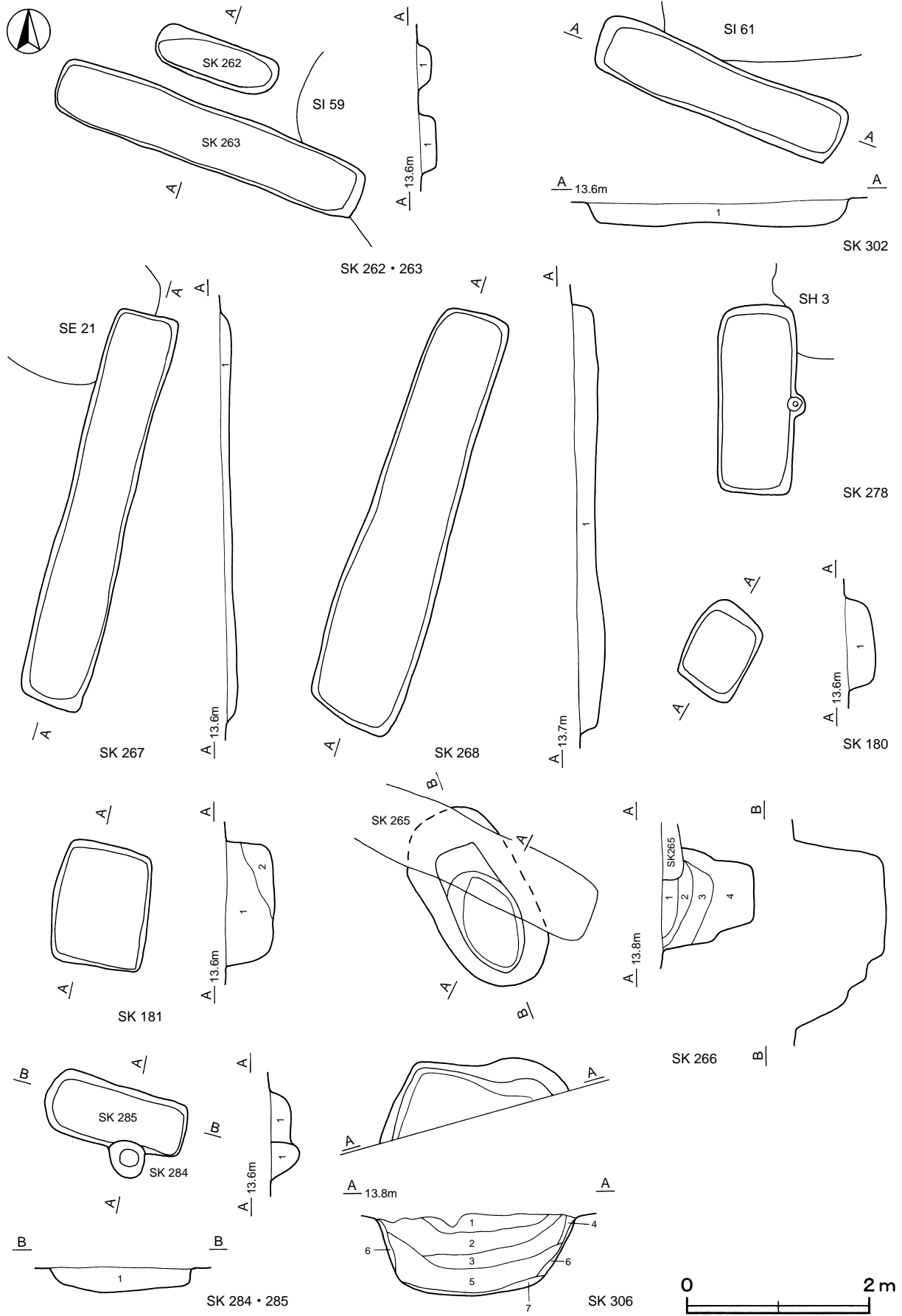
第58図 土坑実測図（1）



第59图 土坑実測図(2)



第60图 土坑实测图(3)



第61図 土坑実測図(4)

- 第180号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック中量
- 第181号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック中量
- 第182号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 第184号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第185号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第186号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第187号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 第188号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 第189号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 第191号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第192号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 第194号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 第196号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック中量
- 第197号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック微量
- 第198号土坑土層解説
1 黒色 ロームブロック少量
- 第199号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
- 第200号土坑土層解説
1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 第203号土坑土層解説
1 黒色 ローム粒子少量
- 第204号土坑土層解説
1 黒色 ロームブロック少量
- 第205号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック中量
- 第206号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 第207号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第208号土坑土層解説
1 黒褐色 炭化物中量, ローム粒子少量
- 第209号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第210号土坑土層解説
1 黒色 ロームブロック中量
2 黒色 ローム粒子微量
- 第211号土坑土層解説
1 褐色 ロームブロック多量
- 第212号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック多量
- 第213号土坑土層解説
1 極暗褐色 ロームブロック中量
- 第214号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第215号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック中量
- 第216号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第217号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック微量
- 第218号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 第219号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第220号土坑土層解説
1 褐色 ロームブロック多量
2 黒色 ロームブロック微量
- 第222号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
- 第226号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子微量
- 第233号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第234号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック微量
- 第241号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第246号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第247号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 第248号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第249号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
- 第253号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 第256号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子微量
- 第257号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子微量
- 第262号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第263号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
- 第265号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第266号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第267号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第268号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第282号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第284号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第285号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第302号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第303号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第306号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量

第308号土坑土層解説

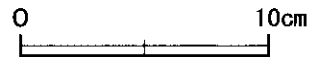
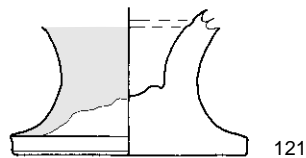
- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第309号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

註) 『羽黒遺跡』では, 土坑を以下の7種類に分類している。

- A類 径1m以上の円形
- B類 長軸1m以上の楕円形
- C類 長軸1m以上の長方形ないし隅丸長方形
- D類 長径(軸)50cm以上1m未満の円形ないし楕円形
- E類 長径(軸)50cm未満の円形ないし楕円形
- F類 柱穴
- G類 不定形



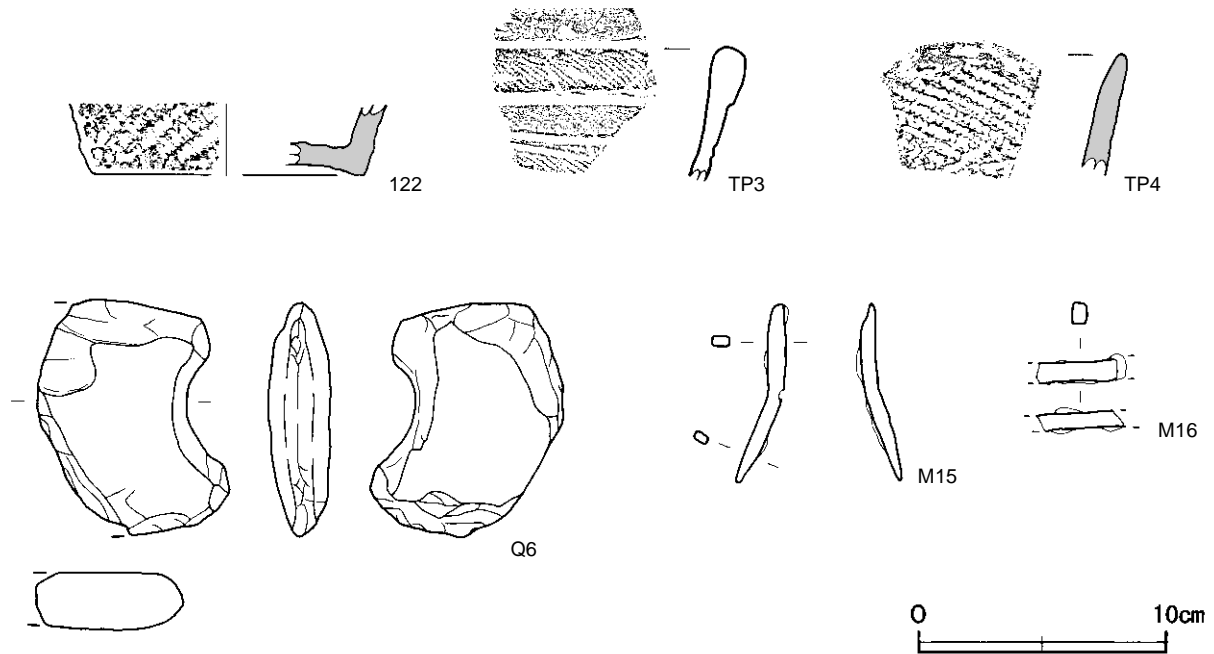
第62図 第309号土坑出土遺物実測図

第309号土坑出土遺物観察表 (第62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
121	陶器	花瓶	-	(5.7)	[9.5]	長石	灰白	普通	底部回転系切り 外面施釉	覆土中	10% 古瀬戸後期

(5) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について、実測図（第63図）と出土遺物観察表で記載する。



第63図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
122	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	[10.8]	長石・石英	赤褐	普通	L Rの単節縄文施文	S I 57	5% 前期
TP3	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線で区画しR Lの単節縄文施文	S I 57	5% PL11 後期
TP4	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英	明赤褐	普通	R Lの単節縄文施文	S I 64	5% PL11 前期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	打製石斧	9.3	(7.9)	2.5	(230)	ホルンフェルス	分銅型 一部欠損	S I 61	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	釘	7.1	0.7	0.4	7.5	鉄	断面長方形 頭部はつぶれている	F 7区	PL11
M16	不明	(3.7)	0.8	0.6	(5.5)	鉄	断面長方形の棒状	G 7 e2区	PL11

表6 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	出土遺物	時代	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)				
14	G 6 f8	N・0°	円形	1.16×1.06	(0.76)	人為	土師器, 須恵器, 鉄器	不明	
15	G 7 f2	N・0°	円形	2.50×2.40	(1.10)	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 石製品	不明	S K 182 本跡
16	G 7 d1	N・0°	円形	1.86×1.75	(0.80)	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 石製品	不明	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		覆土	出土遺物	時代	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)				
17	G 7 c2	N・60°・E	楕円形	1.23×1.10	(0.76)	人為	土師器, 須惠器, 鉄滓	不明	
18	G 7 e5	N・48°・W	楕円形	1.55×1.20	(0.95)	人為	土師器, 須惠器, 鉄滓	不明	
19	F 8 i2	N・0°	円形	2.05×2.00	(1.08)	人為	土師器, 須惠器	不明	
20	F 8 e6	N・35°・E	楕円形	1.40×1.18	(1.46)	人為	土師器, 須惠器	不明	
21	G 7 a7	N・0°	円形	1.90×1.80	(0.90)	人為	-	不明	S B 15・18 本跡 S K 267
22	F 8 e4	N・75°・W	楕円形	0.75×0.65	(1.06)	人為	土師器, 須惠器	不明	

表7 土坑一覧表

土坑番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(分類, 重複関係)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
180	G 6 f8	N・30°・E	長方形	1.00×0.72	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	4類
181	G 6 e8	N・10°・E	長方形	1.33×1.06	53	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	4類
182	G 7 f2	N・5°・E	長方形	(2.10)×0.85	26	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	2類, 本跡 S E 15
183	G 6 d7	N・15°・E	楕円形	1.25×0.75	35	外傾	平坦	人為	土師器片	4類
184	G 7 d4	N・5°・E	長方形	2.28×1.00	26	外傾	平坦	人為	土師器片	2類, S H 4・S K 185 本跡
185	G 7 d4	N・54°・W	[楕円形]	1.05×(0.55)	17	外傾	平坦	人為	土師器片	1類, 本跡 S K 184
186	G 7 c3	N・0°	円形	1.02	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類, S B 16 本跡
187	G 6 d8	N・0°	円形	0.75	5	緩斜	平坦	人為	土師器片	1類
188	G 6 d8	N・0°	円形	0.86×0.82	6	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類
189	G 6 c8	N・90°・E	円形	1.05×0.90	30	直立	平坦	人為	土師器片	1類
190	G 6 c9	N・35°・E	楕円形	0.70×0.55	48	直立	皿状	人為	土師器片	3類
191	G 6 d9	N・0°	円形	1.05×1.03	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類
192	G 6 d0	N・0°	円形	1.15×1.05	16	緩斜	平坦	人為	-	1類
194	G 7 f1	N・85°・W	楕円形	1.50×1.25	18	外傾	平坦	人為	-	1類
196	G 6 d0	N・46°・E	楕円形	0.90×1.08	28	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	1類
197	G 6 d0	N・0°	楕円形	1.12	28	直立	平坦	人為	-	1類
198	G 7 e1	N・0°	円形	1.40	32	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	1類
199	G 7 e1	N・0°	円形	1.30	32	外傾	平坦	人為	-	1類, 本跡 S K 200・208
200	G 7 e1	N・0°	円形	0.80	12	外傾	平坦	人為	-	1類, S K 199 本跡
201	G 7 c1	N・5°・E	[楕円形]	(0.36)×0.60	45	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	3類, 本跡 S K 202
202	G 7 c1	N・15°・E	楕円形	1.01×0.70	45	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	3類, S K 201 本跡
203	G 7 c1	N・65°・W	楕円形	1.03×0.90	23	外傾	平坦	人為	土師器片	1類, 本跡 S K 204
204	G 6 d0	N・28°・E	楕円形	1.20×1.06	30	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	1類, S K 203 本跡
205	G 7 c1	N・0°	円形	0.98×0.90	33	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	1類
206	G 7 c1	N・73°・W	長方形	1.45×0.80	13	外傾	平坦	人為	-	2類
207	G 7 c1	N・85°・W	長方形	2.10×1.00	12	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	2類
208	G 7 e1	N・23°・E	楕円形	(0.95)×0.85	12	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	1類, S K 199 本跡 S K 209
209	G 7 e2	N・0°	円形	1.14×1.10	22	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	1類, S K 208 本跡
210	G 7 f2	N・0°	円形	1.20	24	直立	平坦	人為	土師器片	1類
211	G 7 e2	N・0°	円形	0.98	24	外傾	平坦	人為	土師器片	1類, S K 212 本跡
212	G 7 e2	N・70°・E	楕円形	1.32×(0.91)	30	外傾	平坦	人為	-	1類, 本跡 S K 211・213
213	G 7 e2	N・10°・W	楕円形	0.90×0.60	14	外傾	平坦	人為	須惠器片	1類, S K 212 本跡
214	G 7 e2	N・0°	円形	1.08×1.05	20	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 須惠器片	1類
215	G 7 e2	N・0°	円形	0.90	24	外傾	平坦	人為	土師器片	1類, 本跡 S K 216
216	G 7 e2	N・20°・E	楕円形	0.58×0.44	46	外傾	皿状	人為	-	3類, S K 215 本跡
217	G 7 e3	N・0°	[円形]	(1.36)×(1.25)	28	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類, 本跡 S K 218
218	G 7 e3	N・90°	楕円形	1.32×1.18	28	外傾	平坦	人為	-	1類, S K 217 本跡
219	G 7 e3	N・60°・W	楕円形	1.55×1.30	30	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	1類
220	G 7 e3	N・55°・E	楕円形	1.35×1.20	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類
222	G 7 f4	N・0°	円形	1.42×1.30	20	直立	平坦	人為	-	1類
224	G 7 f4	N・0°	[円形]	1.32×(0.95)	26	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類

土坑 番号	位置	長軸(径) 方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (分類, 重複関係)
				長径(軸) × 短径(軸)(m)	深さ(cm)					
226	G 7 d5	N・0°	円形	1.05 × 1.00	42	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	1類
227	G 7 e6	N・40°W	楕円形	1.78 × 1.30	43	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片 須惠器片	1類
229	G 7 e6	N・0°	円形	1.02 × 0.95	23	直立	平坦	人為	土師器片	1類
230	G 7 e6	N・18°E	楕円形	1.40 × 1.25	26	直立	平坦	人為	-	1類
232	G 7 c2	N・45°E	楕円形	1.08 × 0.96	31	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類, S B16 本跡
233	G 7 d5	N・80°W	楕円形	1.85 × 0.86	16	緩斜	平坦	人為	-	1類, S K236 本跡 S K234
234	G 7 e5	N・80°W	楕円形	2.00 × 1.06	32	外傾	平坦	人為	-	1類, S K233・235 本跡
235	G 7 e5	N・0°	[円形]	1.30 × (0.70)	22	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類, 本跡 S K234
236	G 7 d5	N・0°	円形	(1.15)	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類, 本跡 S K233
237	G 7 d6	N・0°	円形	1.15 × 1.10	32	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	1類
238	G 7 c6	N・75°W	楕円形	1.30 × 1.10	14	外傾	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片 瓦質土器片	1類
239	G 7 d6	N・5°E	楕円形	1.30 × 1.00	12	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類, 本跡 S K240
240	G 7 d6	N・35°W	楕円形	1.00 × 0.70	22	緩斜	平坦	人為	-	4類, S K239 本跡
241	G 7 e7	N・21°E	楕円形	1.75 × 0.90	42	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類
242	G 7 d6	N・58°E	楕円形	1.35 × 1.10	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	1類
244	G 7 d8	N・0°	円形	1.35 × 1.30	20	外傾	平坦	人為	土師器片	1類
245	G 7 d7	N・0°	円形	0.90 × 0.85	25	外傾	平坦	人為	土師器片	1類, 本跡 S K281
246	G 7 d4	N・2°E	長方形	3.05 × 0.95	26	直立	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片	2類, S K247・248・249 本跡
247	G 7 d4	N・5°E	長方形	2.47 × 0.84	12	直立	平坦	人為	-	2類, S K249 本跡 S K246
248	G 7 d4	N・4°E	長方形	1.28 × 0.65	8	直立	平坦	人為	-	2類, 本跡 S K246
249	G 7 d4	N・80°W	[長方形]	(0.95) × 0.83	21	緩斜	平坦	人為	-	2類, 本跡 S K247 S K246
250	G 7 d7	N・0°	円形	1.00	28	直立	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片	1類, S K251 本跡
251	G 7 d7	N・0°	円形	(0.27) × 0.30	32	直立	平坦	人為	-	3類, 本跡 S K250
252	G 7 d7	N・19°E	楕円形	1.23 × 1.11	30	直立	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片 灰釉陶器片	1類
253	G 7 d8	N・82°W	長方形	2.30 × 0.75	20	外傾	平坦	人為	須惠器片	2類
255	G 7 a8	N・0°	楕円形	1.28 × 1.15	22	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	1類
256	G 7 d2	N・5°E	長方形	2.00 × 0.96	18	外傾	平坦	人為	-	2類, S H 3 本跡
257	G 7 d3	N・14°E	長方形	1.67 × 0.91	20	緩斜	平坦	人為	-	2類, S H 4 本跡
258	G 7 d3	N・63°W	楕円形	0.68 × 0.55	27	外傾	平坦	人為	-	3類, S H 4 本跡
259	G 7 d3	N・65°W	楕円形	0.56 × 0.50	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	3類, S H 4 本跡
260	G 7 d3	N・68°W	楕円形	0.34 × 0.30	36	外傾	平坦	人為	-	3類, S H 4 本跡
262	G 7 c8	N・70°W	長方形	1.40 × 0.47	14	外傾	平坦	人為	土師器片	2類
263	G 7 c8	N・70°W	長方形	3.45 × 0.65	16	直立	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片 不明鉄製品	2類, S I 59 本跡
264	G 7 d6	N・0°	[円形]	1.18 × (0.80)	25	外傾	平坦	人為	-	1類, 本跡 S K279
265	G 7 c8	N・67°W	長方形	2.95 × 0.70	20	直立	平坦	人為	-	2類, S K266 本跡
266	G 7 c8	N・30°W	[楕円形]	[2.00] × [1.10]	100	外傾	平坦	自然	-	4類, 本跡 S K265
267	G 7 a7	N・16°E	長方形	4.35 × 0.70	8	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	2類, S E 21 本跡
268	G 7 a8	N・26°E	長方形	4.67 × 0.95	28	直立	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片	2類
269	G 7 c5	N・0°	楕円形	1.15 × 1.02	13	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	1類, S K270 本跡
270	G 7 d5	N・0°	[円形]	1.26 × [1.20]	32	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	1類, 本跡 S K269
271	G 7 d6	N・40°W	楕円形	1.40 × 1.10	50	外傾	皿状	人為	-	1類, 本跡 S K272・273
272	G 7 d6	N・10°W	楕円形	0.70 × 0.40	60	直立	皿状	人為	-	3類, S K271 本跡 S K273
273	G 7 d6	N・0°	円形	0.70	52	外傾	皿状	人為	-	3類, S K271 S K272 本跡
274	F 8 g5	N・5°E	楕円形	1.60 × 1.20	10	緩斜	皿状	人為	土師器片	4類
275	F 8 g5	N・60°W	楕円形	1.80 × 1.20	30	直立	平坦	人為	-	4類
277	G 7 d3	N・0°	円形	0.96 × 0.95	36	外傾	平坦	人為	-	1類, S B16 本跡
278	G 7 d2	N・2°E	長方形	2.06 × 0.87	20	外傾	平坦	人為	縄文土器片 土師器片 須惠器片	2類, S H 3 本跡
279	G 7 d7	N・0°	円形	1.13 × 1.10	45	外傾	平坦	人為	土師器片, 灰釉陶器片	1類, S K264 本跡
280	G 7 d7	N・30°E	楕円形	0.40 × 0.35	42	直立	平坦	人為	-	3類
281	G 7 d7	N・35°W	隅丸方形	1.20 × 1.15	28	直立	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	1類, S K245 本跡
282	G 7 d0	N・0°	円形	0.96	28	内傾	平坦	人為	土師器片	1類
284	G 7 a4	N・0°	円形	0.40	33	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	3類, S K285 本跡
285	G 7 a4	N・70°W	長方形	1.58 × 0.67	24	直立	平坦	人為	-	2類, 本跡 S K284
289	G 7 d8	N・0°	円形	1.15	23	外傾	平坦	人為	-	1類
302	F 7 j6	N・68°W	長方形	2.88 × 0.65	30	緩斜	平坦	人為	土師器片	2類, S I 61 本跡
303	G 7 d9	N・0°	[円形]	(0.60) × 0.95	13	緩斜	平坦	人為	-	1類
304	G 7 d9	N・0°	[円形]	1.06 × (0.65)	28	緩斜	平坦	人為	-	1類, S K305 本跡

土坑 番号	位置	長軸(径) 方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(分類,重複関係)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
305	G 7 d9	N・0°	[円形]	(1.02)	40	外傾	平坦	人為	-	1類,本跡 S K 304
306	G 7 e8	N・25°E	[方形]	(1.70)×(0.84)	85	外傾	平坦	自然	土師器片,須恵器片,不明鉄製品	4類
308	G 8 a2	N・0°	円形	0.70	36	直立	平坦	人為	土師器片,須恵器片	1類
309	G 7 e6	N・0°	[円形]	(0.90)×1.30	28	内傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,陶器片	1類
310	G 7 d0	N・0°	[円形]	(0.60)×(0.60)	32	直立	平坦	人為	-	1類
311	F 7 h0	N・85°E	楕円形	1.08×0.76	52	直立	平坦	人為	土師器片,須恵器片	3類
312	F 7 i0	N・35°W	楕円形	0.86×0.62	86	外傾	皿状	人為	土師器片,須恵器片	3類
313	F 7 i0	N・10°W	楕円形	0.70×0.60	44	外傾	皿状	人為	土師器片	3類
314	G 7 d3	N・67°E	楕円形	0.36×0.20	20	外傾	皿状	人為	-	3類, S H 3 本跡
315	F 8 i3	N・43°W	楕円形	1.80×1.38	19	外傾	平坦	人為	-	4類, S B 19 本跡
316	F 8 h3	N・16°W	楕円形	0.62×0.48	45	外傾	皿状	人為	-	3類, S B 19 本跡
317	F 8 i4	N・90°	楕円形	0.70×0.60	56	外傾	皿状	人為	-	3類
318	F 8 i4	N・38°E	楕円形	0.90×0.52	59	外傾	皿状	人為	-	3類, S B 19 本跡

第4節 まとめ

今回の調査では、竪穴住居跡12軒、方形竪穴遺構3基、火葬土坑1基、井戸跡9基、土坑111基が確認された。調査面積は1,700㎡と限られた範囲の中ではあるが、主な遺構は時期ごとに3つのブロックを形成していることが確認できた。調査区の北東部は奈良時代、南西部は平安時代、そして中央部は中世以降を中心とした遺構が分布していた。以下、時代を追って遺跡の概要を述べ、まとめとする。なお、前回調査(平成12年度第1次調査及び平成13年度第2次調査)の結果を含めながらまとめていきたい。

1 旧石器時代から古墳時代

旧石器時代は、前回の調査で、細石刃核が出土しているが石器群は検出されていない。今回の調査でも遺構や遺物は確認されていない。

縄文時代は、前期を中心とする土器片が奈良時代以降の遺構に流れ込んで出土しているが、遺構は確認できなかった。前回の調査では、前期の竪穴住居跡2軒が確認されており、周辺には同時期の遺構が存在する可能性がある。

弥生時代の遺構や遺物は確認されなかった。今までの状況から、遺構が存在する可能性は低いと考えられる。

古墳時代は、前回の調査区で、前期14軒、前期または中期4軒、中期2軒、後期2軒の竪穴住居跡が確認されているが、今回の調査では確認されていない。

2 奈良時代

遺構は主に北東部に集中し、時期は7世紀末葉から8世紀前葉の竪穴住居跡7軒と、掘立柱建物跡4棟が確認された。

竪穴住居跡の推移については、第59・60・64号住居跡と第61・62・63・65号住居跡を比較すると、前者から出土している土器の方が、古墳時代の様相を残しているものが多く、時期的に先行すると考えられる。主軸方向で見ると、第59・60号住居跡はN-26°~29°-W、第61・63号住居跡はN-6°~7°-Wであり、このブロックの住居は、概ね、主軸方向が西に振れる住居から真北に近づく住居へと推移したようにとらえ

ることできる。

掘立柱建物跡は、すべて総柱建物跡で、第18号建物跡が第15号建物跡へ、第17号建物跡が第19号建物跡へ、それぞれ建て替えられたと考えられる。第15・18号掘立柱建物跡が南北棟、第17・19号掘立柱建物跡が東西棟で、桁行方向はほぼ直交しており、整然とした規格で配置された様子がうかがえる。その時期は、住居跡との重複関係から第15・18号掘立柱建物跡は8世紀中葉以降で、第17・19号掘立柱建物跡もほぼ同時期であり、長期間使用されたと考えられる。いずれも、羽黒遺跡で確認された掘立柱建物跡のなかでは大形であるといえる。

さて、当遺跡周辺は、773年に安倍猿嶋臣という姓を中央政府から賜った日下部氏（改賜姓は征夷事業への協力の見返りと考えられている）の本拠地の可能性が指摘されている¹⁾。かつて、当遺跡の南側に存在していた台古墳群²⁾も、7世紀前半に当地を本拠地として豪族の成長があったことを示しているとされ、8世紀中葉以降の掘立柱建物跡群は、当地で有力者として成長していたであろう日下部氏に関わるものであった可能性も十分に推測することができるであろう。

また、調査区の中央部では、第3・4号方形竪穴遺構が確認され、7世紀末葉から8世紀前葉の遺物が投棄されたような状態で大量に出土している。この時期の竪穴住居の廃絶に伴う遺物ではないかと考えている。第3・4号方形竪穴遺構は、いずれも本来の機能は不明である。

なお、前回の調査では8世紀後葉の住居跡も2軒確認されているが、今回は確認されていない。

3 平安時代（調査区の南西部）

遺構は主に南西部に集中し、8世紀前葉から9世紀中葉以前の竪穴住居跡1軒と9世紀後葉から10世紀前葉の竪穴住居跡4軒とが確認されている。この調査区は前回の調査区の北東際に隣接しており、前回調査の竪穴住居跡も含めて、9世紀後葉から10世紀前葉を中心に集落が形成されていたことがわかる。第50（前回調査区）・54・55号住居跡の時期は、10世紀前葉と考えられ、主軸方向はN - 43° - 48° - Eに収まっている。57号住居跡は主軸方向がN - 3° - Wであるが、同時期の10世紀前葉と考えられる。第56号住居跡は、それらよりやや遡り9世紀跡葉と考えられ、主軸方向はN - 71° - Eである。

なお、第58号住居跡は北壁に竈が確認されておらず、出土土器による時期も明確ではないが、前回の調査で確認された第28号住居跡が東竈で8世紀末葉以前、第53号住居跡が東竈と推定され8世紀後葉から9世紀前葉と考えられており、それらと同時期に存在した可能性がある。

また、調査区の中央部では第16号掘立柱建物跡が確認されているが、配置や規模が前回の調査で確認されている第4・8号掘立柱建物跡に近似しており、同時期の8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。9世紀後葉から10世紀前葉の集落の西側に、前回の調査で、8世紀後葉から9世紀前葉の竪穴住居跡が3軒確認されており（第28・49・51号住居跡）、第16号掘立柱建物跡との関連が想定される。

4 中世以降と時期不明の遺構について（調査区の中央部）

遺構は中央部に集中し、方形竪穴遺構1基、火葬土坑1基、井戸跡8基、土坑111基が確認されている。このうち火葬土坑については、遺構の形状等から中世と考えられる。ここでは、土坑と井戸跡について若干ふれておきたい。

確認された土坑と井戸跡は、出土遺物が少なく時期判断が困難であるが、その形状や配置から時期や性格を言うなら、第3節の(4)でふれたように、土坑の2類（長軸1m以上で、深さ20cmほどの長方形又は隅丸

方形) は中・近世の土坑墓であり、井戸跡の何基かは、それらに伴うものである可能性が考えられる。2類の土坑の出土遺物は、ほとんどが土師器片・須恵器片で、中・近世の遺物が出土しておらず、人骨片や骨粉等の出土もないため、積極的に中・近世の墓坑群であるとはいえないが、旧総和町内の香取東遺跡³⁾や本田山遺跡⁴⁾等、周辺遺跡の事例を考察すると、その可能性は十分に考えられる。

井戸跡は、9基確認されている。いずれも出土遺物は土師器や須恵器の細片がほとんどで、時期を明確にすることは困難である。形状は、断面形が円筒状か確認面へ開くもので、第15・16・17・18号井戸跡は前述したように中・近世の土坑墓とセットになる可能性も考えられる。

なお、中世の遺構については、平成9年に行われた県営圃場整備事業(大区画积水地区)に伴う羽黒・日下部遺跡の事前調査⁵⁾で、羽黒遺跡から14世紀末～15世紀初頭が下限と考えられる堀の一部が確認されている。北側に「堀ノ内」と呼ばれる小字名があり、「堀ノ内」を囲む堀の一部であると見られている。一辺100m以上の方形を呈する可能性も考えられ、物流・交通に関わる施設や武士の居館が存在した可能性も想定されている。堀が確認された地点は、今回調査区の中央部からは北東に200mほどの地点である。

5 小結

調査の結果、主に3期の遺構をブロックとして確認することができた。前回の調査では古墳時代前期と9世紀中～後葉に集落の画期が読みとれたが、今回の調査では、7世紀末葉から8世紀前葉及び10世紀前葉にも画期があることが明らかになった。また、奈良時代の遺構からは畿内系の土師器や湖西産と見られる須恵器、平安時代以降の遺構からは灰釉陶器の破片がわずかではあるが確認されており、当地の有力者の存在も連想させられる。

限られた調査範囲であるが、当遺跡では、古墳時代前期から奈良・平安時代まで、生活の場を移動しながら集落が営まれていたことが、より明確になった。

註

1) 総和町史編さん委員会 「総和町史 通史編 原始・古代・中世」総和町 2005年7月

2) 総和町史編さん委員会 「総和町史 資料編 原始・古代・中世」総和町 2002年3月

7基の古墳が存在していたと言われ、その一つから大正4年に7世紀前半に属すると思われる鉄製壺蓋や須恵器の平瓶、金銅装太刀などの副葬品が出土している。現在は、東京国立博物館に収蔵されている。

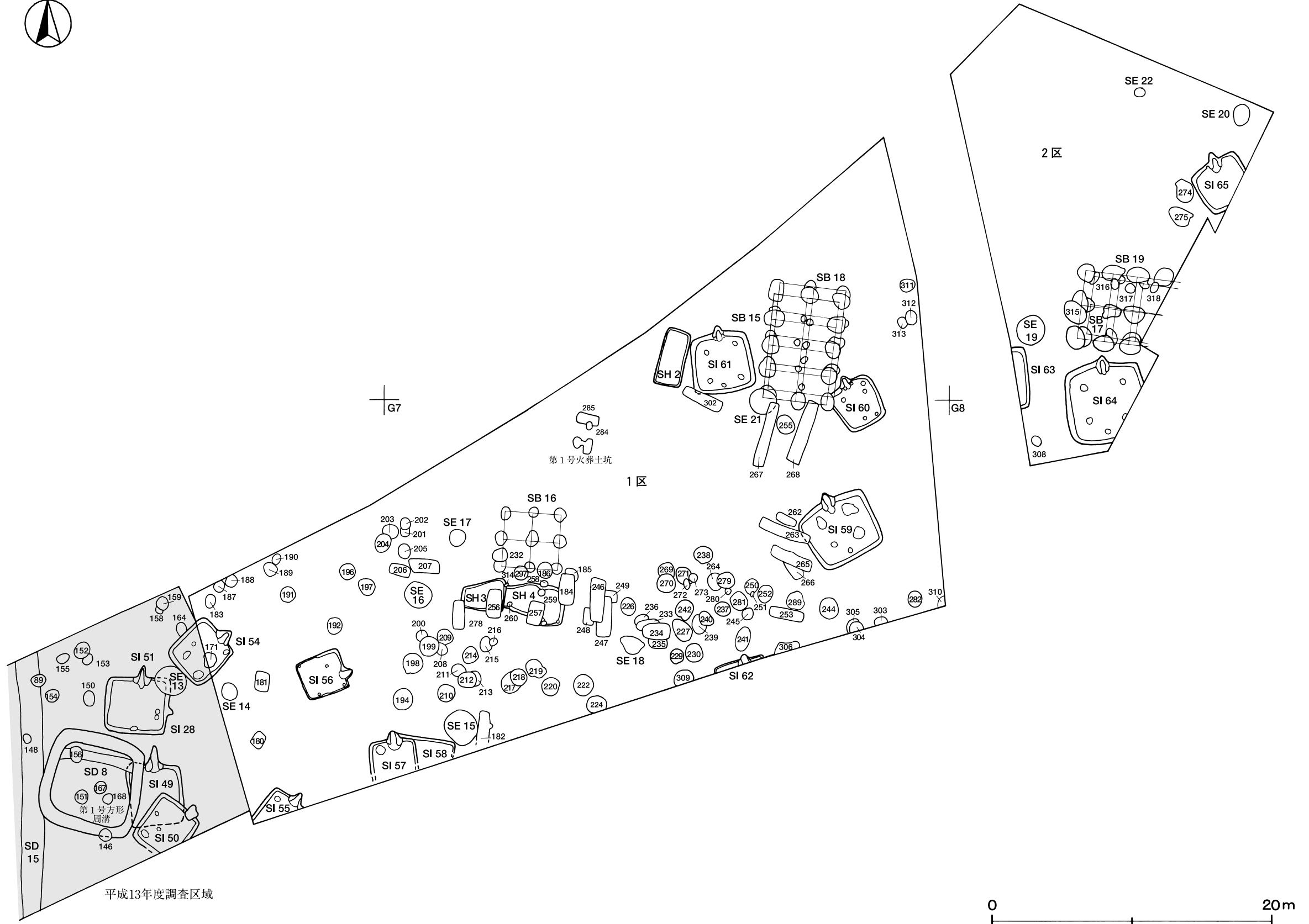
3) 新井和之ほか「香取西遺跡発掘調査報告」総和町教育委員会 1998年3月

4) 佐々木竜郎「茨城県猿島郡総和町 県営担い手育成畑地帯総合整備事業(上大野地区)埋蔵文化財発掘調査(第1号)報告書」『本田山遺跡』総和町教育委員会 2002年3月

佐々木竜郎「茨城県猿島郡総和町 県営担い手育成畑地帯総合整備事業(上大野地区)埋蔵文化財発掘調査(2級町道部分)報告書」『本田山遺跡』総和町教育委員会 2002年3月

両遺跡とも、規模や形状が当遺跡の2類に近似している土坑が確認されている。中・近世の遺物を伴うものがあり、規模や形状、主軸方向が規格性を持っていることから、土坑墓としてとらえられ、13～17世紀に形成された集団墓としては最終段階のものと見られている。

5) 西宮一男「羽黒遺跡確認調査報告」総和町教育委員会 1997年3月



第64図 羽黒遺跡遺構全体図

写真図版



平成16年度調査区近景（西から）

第55号住居跡竈
遺物出土狀況



第59号住居跡
完掘狀況



第60号住居跡
完掘狀況



PL 2



第60号住居跡竈
遺物出土状況



第61号住居跡
完掘状況



第65号住居跡
完掘状況

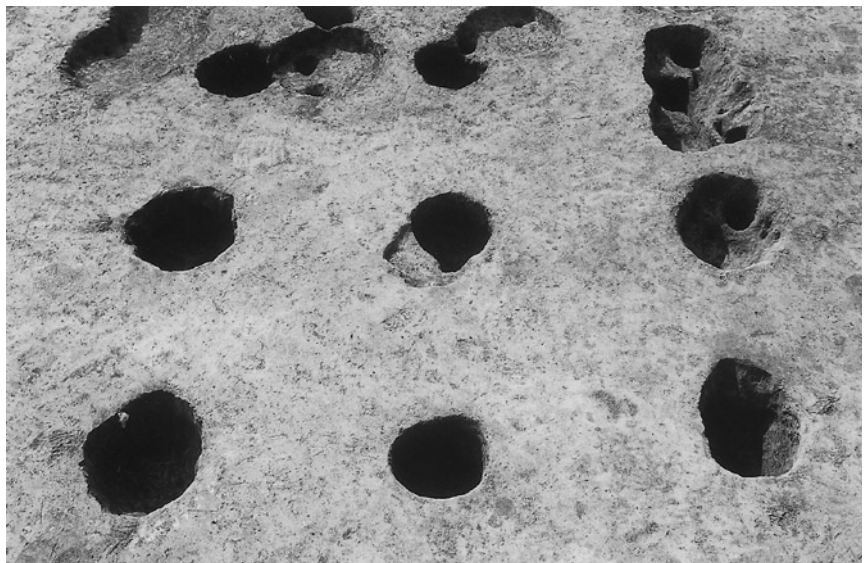
第 15 · 18 号
掘立柱建物跡
完 掘 状 況



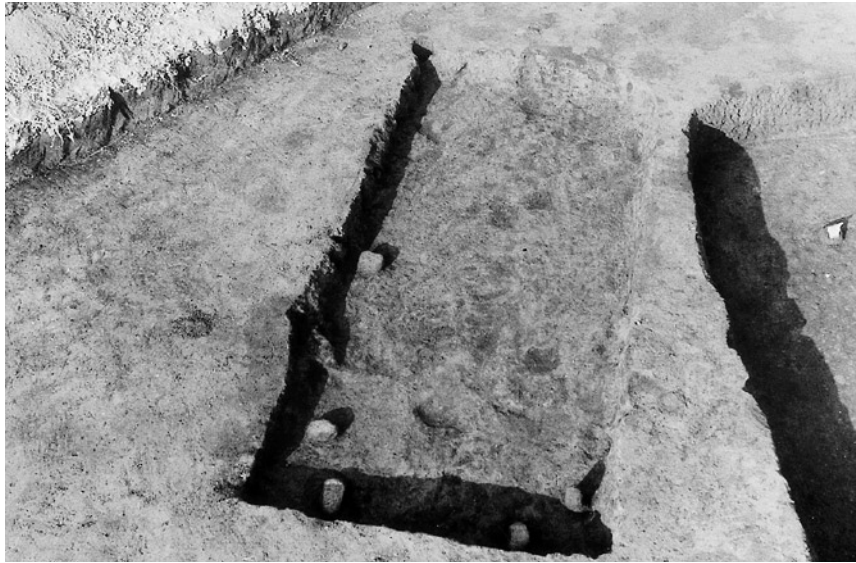
第 17 · 19 号
掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 16 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



PL 4



第2号方形竖穴遺構
完掘狀況



第2号方形竖穴遺構
遺物出土狀況



第3・4号
方形竖穴遺構
完掘狀況



第3号方形竖穴遺構
遺物出土狀況



第3号方形竖穴遺構
遺物出土狀況



第1号火葬土坑
炭火材，人骨
出土狀況

PL 6



第21号井戸跡
完掘状況



第197号土坑
(1類の土坑)
完掘状況



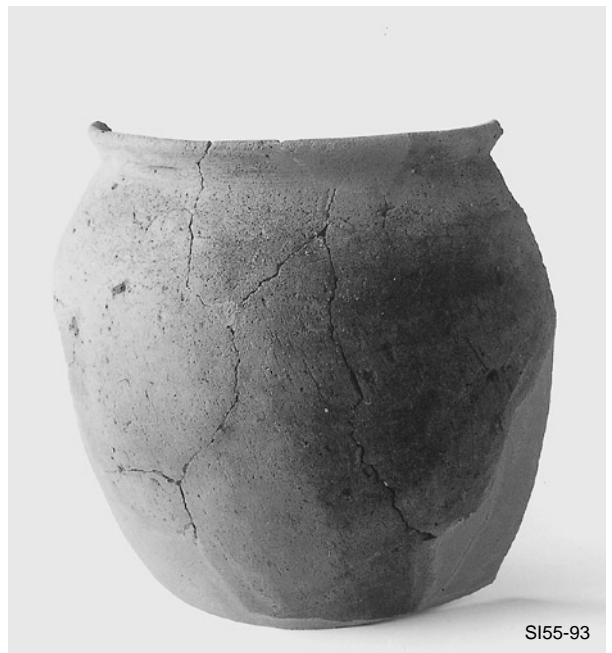
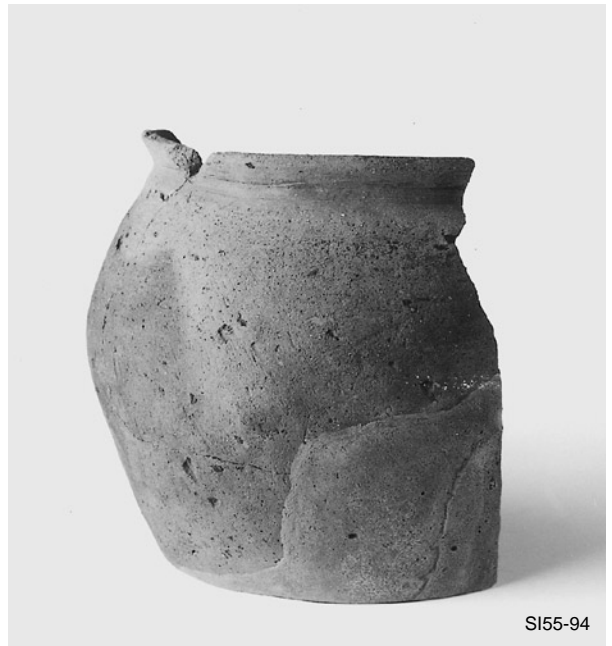
第244・246・247・248号
土坑(2類の土坑)
完掘状況



第56・57・61住居跡，第3・4号方形竪穴遺構出土遺物

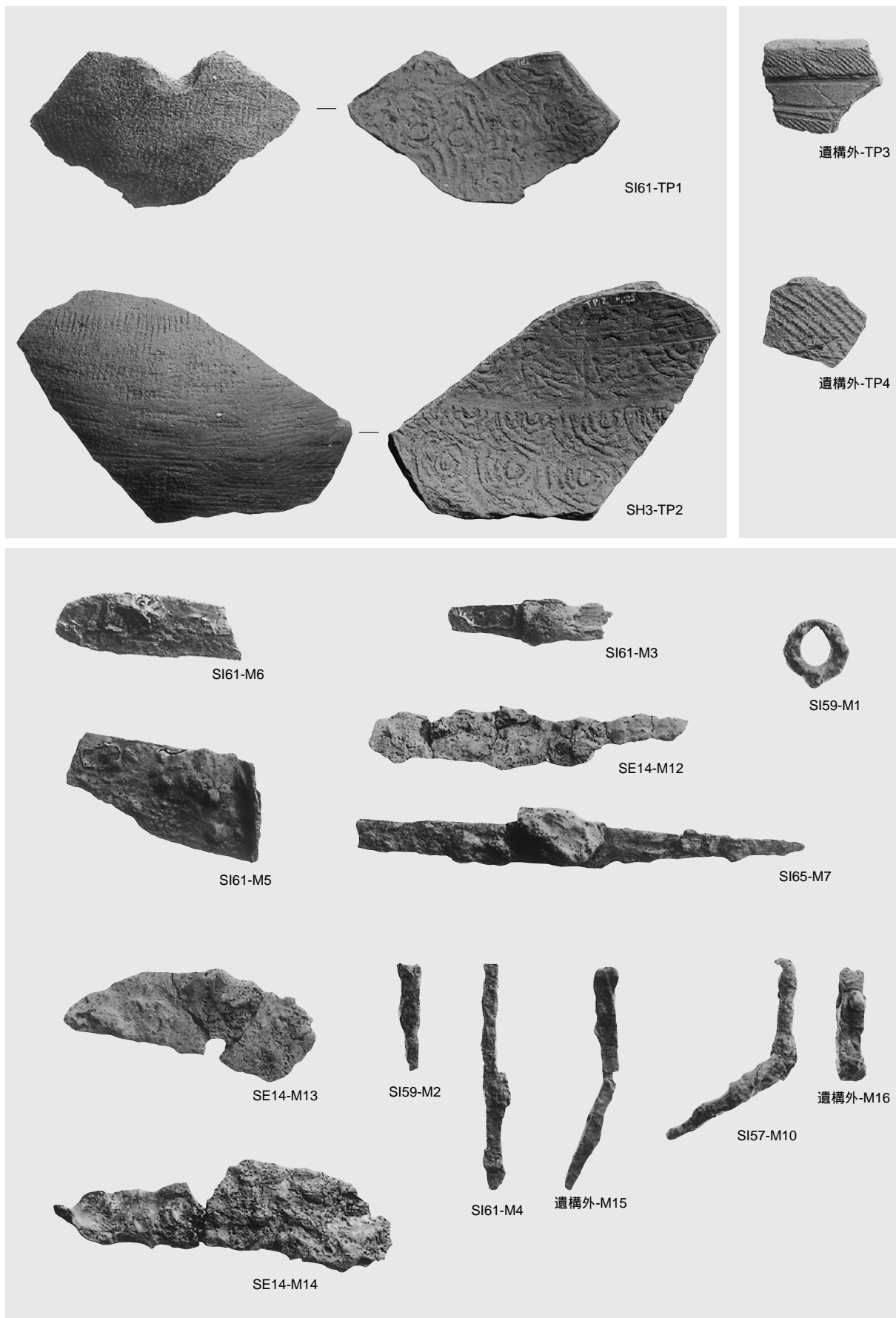


第56・57住居跡，第3・4号方形竖穴遺構出土遺物



第55・56号住居跡，第3号方形竖穴遺構出土遺物





第57・59・61・65住居跡，第3方形竪穴遺構，第14号井戸跡，遺構外出土遺物



第55号住居跡，第2号方形豎穴遺構，遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第262集

羽黒遺跡 2

一級河川女沼川河川改修工事事業地内
埋蔵文化財調査報告書 2

平成18(2006)年 3月20日 印刷
平成18(2006)年 3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310 - 0911 水戸市見和 1 丁目356番の 2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029 - 225 - 6587

印刷 (有)平電子印刷所
〒970 - 8024 いわき市平北白土字西ノ内13
T E L 0246 - 23 - 9051